日本語で書かれた EMCA 文献・論文リスト

最終更新：2018 年 12 月 15 日

三部 光太郎 会員（千葉大学大学院）作成

（※無断転載はご遠慮ください）

本リストの作成にあたっては、以下の文献に所収のリストも参照した。『Ethnomethodological Sociology』（1990/協力・作成：水川喜文）、『エスノメソドロジーの現実』（1992/作成：水川喜文・好井裕明）、『エスノメソドロジーの想像力』（1998/作成：山田富秋）、『会話分析への招待』（1999/作成：岡田光弘）。

【単著・共著・編著】

秋葉昌樹. (2004)『教育の臨床エスノメソドロジー研究―保健室の構造・機能・意味』.東洋館出版社.

伊藤翼斗.(2018).『発話冒頭における言語要素の語順と相互行為』大阪大学出版会.

今田恵美.(2015).『対人関係構築プロセスの会話分析』.大阪大学出版局.

上野直樹(1999).『仕事の中の学習―状況論的アプローチ』東京大学出版会.

上野直樹・西阪仰.(2000)『インタラクション：人工知能と心』.大修館書店.

榎本美香. (2009).『日本語における聞き手の話者移行適格場の認知メカニズム』ひつじ書房.

海老田大五朗.(2018)『柔道整復の社会学的記述』勁草書房.

樫田美雄・岡田光弘・中塚朋子［編］(2018).『医療者教育のビデオ・エスノグラフィー：若い学生・スタッフのコミュニケーション能力を育む』晃洋書房.

樫村志郎. (1989→新装版 1997). 『「もめごと」の法社会学』. 弘文堂.

川床靖子. (2007).『学習のエスノグラフィー―タンザニア・日本・ネパールの仕事場と学校をフィールドワークする』.春風社.

串田秀也. (2006).『相互行為秩序と会話分析―「話し手」と「共-成員性」をめぐる参加の組織化』.世界思想社.

串田秀也・好井裕明［編］(2010)『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社

串田秀也・平本毅・林誠.(2017).『会話分析入門』勁草書房.

小宮友根.(2011)『実践の中のジェンダー―法システムの社会学的記述』新曜社.

是永論.(2017).『見ること・聞くことのデザイン―メディア理解の相互行為分析』新曜社.

酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生［編］.(2009).『概念分析の社会学―社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版

酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生・小宮友根［編］.(2016)『概念分析の社会学 2―実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.

椎野信雄.(2007).『エスノメソドロジーの可能性―社会学者の足跡をたどる』春風社.

城綾実.(2018)『多人数会話におけるジェスチャーの同期―「同じ」を目指そうとするやりとりの会話分析』ひつじ書房.

須賀あゆみ.(2018).『相互行為における指示表現』ひつじ書房.

杉原由美.(2010).『日本語学習のエスノメソドロジー―言語的共生化の過程分析』勁草書房.

清矢良崇.(1994).『人間形成のエスノメソドロジー―社会化過程の理論と実証』東洋館出版社.

高木智世・細田由利・森田笑.(2016).『会話分析の基礎』ひつじ書房.

高田明・嶋田容子・川島理恵［編］.(2016).『子育ての会話分析―おとなと子どもの「責任」はどう育つか』昭和堂.

高梨克也.(2016).『基礎から分かる会話コミュニケーションの分析法』ナカニシヤ出版

高梨克也［編］.(2018).『多職種チームで展示をつくる―日本科学未来館「アナグラのうた」ができるまで」ハーベスト社.
鶴田幸恵.(2009).『性同一性障害のエスノグラフィー―性現象の社会学』ハーベスト社.
鶴田真紀.(2018).『発達障害の教育社会学―教育実践の相互行為研究』ハーベスト社.
戸江哲理.(2018).『和みを紡ぐ―子育てひろばの会話分析』勁草書房.
西阪仰.(1997).『相互行為分析という視点―文化と心の社会学的記述』金子書房.
――――.(2001)『心と行為―エスノメソドロジーの視点』岩波書店.
――――.(2008)『分散する身体―エスノメソドロジー的相互行為分析の展開』勁草書房.
西阪仰・川島理恵・高木智世.(2008).『女性医療の会話分析』文化書房新社.
西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂. (2013). 『共感の技法―福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.
平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実［編］.(2018).『会話分析の広がり』ひつじ書房.
坊農真弓・高梨克也［編］ (2009).『多人数インタラクションの分析手法』オーム社.
細馬宏通. (2016).『介護するからだ』医学書院.
前田泰樹.(2008).『心の文法―医療実践の社会学』新曜社.
前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］(2007)『ワードマップ エスノメソドロジー―人びとの実践から学ぶ』新曜社.
前田泰樹・西村ユミ.(2018).『遺伝学の知識と病いの語り―遺伝性疾患をこえて生きる』ナカニシヤ出版.
松木洋人.(2013).『子育て支援の社会学―社会化のジレンマと家族の変容』新泉社
松永伸太朗.(2017).『アニメーターの社会学―職業規範と労働問題』三重大学出版.
水川喜文・秋谷直矩・五十嵐素子［編］.(2017).『ワークプレイス・スタディーズ―はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.
南出和余・秋谷直矩.(2013)『フィールドワークと映像実践―研究のためのビデオ撮影入門』ハーベスト社
山内裕.(2015).『「闘争」としてのサービス―顧客インタラクションの研究』中央経済社.
山崎敬一.(1994→新装版 2009).『美貌の陥穽―セクシュアリティーのエスノメソドロジー』ハーベスト社.
――――(2006)『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.
山崎敬一［編］.(2004)『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.
山崎敬一［編］. (2006)『モバイルコミュニケーション―携帯電話の会話分析』大修館書店.
山崎敬一・西阪仰［編］. (1997)『語る身体・見る身体』ハーベスト社
山田富秋・好井裕明［編］. (1998).『エスノメソドロジーの想像力』. せりか書房.
好井裕明［編］(1992).『エスノメソドロジーの現実―せめぎあう〈生〉と〈常〉』世界思想社.
好井裕明・山田富秋・西阪仰［編］(1999)『会話分析への招待』世界思想社

【邦訳著作（年代順）】

Schegloff, E. A.,2018.『会話分析の方法―行為と連鎖の組織』西阪仰［訳］,
ブッシュネル,ケード［翻訳協力］,世界思想社.
≪収録論文≫
「予備のための予備―「質問してもいいですか」」pp.1-100.
(=1980. *"Preliminaries to preliminaries:"Can I ask you a question?" "*.
Sociological inquiry, *50*(3−4), 104-152.)
「仄めかしだったと認めること―行為の経験的説明に向けて」pp.101-202.
(=1996. *"Confirming allusions: Toward an empirical account of action"*.
American journal of sociology, *102*(1), 161-216.)

Heritage,J.&Maynard,D,W.(Eds).2015.『診療場面のコミュニケーション―会話分析からわかること』（抄訳/11~14 章は割愛）川島理恵・樫田美雄・岡田光弘・黒嶋智美［訳］.勁草書房.
(＝2006.*Communication in medical care：Interaction between primary care physicians and patients.* Cambridge University Press.*)*

Francis, D.,and Hester, S., 2014, 『エスノメソドロジーへの招待――言語・社会・相互行為』
中河伸俊・岡田光弘・是永論・小宮友根 訳、ナカニシヤ出版
(＝2004. *An invitation to ethnomethodology: Language, society and interaction*. Sage.)

Lynch, M., 2012, 『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』 水川喜文・中村和生［監訳］.
勁草書房.
(＝1993. *Scientific practice and ordinary action: Ethnomethodology and social studies of science*. Cambridge University Press.)

Collins, S., Britten, N., Ruusuvuori, J. and Thompson, A., 2011 『患者参加の質的研究―会話分析からみた医療現場のコミュニケーション』北村隆憲・深谷安子 訳.医学書院
(＝2007. *Patient Participation In Health Care Consultations: Qualitative Perspectives：Qualitative Perspectives*. McGraw-Hill Education).

Sacks,H., Schegloff, E. A. and Jefferson, G., 2010 .『会話分析基本論集―順番交替と修復の組織』
西阪仰［編訳］・S. サフト［翻訳協力］.世界思想社
≪収録論文≫
「会話のための順番交替の組織―もっとも単純な体系的記述」
(＝1974. *"A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation"*.
Language,50(4), 696-735.)
「会話における修復の組織―自己訂正の優先性」
(＝1977.*"The Preference for Self-Correction in the Organization of Repair "*.
Language, *53*(2), 361-382.)

Rodriguez, N. M., & Ryave, A. ,2006『自己観察の技法：質的研究法としてのアプローチ』
川浦康至・田中敦訳.誠信書房.（＝2002. *Systematic self-observation* . Sage）

Maynard, D., 2004,『医療現場の会話分析—悪いニュースをどう伝えるか』（抄訳）
樫田美雄・岡田光弘［訳］.勁草書房
(＝2003. *Bad news, good news: Conversational order in everyday talk and clinical settings*. University of Chicago Press.)
Suchman, L., 1999, 『プランと状況的行為——人間 - 機械コミュニケーションの可能性』
佐伯絆［監訳］上野直樹,・水川喜文・鈴木栄幸［訳］.産業図書.
(＝1986. *Plans and situated actions. Cambridge University*.)
Wooffitt, R., 1998,『人は不思議な体験をどう語るか—体験記憶のサイエンス』
大橋靖史・山田詩津夫［訳］.大修館書店.
(＝1992. T*elling tales of the unexpected: The organization of factual discourse*. Rowman & Littlefield.)
Psathas, G., 1998, 『会話分析の手法』 北澤裕・小松栄一［訳］.マルジュ社.
(＝1995. *Conversation analysis: The study of talk-in-interaction.* Sage Publications.)
Coulter,J., 1998『心の社会的構成—ヴィトゲンシュタイン派エスノメソドロジーの視点』
（抄訳/3 章と 6 章を割愛）西阪仰［訳］.新曜社.
(＝1979.*The Social Construction of Mind: Studies in Ethnomethodology and Linguistic Philosophy*.Macmillan.)
Coulon, A., 1996, 『入門エスノメソドロジ—私たちはみな実践的社会学者である』 山田富秋・水川喜文［訳］.せりか書房
(＝1995. *Ethnomethodology* . Sage.)
Sudnow, D., 1993, 『鍵盤を駆ける手—社会学者による現象学的ジャズ・ピアノ入門』
徳丸吉彦・ト田隆嗣・村田公一［訳］.新曜社
(＝1978. *Ways of the hand: The organization of improvised conduct*. MIT Press.)
Sudnow, D., 1992, 『病院でつくられる死——「死」と「死につつあること」の社会学』
岩田啓靖・志村哲郎・山田富秋［訳］.せりか書房
(＝1967. *Passing on: The social organization of dying*. Prentice Hall.)
Psathas, G., Garfinkel, H., Sacks, H., Schegloff, E., 1988,『日常性の解剖学——知と会話』
北澤裕・西阪仰［編訳］.マルジュ社.
≪収録論文≫
Psathas,G.「序論 エスノメソドロジー —社会科学における新たな展開」
(＝1988.”*Ethnomethodology as a New Development in the Social Science*” 早稲田大学での講演を訳出したもの).
Garfinkel,H.「日常活動の基盤—当り前を見る」
(＝1964.”Studies of the routine grounds of everyday activities”.
Social problems,*11*(3),225-250.
再録→Garfinkel,H.1967.*Studies in Ethnomethodology*.Polity.pp.35-75.)

Sacks,H.「会話データーの利用法—会話分析事始め」
(＝1972.*"An initial investigation of the usability of conversational data for doing sociology"*. Sudnow,D.(eds).*Studies in social interaction*. pp.31-73.)
Schegloff, E. A.,& Sacks, H.「会話はどのように終了されるか」
(＝1973.*"Opening up closings"*. *Semiotica*, *8*(4), 289-327.)
Leiter,K., 1987.『エスノメソドロジーとは何か』 高山眞知子［訳］.新曜社.
(＝1980. *A primer on ethnomethodology*. Oxford Univ Pr.)
Garfinkel, H., Sacks, H., Pollner, M., Smith, D., Wieder, L., 1987,
『エスノメソドロジー—社会学的思考の解体』 山田富秋・好井裕明・山崎敬一［編訳］.
せりか書房.
≪収録論文≫
Garfinkel,H.「エスノメソドロジー命名の由来」
(＝1974. *"The origins of the term 'ethnomethodology' "*.
Turner,R.(ed.) *Ethnomethodology*,.Penguin.pp.15-18.
→初出は 1968.Purdue symposium on ethnomethodology)
Sacks,H.「ホットロッダー—革命的カテゴリー」
(＝1979.*"Hotrodder: A Revolutionary Category"*.
Psathas,G.(ed.),*Everyday Language:Studies in Ethnomethodology.*Irvington. pp.23-53.)
Pollner, M.「お前の心の迷いです—リアリティ分離のアナトミー」
(＝1975.*"'The very coinage of your brain': The anatomy of reality disjunctures"*.
Philosophy of the Social Sciences, *5*(3), 411-430.)
Smith,D.E.「K は精神病だ—事実報告のアナトミー」
(＝1978. " 'K is mentally ill' the Anatomy of a Factual Account. *Sociology*, *12*(1), 23-53.)
Wieder,D.L.「受刑者コード—逸脱行動を説明するもの」
(＝1974. "Telling the Code", Turner,R. (ed.), *Ethnomethodology*. Penguin.pp.144-172.
初出→Wieder,D,L.1974.*Language and Social Reality*.Mouton de Gruyter.)
Garfinkel, H.「アグネス、彼女はいかにして女になり続けたか
—ある両性的人間の女性としての通過作業とその社会的地位の操作的達成」(抄訳)
(＝1967. *"Passing and the managed achievement of sex status in an "intersexed" person"*.
収録→Garfinkel,H.1967.*Studies in Ethnomethodology*.Polity.pp.116-185.)
Cicourel, A. V., & Kitsuse, J. I.,1985,『誰が進学を決定するか—選別機関としての学校』
山村賢明・瀬戸知也［訳］.金子書房 (＝1963 *The Educational Decision-Makers*.Indianapolis)
Cicourel,A., 1981, 『社会学の方法と測定』下田直春［監訳］新泉社.
(＝1964. *Method and measurement in sociology*.)

【邦訳論文（著者アイウエオ順）】
エグリン,P. &ヘスター,S. (1999→2000/小松栄一訳).「おまえらはみんなフェミニストの一味だ—カテゴリー化とテロの政治」. *文化と社会*(2),74-98.
(＝Eglin, P., & Hester, S. *" "You're all a bunch of feminists:" Categorization and the politics of terror in the Montreal Massacre". Human Studies*, *22*(2-4), 253-272.)
ガーフィンケル,H.(1940→1998/秋吉美都訳)「カラートラブル」
山田富秋・好井裕明［編］. (1998).『エスノメソドロジーの想像力』.せりか書房.pp.10-29.
(＝Garfinkel, H. *"Color trouble"*. O'Brien,E,J.*The best short stories*. Houghton Mifflin Company.pp.97-119.)
————(1967→1971/大原健士郎・岩井寛・本間修・小幡利江訳)「実践的・社会的推論：ロスアンゼルス自殺予防センターにおける研究業績の若干の特徴」シュナイドマン,S,E.『自殺の病理：自己破壊行動（上）』岩崎学術出版社.pp.160-174.
(＝Garfinkel, H. *"Practical sociological reasoning: Some features in the work of the Los Angeles suicide prevention centre".* Shneidman,E,S.(ed) *Essays in self-destruction*. Sience House.
再録→Travers, M., & Manzo, J. F. 1997. *Law in action: Ethnomethodological and conversation analytic approaches to law*. Routledge.pp.24-42. ※邦訳刊行予定あり)
ガルシア,アンジェラ.(1991→2010/北村隆憲・橋本聡・チャールズ・ロバートソン訳)
「口論なしの紛争解決—調停の相互行為組織はいかにして言い争いを最小化するか」
東海法学(44).71-20.
(＝Garcia,A.*"Dispute Resolution Without Disputing: How the Interactional Organization of Mediation Hearings Minimizes Argument."*
American Sociological Review Vol.56,December, 818-835.)
グッドウィン,C. (1994→2010/北村弥生・北村隆憲訳).
「プロフェッショナル・ヴィジョン—専門職に宿るものの見方」.
共立女子大学文芸学部紀要(56),35-80.
(＝Goodwin, C. *"Professional vision". American anthropologist*, *96*(3), 606-633.)
————.(2013→2017/北村隆憲・須永将史・城綾実・牧野遼作訳.).
「人間の知と行為の根本秩序：その協働的・変容的特性」.*人文学報. 社会学*, (52),35-86.
(＝Goodwin,C. *" The co-operative, transformative organization of human action and knowledge." Journal of pragmatics*, *46*(1), 8-23.)
クルター,J.(1999→2000/藤守義光訳).「談話と心」. *文化と社会*, (2),pp.124-148.
(=Coulter, J. *"Discourse and mind". Human Studies*, *22*(2-4), 163-181.)
クレイマン,S,E.&ヘリテイジ,J. (2008/川島理恵訳).「質問形式とメディア- 国家の関係」
現代社会学理論研究, (2), pp.26-36.
ゴッフマン,E.(1983→1992/椎野信雄訳)「相互行為秩序 (前置き～4 章)」

（「E.ゴフマンの「相互行為秩序」を読む (第 1 部) その一」に訳出）
人文学報, (232), pp.105-123.
————(1983→1993/椎野信雄訳）「相互行為秩序 (5 章～10 章)」
（「E.ゴフマンの「相互行為秩序」を読む (第 1 部) その二」に訳出）
人文学報, (241), pp.119-147.
(＝Goffman,E.*"The interaction order: American Sociological Association, 1982 presidential address."* *American sociological review*, *48*(1), 1-17.)
————(1989→2000/串田秀也訳)「フィールドワークについて」
好井裕明・桜井厚［編］『フィールドワークの経験』せりか書房 pp.16-26.
(＝Goffman, E. *"On fieldwork"*. *Journal of contemporary ethnography*, *18*(2), 123-132.)
サックス,H.(1963→2013/南保輔・海老田大五朗訳）「社会学的記述」.
コミュニケーション紀要(24) .pp.77-92.
(＝Sacks, H. *"Sociological description"*. *Berkeley Journal of Sociology*, (8).1-16.)
————(1967→1971/大原健士郎・岩井寛・本間修・小幡利江訳)「救助の吟味：誰も頼れる人がいないこと」シュナイドマン,S,E.『自殺の病理：自己破壊行動（上）』岩崎学術出版社. pp.190-209.(＝Sacks, H. *"The search for help: no one to turn to"*. Shneidman,E,S.(ed) *Essays in self-destruction*. Sience House).
サッチマン,L.(1994/土屋孝文訳)「日常活動の構造化」
日本認知学会［編］『認知科学の発展 Vol.7 分散認知』講談社.pp.41-57.
————.(1994/三宅芳雄訳)「橋田氏のコメントに対する返答」（※橋田 1994 へのリプライ）
日本認知学会［編］『認知科学の発展 Vol.7 分散認知』講談社.pp.63-65.
サーサス,G.(1999→2000/前田泰樹訳).「行為における組織を研究すること—成員カテゴリー化と相互行為分析」.文化と社会,(2).37-73.
(＝Psathas,G.*"Studying the organization in action: Membership categorization and interaction analysis"*. *Human Studies*, *22*(2), 139-162.)
シェグロフ,E,A.(1987→1998/石井幸夫訳)「ミクロとマクロの間—コンテクスト概念による接続策とその他の接続策」.アレクサンダー,J,C.［編］石井幸夫ほか［訳］『ミクロ - マクロ・リンクの社会理論』新泉社.pp.139-178.
(＝Schegloff,E.A.*"Between micro and macro: Contexts and other connections"*. Alexander, J. C. (Ed.). *The micro-macro link*. Univ of California Press.pp.207-234.)
————(2002→2003/平英美訳) 「開始連鎖」.
立川敬二［監修］『絶え間なき交信の時代—ケータイ文化の誕生』NTT 出版.
(＝Schegloff,E.A.*"Beginnings in the Telephone"*. Katz,J.E.,&Aakhus,M. (Eds.).*Perpetual contact: Mobile communication, private talk, public performance*, Cambridge University Press. pp.326-385.)
————(2003/平英美訳).「『電話の開始部』について：枠組み」

カッツ,J.,オークス,M,A.［編］『絶え間なき交信の時代―ケータイ文化の誕生』NTT 出版
(＝Schegloff,E.A.*"On "Opening sequencing" a framing statement"*.
Katz, J. E., & Aakhus, M. (Eds.). (2002). *Perpetual contact: Mobile communication, private talk, public performance*. Cambridge University Press.pp321-325.)
――――(2003/平英美訳),「電話の開始部」
カッツ,J.,オークス,M,A.［編］『絶え間なき交信の時代―ケータイ文化の誕生』NTT 出版
(＝Schegloff,E.A.*"Opening sequencing"*.
Katz,J.E.,&Aakhus,M. (Eds.).*Perpetual contact: Mobile communication, private talk, public performance*, Cambridge University Press. pp.326-385.)
シャロック,W. (1974→1995/岡田光弘訳). 「知識を所有するということについて」.
年報筑波社会学, (7), pp.91-108.
(＝Sharrock, W. W. *"On owning knowledge"*. Turner,R.(ed.) *Ethnomethodology*,.
Penguin.pp. 45-53.)
――――(2002/池谷のぞみ訳)「トーマス・クーン―科学者の合理性」.
現代社会理論研究, (12).294-312.
シャロック,W.&バトン,G.(1999→2000/池谷のぞみ訳).「正しいことをなさい！―規則有限主義と規則懐疑主義，そして規則に従うこと」*文化と社会*(2). 99-123.
(＝Sharrock, W., & Button, G. "Do the right thing!: Rule finitism, rule scepticism and rule following. *Human Studies*, *22*(2-4), 193-210.)
ストコウ,E.(2012→2018/北村隆憲・是永論訳)「「成員カテゴリー分析」を前進させる―体系的分析法の試み」*東海法学*,(55),172-114.
（=Stokoe,E. *"Moving forward with membership categorization analysis: Methods for systematic analysis"*. *Discourse Studies*, *14*(3), 277-303.
ゼンフト,G.(2014→2017/石崎雅人・野呂幾久子訳).「語用論と社会学―日常における社会的相互行為」『語用論の基礎を理解する』(第 5 章) 開拓社.pp.183-222.
(=Senft, Gunter. *"Pragmatics and sociology: Everyday social interaction"* *Understanding pragmatics*. Routledge.(Chap.5),pp.133-161.)
デュプレ,B.(2001→2013/北村隆憲・イザンベールまみ訳).「実践における「意図 (故意)」―エジプト刑事裁判のエスノメソドロジー」. *東海法学*, (47), 58-21.
(＝Dupret,B. " *L'Intention en acte : l'orientation téléologique des parties au process penal, Le droit en action et en contexte. Ethnométhodologie et analyse de conversation dans la recherche juridique"*. *Droit et Société*.(48) .）
――――. (2014/黒嶋智美・小宮友根・北村隆憲訳).
「人類学，エスノグラフィー，法実践―実践的達成としての法」. *東海法学*, (48), 58-13.
(＝Dupret,B.*"Anthropology, Ethnography and Legal Practice : Law as a practical accomplishment"*, 2013 年 6 月東海大学高輪キャンパスでの講演）

————,. (2011→2015/黒嶋智美・小宮友根・北村隆憲訳).
「「真実」 を語ること―テロを非難するテレビ映像のエスノメソドロジー分析」
東海法学, (49), 174-133.
(＝Dupret,B.*"Speaking the truth: Advocacy video clips against terror"*,
Dupret,B. *Practices of truth: An ethnomethodological inquiry into Arab contexts*. John Benjamins. chapter 5.)
トラヴァーズ,M. (2001→2009/北村隆憲・内山安夫訳)「"生ける法（Law in Action）"―エスノメドロジーの視点から」*東海法学*(41),252-228.
(＝Travers,Max.*"Law in Action: An Ethnomethodological Perspective"*.
2001 年 7 月,アメリカ法社会学会・国際社会学会法社会学部会合同学術大会にて)
————. (1997→2009/北村隆憲・内山安夫訳)「"ラディカルな"弁護士の法律事務所という現象」
東海法学(42),122-91.
(＝Travers,Max. "The Phenomenon of Firm of ' Radical ' Lawyers",
Chapter 3 of *The reality of law: Work and talk in a firm of criminal lawyers*., Ashgate.）
————. (1997→2010/北村隆憲・内山安夫訳)「クライアントに有罪答弁をするよう説得すること」*東海法学*,(43),1-36.
(＝Travers,Max. *"Persuading a Client to Plead Guilty"*, Chapter 5 of *The Reality of Law : Work and talk in a Firm of Criminal Lawyers*. Ashgate.)
ドリュー,P.(1979→2014/北村隆憲・当山紀博訳）「日常会話と法廷尋問の順番交替組織」.
東海法学(49).132-50.
(＝Drew,P. *"Examination: a Comparison of the Turn-taking Organization for Conversation and Examination"*. Atkinson,M.and Drew,P.(eds) *Order in Court :The Organization of Verbal Interaction in Judicial Settings.* humanities Press.pp.34-81.）
————. (1979→2015/北村隆憲・当山紀博訳)「非難の管理（上）」*東海法学*(50).82-51.
————. (1979→2016/北村隆憲・当山紀博訳）「非難の管理（下）」*東海法学*(51).66-37.
(＝Drew,P. *"The Management of an Accusation"*. Atkinson,M.and Drew,P.(eds)
Order in Court :The Organization of Verbal Interaction in Judicial Settings.
humanities Press., pp. 81-135.)
バーンズ,S,L.(2009→2018/北村隆憲・当山紀博訳)「「仲裁」のエスノメソドロジー：正義を行い公正さを実演する」*東海法学*(55),112-62.
(=Burns,S.L.*"Doing justice and demonstrating fairness in small claims arbitration"*.
Human Studies, *32*(2), 109-131.)
ヒルバート,R,A.(1995→2016/中川敦・松木洋人訳).「ガーフィンケルによる社会学の古典のテーマの再生」. *島根県立大学総合政策論叢*, *31*, 117-136.
(＝Hilbert,R.A. *"Garfinkel's recovery of themes in classical sociology"*.
Human Studies, *18*(2), 157-175).

ヘリテイジ,J.(2008/川島理恵訳)「知識に関する眺望 (epistemic landscape) を描きだすこととその眺望に働きかけつつその中を進むこと—yes/no 質問に対する yes/no 返答と繰り返し返答に込められる進行性と主体性, 抵抗」. 現代社会学理論研究, (2), 14-25.

マトエイジアン,G,M.(1995→2013/北村隆憲・橋本聡・内山安夫・小宮友根共訳)
「言語・法・社会—ケネディ・スミス・レイプ裁判の政策的含意」*東海法学*(46).152-107.
(＝Gregory M. Matoesian. *"Language, Law, and society: Policy Implications of the kennedy Smith Rape Trial"*. *Law & Society Review, 29:4*. 669-701.)

マンゾウ,ジョン,F.(1994→2016/北村隆憲・当山紀博訳).「7 歳の子供に向かってこんな質問しないでしょう? (上)—陪審員による実践的推論の使用」*東海法学* (52), 60-37.

————.(1994→2017/北村隆憲・当山紀博訳)「7 歳の子供に向かってこんな質問しないでしょう? (下)—陪審員による実践的推論の使用」*東海法学*(53),28-4.
(＝Manzo, J. F.*" "You Wouldn't Take a Seven - Year - Old and Ask Him All These Questions": Jurors' Use of Practical Reasoning in Supporting Their Arguments"*. *Law & Social Inquiry*, 19(3), 639-663.)

メイナード,ダグラス,W.(1995→1998/後藤将之訳).「クーリー=ミード賞のためにハロルド・ガーフィンケルを紹介する」*コミュニケーション紀要*,(12) , 93-101.
(＝Maynard, D. W. *"Introduction of Harold Garfinkel for the Cooley-mead award"*. *Social Psychology Quarterly*, 1-4.)

————.(2010→2017/北村隆憲・当山紀博訳).「「交渉」の会話分析—延期,留保,抑止」*東海法学*(54),128-83.
(=Maynard,D.W. *"Demur, defer, and deter : Concrete, actual practices for negotiation in interaction"*. *Negotiation Journal*, *26*(2), 125-143.)

モアマン,M.(1989→1991/藤田隆則訳)「会話分析とともに—ある民族誌家の自伝」
谷泰［編］『文化を読む—フィールドとテクストのあいだ』人文書院.pp.296-321.
(※1989 年 8 月 24 日、カルガリー大学で行われた「日常生活の言語使用の理解について第一回国際会議」における基調報告の原稿を邦訳したもの)

ラプリー,T.(2017→2018/大橋靖史訳)「記録の実際」『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析（SAGE 質的研究キット 7）』新曜社.(4 章),pp.49-67.
Rapley, T. *"The practicalities of recording"*
Doing conversation, discourse and document analysis(2nd.edition).Sage.,(Chap.4).pp.37-52.

————.(2017→2018/大橋靖史訳)「音声とビデオ材料の書き起こし」
『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析（SAGE 質的研究キット 7）』
新曜社.(5 章),pp.69-99.
(=Rapley, T. *"Transcribing audio and video materials"*
Doing conversation, discourse and document analysis(2nd.edition).
Sage.,(Chap.5).pp.53-76.)

————. (2017→2018/中坪太久郎訳)「会話を探究する」
『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析（SAGE 質的研究キット 7）』
新曜社.(6 章),pp.101-122.
(=Rapley, T. *“Explorering conversations”*
Doing conversation, discourse and document analysis(2nd.edition).
Sage.,(Chap.6).pp.77-94.)
————. (2017→2018/中坪太久郎訳)「ドキュメントについての会話、ドキュメントによる会話の探求」『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析（SAGE 質的研究キット 7）』
新曜社.(7 章),pp.123-138.
(=Rapley, T. *“Explorering conversations about and with documents”*
Doing conversation, discourse and document analysis(2nd.edition).
Sage.,(Chap.7).pp.95-108.)
————.(2017→2018/綾城初穂訳)「会話とディスコースを探究する—いくつかの議論とジレンマ」『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析（SAGE 質的研究キット 7）』
新曜社.(8 章),pp.139-156.
(=Rapley, T. *“Explorering conversations about and discourse:Some debates and dilemmas”*
Doing conversation, discourse and document analysis(2nd.edition).
Sage.(Chap.8),pp.109-122.)
リンチ,M.(2000/椎野信雄訳).「エスノメソドロジーと実践の論理」.情況 第二期,11(7), 51-77.
(＝Lynch,M.2001. *“Ethnomethodology and the logic of practice”*.
Cetina, K. K., Schatzki, T. R., & Von Savigny, E. (Eds.). *The practice turn in contemporary theory*. Routledge. pp.131-148. ※1998 年 4 月の来日公演なので日本語版が先行出版)
————.(1999→2000/石井幸夫訳).「コンテクストのなかの沈黙—エスノメソドロジーと社会理論」文化と社会(2),6-36.
（＝Lynch, M. *“Silence in context: Ethnomethodology and social theory.”*
Human Studies, *22*(2-4), 211-233.)
レヴィンソン,S,C.(1983→1990/安井稔・奥田夏子訳)「会話の構造」.『英語語用論』(6 章).
研究社.pp.356-457
(=Levinson,S,C.*”Conversational structure”*.
Pragmatics(Cambridge textbooks in linguistics).Cambridge.(Chap.6),pp.284-370).
ワトソン,R. D. (1983→1996/岡田光弘訳).「談話における被害者と動機についての提示
—警察による尋問と事情聴取の事例」. *Sociology today*, (7), 106-125.
(＝Watson,R,D. *”The Presentation of Victim and .Motive in Discourse: The Case of Police Interrogations and Interviews”* .*Victimology: An International Journal* 8(1/2):31-52
再録→Travers, M., & Manzo, J. F. 1997. *Law in action: Ethnomethodological and conversation analytic approaches to law*. Routledge.pp.77-98.)

【邦語論文（著者あいうえお順)】

［あ］

赤羽優子. (2017).「第二言語としての日本語使用者同士のカテゴリー化実践：第三者言語接触場面の対称的なやりとりに注目して」. *国際日本研究*,(*9*), 83-105.

秋葉昌樹. (1995a).「保健室における「相談」のエスノメソドロジー的研究」. *教育社会学研究*, 57, 163-181.

————.(1995b).「エスノメソドロジーと教育研究」. *東京大学大学院教育学研究科紀要*, (35), 149-157.

————(1995c).「脱線・中断・再開にみる授業の秩序化と生徒の経験：Applied ethnomethodologyの試み」. *立教大学教育学科研究年報*, 59-71.

————. (1996).「エスノメソドロジー：類型学と『教育の臨床エスノメソドロジー』の可能性」. *現代社会理論研究*, 99-108.

————. (1997a).「エスノメソドロジー・会話分析と教育研究」. 年会論文集, 21, 453-454.

————(1997b)「順番のスムーズな形成を妨げる左手—学校保健室での〈養護教諭-生徒〉相互行為における対応の順番」 山崎敬一・西阪仰［編］『語る身体・見る身体』ハーベスト社.pp.214-234.

————. (1999).「保健室のエスノメソドロジー」 好井裕明・山田富秋・西阪仰 ［編］『会話分析への招待』世界思想社, pp.173-195.

————. (2000).「保健室のエスノメソドロジーからの提言」 *学校保健のひろば*, (18), 48-51.

————. (2001).「保健室登校からみる不登校問題」. *教育社会学研究*, 68, 85-104.

————. (2006).「"ブリーチング実験" と" 見えない演劇" のあいだ: 臨床的教育研究の生産手段としての演劇的問題表象のエスノメソドロジーへの覚醒をめざして」 *龍谷大學論集*(468), 25-41.

———— (2006).「教育学教育における臨床的方法実験としての演劇：エスノメソドロジー・会話分析研究を経由して」. *演劇学論集*, (44), 109-129.

————(2008).「臨床エスノメソドロジーの可能性—アクチュアリティの演劇的表象へ向けて」 北澤毅・古賀正義 [編],『質的調査法を学ぶ人のために』世界思想社.

———— (2009).「エスノメソドロジー研究のパフォーマンス—-質的調査研究の臨床性およびエスノメソドロジーの演劇的異化」.*社会と調査*, (3), 45-51.

————(2010)「学校で過ごす」 串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社,pp.116-132

————. (2014).「エスノメソドロジーとエンゲキのあいだ」. *現代社会学理論研究*, (8), 3-13.

秋本光陽. (2015).「犯罪少年の「責任」はいかにして組織されうるか」. *ソシオロゴス*, (39), 191-210.

秋谷直矩.(2008).「高齢者介護施設にみる会話構造：日常生活支援における自／他の会話分析」 *保健医療社会学論集*, Vol.19(2),

————(2010)「デザインとエスノメソドロジー—領域横断的実践のこれまでとこれから」
認知科学, 17(3), .525-535.
————(2011)「難聴の会話分析：聴能学における訂正方略と会話における修復の組織」
保健医療社会学論集,.22(2).45-54.
————. (2015).「会話分析研究とその応用的利用：社会学者の立場から」
コミュニケーション障害学, 32(1), 78-83.
————.(2016a).「想定された行為者—プラン設計におけるユーザー概念使用の分析」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版. pp.240-258
————.(2016b)「仕事場のやり取りを見る—「いつもこんな感じでやっている」と「いつもと違う」」前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆［編］『最強の社会調査入門—これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版.pp.159-171.
————.(2017a)「セクション 2 組織コミュニケーションのデザイン：イントロダクション」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.94-100.
————.(2017b).「セクション 4　メディアとデザインのインターフェイス：イントロダクション」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.228-236.
————.　(2017c).「人びとの実践における「行為の理解可能性の公的な基準」の探求」.
看護研究, *50*(4), 330-334.
————.(2018a).「会話の秩序と医学教育—患者の自発的語りを活用する問診テクニックとしての二発目のオープン・クエスチョン」樫田美雄・岡田光弘・中塚朋子［編］『医療者教育のビデオ・エスノグラフィー—若い学生・スタッフのコミュニケーション能力を育む』晃洋書房.pp,89-109.
————. (2018b).「相互行為データの収集と分析の初歩：医療者教育を研究するために」樫田美雄・岡田光弘・中塚朋子［編］『医療者教育のビデオ・エスノグラフィー—若い学生・スタッフのコミュニケーション能力を育む』,晃洋書房.pp.185-199
————.(2018c).「エスノメソドロジーにおける信頼概念」小山虎［編］『信頼を考える—リヴァイアサンから人工知能まで』勁草書房.pp.53-73.
秋谷直矩・丹羽仁史・久野義徳・山崎敬一(2005)「福祉ロボット開発のための依頼プロセスに関する基礎的考察」*電子情報通信学会技術研究報告 WIT・福祉・情報工学*,105,(684), 35-40.
秋谷直矩・丹羽仁史・坪田寿夫・鶴田幸恵・葛岡英明・久野義徳・山崎敬一(2007)「介護ロボット開発に向けた高齢者介護施設における相互行為の社会学的分析」
電子情報通信学会誌,90(3), .798-807.
秋谷直矩・川島理恵・山崎敬一(2009)「ケア場面における参与役割の配分：話し手になることと受け手になること」*認知科学*,.16(1),.78-90

秋谷直矩・丹羽仁史・岡田真依・小林貴訓・山崎敬一・久野義徳・山崎晶子（2009）「高齢者介護施設におけるコミュニケーションチャンネル確立過程の分析と支援システムの提案」*情報処理学会論文誌*.50(1).302-313.

秋谷直矩・山崎敬一・久野義徳(2010)「コンピュータ科学におけるエスノメソドロジー研究の意義」*情報処理*,.51,(7).882.

秋谷直矩・武川直樹・徳永弘子・湯浅将英・木村敦(2012)「VMC システムを介した共食場面の分析：人はいかにして食べることと話すことを協調的に管理するか？」*電子情報通信学会信学技法*,112,(176), 43-48.

秋谷直矩・水町衣里・高梨克也・加納圭(2013)「知識の状態を提示すること：再生医療にかんするグループインタビューにおける参与構造の分析」*科学技術コミュニケーション*.13, .17-39.

秋谷直矩・高梨克也・水町衣里・工藤充・加納圭(2014)「何者として、何を話すか：対話型ワークショップにおける発話者アイデンティティの取り扱い」*科学技術コミュニケーション*, (15).107-122.

秋谷直矩・佐藤貴宣・吉村雅樹 (2014)「社会的行為としての歩行：歩行訓練における環境構造化実践のエスノメソドロジー研究」. *認知科学*.21(2),.207-225.

秋谷直矩・水川喜文.(2017).「エスノメソドロジーとワークプレイス研究の展開」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.1-26.

秋谷直矩・森村吉貴・森幹彦・水町衣里・元木環・高梨克也・加納圭.(2017).「「社会的コンテクスト」の記述とデザイン—組織的ワークを支援するソフトウェア開発を事例に」水川・秋谷・五十嵐［編］『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.278-296.

芦川晋. (1995).「発話行為の理論とは何か, また何であるべきか—コミュニケーションとは何か, また何であるべきか」. *社会学年誌*(36), pp.67-80.

足立重和.(1998)「あいつはここに住んでいない—環境保護運動における住民のカテゴリー化実践の研究」山田富秋・好井裕明［編］.『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房. pp.159-169.

阿部耕也.(1986)「子ども電話相談における類型化の問題—相互行為としての相談への会話分析による接近の試み」.*教育社会学研究*(41),151-165.

————. (1987).「デカルト的方法の系譜:『方法序説』 からエスノメソドロジーにいたる」*教育学研究集録*,(11), 9-20.

————(1997)「会話における<子ども>の観察可能性について」*社会学評論* 47(4), 445-460.

————(1999)「〈子ども〉の見つけ方」好井裕明・山田富秋・西阪仰［編］『会話分析への招待』pp.101-123.

————(2008).「会話分析とは何か—会話をデータ化するということ」

北澤毅・古賀正義　［編］,『質的調査法を学ぶ人のために』世界思想社
————. (2011).「幼児教育における相互行為の分析視点」. *教育社会学研究*,88, 103-118.
阿部智恵子・樫田美雄・岡田光弘. (2001). 「資源としての障害パースペクティブの可能性：障害者スポーツ (水泳) 選手へのインタビュー調査から」. *年報筑波社会学*, 13, 17-51.
阿部哲也.(2018).「総合診療科での診療場面から見た医療面接教育の再考」樫田美雄・岡田光弘・中塚朋子［編］『医療者教育のビデオ・エスノグラフィー』晃洋書房.pp.171-184.
鮎川潤. (1984).「逸脱と帰属—レイブリング論, シンボリック・インタラクショニズム、エスノメソドロジーと、心理学的社会心理学における帰属理論との架橋をめざして」. *松山商大論集*, *34*(5/6), p51-87.
————.(1992).「社会問題研究における構築主義パースペクティブ: エスノメソドロジカル批判を手がかりに」. *金城学院大学論集.145*, 43-73.
安藤太郎.(1997)「社会問題研究の一つの方法—社会構築主義プロジェクトの検討」*年報社会学論集* (10), 193-204.
————(2003).「セルフヘルプにおける“同じ”経験と“違う”経験」*年報社会学論集*, (16), 212-224.
————(2009)「医療者の〈専門性〉と患者の〈経験〉」酒井泰斗ほか［編］『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版,pp74-98.

［い］
五十嵐素子.(2003).「授業の社会的組織化—評価行為への相互行為論的アプローチ」*教育目標・評価学会紀要*,(13),54-64.
————.(2004a)「『相互行為と場面』再考——授業の社会学的考察に向けて」*年報社会学論集*,(17).214-225
————.(2004b)「学習の測定作業の分析に向けて—学習への状況論的アプローチを手がかりに」*現代社会理論研究*,(14).342-353.
————(2006a).「携帯メール—「親しさ」にかかわるメディア」山崎敬一［編］『モバイルコミュニケーション: 携帯電話の会話分析』大修館書店,pp.119-143.
————(2006b).「携帯電話を用いた道案内の分析」山崎敬一［編］『モバイルコミュニケーション: 携帯電話の会話分析』大修館書店,pp.165-185
————(2007a).「子どもの遊びにおける相互行為上の能力—H. メーハンの議論を手がかりに」*CROSS CULTURE:光陵女子短期大学研究紀要*(23).83-94.
————(2007b).「子どもの遊びにおける学習の達成——相互行為上の能力の視点から」*CROSS CULTURE:光陵女子短期大学研究紀要*,(23).95-108.
————(2007c)「教える／学ぶ（授業の会話）」前田・水川・岡田（編）『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社,pp.175-180

————(2007d)「教える／学ぶ（授業のワーク）」前田・水川・岡田（編）『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社,pp.182-188.
————(2008).「カメラ付き携帯電話によって送付される視覚イメージの会話における利用について」*CROSS CULTURE:光陵女子短期大学研究紀要*(24),.65-83.
————(2011).「保育実践における子どもの感情経験の取り扱い—エスノメソドロジーの視点から」*子ども社会研究*,(17).5-14.
————(2012)「学習活動をデザインするための視点—エスノメソドロジー研究の立場から」*教育創造* (170) 48-53
————(2016).「「教示」と結びついた「学習の達成」—行為の基準の視点から」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版. pp.177-194.
————.(2017a).「セクション 3 プロフェッショナルと実践の中の道具／メディア：イントロダクション」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.160-170.
————.(2017b).「「何をどう学ぶか」をデザインするためのエスノメソドロジー研究の視点—「対話的な学び」はいかに「立場の違い」を通じて生まれるのか」*質的心理学フォーラム*(9),35-44
五十嵐素子・島野千里(2006)「保育実践としての外遊び——保育士の指示と子どもの行動選択に着目して」*CROSS CULTURE:光陵女子短期大学研究紀要*(22).75-89.
五十嵐素子・岡田光弘・樫田美雄・宮崎彩子(2008)「医学教育の問題基盤型学習における『介入』技法——導入段階の援助として」*教育目標・評価学会紀要*,(18).77-86.
五十嵐素子・水川喜文・是永論.(2017).「対面における知識共有と課題解決—配管工事のミーティング場面から」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.139-157.
五十嵐素子・笠木祐美.(2017).「ICT を活用した協働学習のデザインと生徒のワーク—中学校の授業実践を例として」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社 pp.258-277.
池上賢. (2014).「メディア経験とオーディエンス・アイデンティティ：語り・パフォーマンス・エスノメソドロジー」. *マス・コミュニケーション研究*, (84), 109-127.
————. (2017).「「メディア経験を語ること」とアイデンティティ—マンガに関するインタビュー調査の会話を事例として」. *ソシオロゴス*, (41), 95-111.
池田佳子. (2007). 「言語相互行為とアイデンティティー構築」. *言葉と文化*, *8*, 201-218.
————.(2016a).「「日系移民の歴史のストーリー」を伝えるということ—カナダ日系人三世の場合の語りの会話分析」山崎敬一・やまだようこ・山崎晶子・池田佳子・小林亜子［編著］『日本人と日系人の物語—会話分析・ナラティヴ・語られた歴史』pp.77-93.
————.(2016b).「展示物との相互行為—日系人ミュージアムのインタラクションの考察から」

山崎敬一・やまだようこ・山崎晶子・池田佳子・小林亜子［編著］『日本人と日系人の物語—会話分析・ナラティヴ・語られた歴史』.pp.216-233.
————.(2017a).「Web ビデオ会議—関与性を指標する相互行為リソースの一考察」片岡・池田・秦［編］『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』pp.69-88.くろしお出版
————. (2017b).「IT メディアと相互行為—第二言語で遂行するプロジェクト型学習場面の一考察」柳町智治・岡田みさを［編］『インタラクションと学習』ひつじ書房.
池田佳子・ブラント,アダム.(2013)「言語教室のインタラクション—コミュニケーションの「環境条件」を考える」. 片岡邦好・池田佳子［編］,『コミュニケーション能力の諸相—変移・共創・身体化』,ひつじ書房.pp.191-224.
池谷のぞみ. (1990). 「レファレンス・ライブラリアンが用いる知識と判断の枠組み--質問応答プロセスにおける適切性の判断を中心に.」 *Library and information science*, (28), 81-103.
————. (1991).「レファレンス・ライブラリアンが捉える利用者の質問--質問応答プロセスに基づく質問の分類」 *大学図書館研究,* 76-86.
————. (1999).「実践的行為としての情報システム設計: エスノメソドロジー的一考察」. *情報処理学会研究報告. 情報システムと社会環境研究報告*, 99(60), 23-28.
————.(2001).「生活世界と情報」. 田村俊作［編］『情報探索と情報利用（図書館・情報学シリーズ 2）』.勁草書房. pp.41-90
————. (2002).「マンチェスター大学の社会学 (小特集 マンチェスターの社会学)」. *現代社会理論研究*, (12), 290-293.
————(2004a)「ワークの研究」山崎敬一（編）『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣,pp.42-49
————(2004b)「エスノメソドロジーとフィールドワーク」山崎敬一（編）『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣,pp.52-59.
————(2007)「EM の実践理解の意味とその先にあるもの」前田泰樹,水川喜文,岡田光弘（編）『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社,pp.248-257.
————. (2011).「ワークに学習を埋め込む: ワークの研究に基づく OJT の再考」. *日本教育工学会論文誌*, (35),189-192.
————.(2015).「実践的構成物としてのビジネス支援サービス：サービスを理解することの方法的意義」『図書館は市民と本・情報をむすぶ』勁草書房,pp.1～11
————. (2016).「フィールドワークとデータセッションで気をつけること：エスノメソドロジーの態度とは」. *現象と秩序*, (4), 99-118.
池谷のぞみ・葛岡英明. (2002).「エスノメソドロジーってなに?(アイ・サイ問答教室)」. *システム/制御/情報: システム制御情報学会誌*, 46(9), 585-586.
池谷のぞみ・岡田光弘・藤守義光. (2000)「ヴィジュアル・オリエンテーションの実践的マネジメント :「みること」の組織化の多様性」日本認知科学会「教育環境のデザイン」研究

分科会研究報告 Vol.6.No.1「テクノサイエンス研究の現在」
————(2004)「病院組織のフィールドワーク」
山崎敬一［編］.(2004)『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣. pp.192-203.
石井徹. (2005). 「常識の規範的影響について」. *社会心理学研究*, *20*(3), 224-252.
石井幸夫. (1996).「意味の新たな地平—ガーフィンケル論序説」. *現代社会理論研究*, (6), 61-71.
————(1997).「コミュニケーションのリアリティー—ガーフィンケルの観察」.
社会学評論, 47(4), 428-444.
————(1998).「エスノメソドロジカル・ターン—シュッツ, デリダ, ガーフィンケル」
情況 第二期, 9(1), 70-85.
————(2001).「産児調整運動の言説について」.*ソシオロジスト:武蔵社会学論集*,(3).69-119.
————(2004)「生殖の文法—ある生殖意識変革運動の言説実践について」
佐藤慶幸・大屋幸恵・那須壽・菅原謙［編著］『市民社会と批判的公共性』pp.279-311
————. (2009a).「言語をいかに問うべきか」. *社会学年誌*, (50), 117-133.
————(2009b)「優生学の作動形式」酒井・浦野・前田・中村（編）『概念分析の社会学: 社会的経験と人間の科学』.ナカニシヤ出版.pp.196-232.
————. (2009c).「境界の言葉：永井潜著 『医学と哲学』 について」.
ソシオロジスト: 武蔵大学:武蔵社会学論集,11, 75-105.
————(2013)「種の曖昧な縁—ハッキングの歴史的存在論について」中河伸俊・赤川学［編］『方法としての構築主義』勁草書房.pp.195-215.
————. (2015)「歴史の概念分析の分析-記述について」
ソシオロジスト: 武蔵社会学論集, 17(1), pp.123-145.
————.(2016).「生殖補助医療を標準化する」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.
『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.pp.112-133.
石田喜美. (2006). 「相互行為場面における「読むこと」の意味の交渉—メディア・ファン・コミュニティに関わる女性へのインタビューの分析から」. *読書科学*, *50*(1), 13-22.
石飛和彦. (1994a) 「社会問題の存在論とエスノメソドロジー的アプローチ—帰国子女問題研究を事例として」.*ソシオロジ*, 39(1), p23-39.
———— (1994b).「校則現象把握における規範的パラダイムと解釈的パラダイム」
教育・社会・文化: 研究紀要, 1, 35-54.
———— (1995).「校則問題のエスノメソドロジー—「パーマ退学事件」 を事例として」.
教育社会学研究, 57, 145-161.
————(1996)「「しつけ会話」のエスノメソドロジー—社会化論とそのメタ理論」.
教育・社会・文化: 研究紀要, 3, 1-22.
————. (1998). 「ハロルド・ガーフィンケルのテキストにおける言説空間設定の問題」
天理大学学報, 187, 127-142.
————(1999). 「「いじめ」の実践的行為の形式構造」. *教育・社会・文化: 研究紀要*, 6,31-52.

————. (2000).「ハロルド・ガーフィンケルのテキストにおける 「受肉」 のモチーフ」. *教育・社会・文化: 研究紀要*, 7, 1-23.
————. (2002). 「「生徒コード」再考」. *教育・社会・文化: 研究紀要*, 8, 1-12.
————. (2003).「「生徒コード」 を語ること:「いじめ」 のリアリティの反映的達成」 *教育・社会・文化:研究紀要*, 9, 1-16.
————. (2006).「生涯教育ゲームと状況的学習論」. *天理大学生涯教育研究*, (10), 40-52.
———— (2007). 「学校的秩序空間の組織化」. *天理大学生涯教育研究*, (11), 37-50.
———— (2008).「ゲーム終結時に発生する拍手について」. *天理大学生涯教育研究*, (12), 41-53.
————.(2010),「子ども「問題行動」のエスノグラフィー」 武内清［編］『子どもの「問題」行動（子ども社会シリーズ/5）』学文社.pp.94-107.
————. (2011).「部屋をかたづける」 *天理大学生涯教育研究*, (15), 1-16.
居關友里子. (2013).「会話と活動の関係から見る会話終結：日常追跡法による大学生の会話を中心に」. *ヒューマン・コミュニケーション研究*, (41), 17-38.
————. (2017). 「制度的場面における会話の終結に関する一考察：実習反省会の観察から」. *国立国語研究所論集*, (13), 51-64.
井出裕久.(1985).「A・V・シクレルの慣用的調査批判とその代替戦略」 *東洋大学大学院紀要*.(22).pp.87-98.
————.(1987).「社会調査における生態学的妥当性の問題－A.V.Cicourel の社会調査論」 *東洋大学大学院紀要*.(23).
————.(1989).「統制グラフ法の方法論的ジレンマ—エスノメソドロジー的視角の必然性」 *明治大学社会・人類学年報*.(3).126-143.
————.(1990).「エスノメソドロジー」國分康孝［編］『カウンセリング辞典』誠信書房.p50.
————.(1991).「社会調査へのまなざし—実証主義的社会調査批判」 西原和久・張江洋直・佐野正彦［編］『社会学理論のリアリティ—現代社会学のまなざし』 八千代出版.
————.(1998a).「標準化・妥当性と意味—調査票調査の問題性」西原・張江・井出・佐野［編］ 『現象学的社会学は何を問うのか』勁草書房.pp.225-256.
————.(1998b) .「調査票調査における標準化と妥当性－社会調査論再考」 *白山社会学研究*(6)27-42.
井出裕久・張江洋直.(1989).「統計的社会調査法は＜客観的＞か－社会調査・再考－」 *日本工業大学研究報告(18,3/4)*.
————.(1998).「方法と客観性—統計的調査法の隠された基盤」西原・張江・井出・佐野［編］ 『現象学的社会学は何を問うのか』勁草書房.pp.190-224.
伊藤翼斗. (2009).「削除連鎖による「話」を「すべらせる」手続き—漫才の分析を手がかりに」. *日本語・日本文化研究*, (19), 87-100.

————. (2010).「道具としてのカテゴリー：「説得」のロールプレイの分析から」.
間谷論集, (4), 65-87.
————. (2011).「日本語の発話冒頭に用いられる要素の順序—電話会話の分析から」.
日本語・日本文化研究, (21), 43-54.
————. (2012a).「発話冒頭における接続に関わる要素の順序ー「で」を中心に」
間谷論集.(6).27-49
————. (2012b).「日本語における発話冒頭での遡及指向要素の分類」
日本語・日本文化研究(22).45-58
————. (2013)「「始まり」のリソースとしての発話冒頭要素」.*EX ORIENTE*(20)67-90
———— (2015).「発話の冒頭からその発話について何が予想可能か」.
日本語・日本文化,(42) 99-122.
————. (2016).「会話における引用開始前の手続き」*間谷論集*.(11),59-84.
稲垣恭子. (1989a).「教師-生徒の相互行為と教室秩序の構成」*教育社会学研究*,45(0), 123-135.
————.(1989b)「子供らしさの社会的構成」柴野昌三［編］『しつけの社会学』世界思想社.
pp.87-105.
稲葉浩一.(2009a).「社会の問題としての 「少年の不可視性」: 新聞記事における青少年問題への言説分析アプローチ」. *立教大学教育学科研究年報*, *52*, 77-90.
————.. (2009b).「少年院における「更生」の構造—非行少年の語る「自己」と「社会」に着目して」. *教育社会学研究*, *85*(0), 49-70.
————.(2012).「「涙の共同体」としての『3 年 B 組金八先生』—卒業式における「集合的な泣き」の分析」 北澤毅［編］『文化としての涙—感情経験の社会学的探求』勁草書房.
pp.134-156.
————. (2013).「記録される「個性」—言説-解釈実践としての児童理解の分析」
教育社会学研究, 93, 91-115.
————. (2014).「学級におけるインフォーマルな制度と生徒指導の実際について—ある外国人児童の観察記録をもとに」*東洋英和女学院大学教職課程研究年報*,(6),2-12
————.(2018).「学校における「見えない壁」と「外部者」」
北澤毅・間山広朗［編］『教師のメソドロジー—社会学的に教育実践を創るために』
北樹出版.pp.142-155.
井上芳保. (1994).「社会情報学の方法とエスノメソドロジー：或る「調査実習という現象」の考察から」. *社会情報*, *3*(2), 105-122.
今井聖. (2017).「「事件」の構成過程における警察のワーク：ある痴漢被疑者への事情聴取場面の分析」. *犯罪社会学研究*, (42), 121-138.
————. (2018).「動機論の展開：理解社会学からエスノメソドロジーへ」.
立教大学大学院教育学研究集録, (15), 1-15.
今枝法之. (1985). 「エスノメソドロジーと間主観主義」.

慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要, (25), 1-8.
今田恵美.(2009).「接触場面の初対面会話における" tying practice"」.
日本語・日本文化研究, (19), 101-111
————.(2012).「留学生と日本人学生の関係形成の様相：歓迎会における自己紹介場面データをもとに」.*大阪大学言語文化学*, 21, 3-15.
岩崎志真子(2008)「会話における発話単位の協調的構築—「引き込み」現象からみる発話単位の多面性と聞き手性再考」 串田秀也・定延利之・伝康晴［編］.『「単位」 としての文と発話』ひつじ書房.
岩田夏穂.(2013).「共通性を示すこと—共感の権利はいかにして主張されるか」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂.『共感の技法—福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.141-156.
————.(2015).「学習者のやり取りを記述する方法—会話分析を日本語教育に生かす試み」
舘岡洋子［編］『日本語教育のための質的研究 入門』ココ出版.pp.

［う］
上田智子.(1995).「方向指示活動のエスノメソドロジー—119 番通話のトランスクリプトから」. *Sociology today*, 13-26.
————(1997).「授業の相互行為的産出—授業分析の一視点として」. *日本語学*, 16(3), 52-63.
————(2000).「相互行為としての「教師の権威」—「知識」の伝達を手がかりとして」
人間発達研究 (23), 51-58.
上谷香陽.(1993)「メディア世界のリアリティ—E.ゴフマン『フレイム分析』の知見から」
Sociology today, 1-10.
————.(1994a).「相互行為実践としてのテレビニュース—「パネルインタビュー」の会話分析」
人間文化研究年報, 18, 88-95.
————(1994b).「「番組らしさ」 はいかにして生みだされるのか」*年報社会学論集*,(7),155-166.
————. (1996).「社会的実践としてのテレビ番組視聴—ある 「事件報道」 の視聴活動を事例として」 *マス・コミュニケーション研究*, (49), 96-109.
————(1996).「ドロシー・スミスにおける 「アクティブなテクスト」 について—「客観化された知識」に関する一考察」. *現代社会理論研究*, 87-98.
———— (1997a).「マス・メディア視聴の社会学的考察に向けて」
年報社会学論集,1997(10), 169-180.
————(1997b)「「テレビ・イメージ」の社会的構成—見る実践における「討論」の組織化」
山崎敬一,西阪仰［編］『語る身体・見る身体』ハーベスト社.pp.235-253
————. (1998).「「知識/言語」をめぐるフェミニズム社会学の試み: D・スミスの議論を中心として」.*ソシオロジ*, 43(2), 35-50.
————.(2000).「性別をめぐる「社会的なるもの」とは?」. *現代社会理論研究*, (10), 223-233.

———— (2001).「性別に関わる諸現象の偶有性と秩序性」. *現代社会理論研究*, (11), 148-161.
————. (2002a)「社会学の対象としての「日常世界」について—ドロシー・スミスの問題設定」. *現代社会理論研究*, (12), 161-170.
————. (2002b).「社会学は「女性の経験」をどのように論じればよいのか？—ドロシー・スミスの「フェミニスト社会学」再考」. *年報社会学論集*, (15), 82-92.
————. (2006).「化粧における「身体」:「素肌」の社会的構成」. *応用社会学研究*,48, 153-161..
————(2007).「「近代家族」の概念実践—日本版「名前のない問題」のアポリア」. *応用社会学研究*, 49, 163-173.
————. (2008).「性別のエスノメソドロジー研究—ガーフィンケルの記述を再考する」. *ソシオロジスト: 武蔵大学: 武蔵社会学論集*, 10, 1-18.
————.(2009a)「化粧と性別—〈素肌〉を見る方法—」酒井・浦野・前田・中村（編）『概念分析の社会学: 社会的経験と人間の科学』.ナカニシヤ出版.pp.163-187.
————. (2009b).「対話としての「経験」—ドロシー・スミスの視点」 *武蔵大学総合研究所紀要*, (19), 117-133.
————. (2009c).「性別概念と社会学的記述—江原由美子『ジェンダー秩序』 を読む」 *文教大学国際学部紀要*, 20(1), 1-14.
————. (2010).「ドロシー・スミスにおける社会的記述の問題：institutional ethnography という視点」 *ソシオロジスト*, 12(1), 73-96..
————. (2011).「「ガール (girl)」 概念の再構築 : 北米における 'Riot Grrrl'運動を事例として」. *武蔵大学総合研究所紀要*, (20), 85-99.
————. (2012).「フェミニズムとガール・カルチャー (Girl Culture): 雑誌 Sassy の語り方」. *応用社会学研究*, 54, 185-199.
上野直樹. (1996).「協同的な活動を組織化するリソース」. *認知科学*, 3(2), 5-24.
————(1997)「協同的な活動の組織化—行為、道具、会話の相互的構成」 山崎敬一・西阪仰（編）『語る身体・見る身体』ハーベスト社.pp.254-283.
————. (1997).「科学的実践と科学教育へのエスノメソドロジー的なアプローチ：メンタル・モデル研究の再考」. *年会論文集*, *21*, 361-362.
————(1998).「見ることのデザイン—知覚の社会的 - 道具的組織化」 山田富秋・好井裕明［編］『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房,pp.252-269.
————.(2001a)「状況論的アプローチ」 上野直樹［編］『状況のインターフェース』金子書房.pp.1-23.
————.(2001b).「デザインされた知性」 上野直樹［編］『状況のインターフェース』金子書房.pp.265-281.
————.(2001c).「現象を観察するコンテクストの再組織化による運動力学の学習」 加藤浩・有元典文［編］『認知的道具のデザイン』金子書房.pp.210-238.
————.(2007).「ネットワークとしての状況論」上野直樹・ソーヤーりえこ［編著］

『文化と状況的学習—実践, 言語, 人工物へのアクセスのデザイン』凡人社.pp.3-39.
上野直樹・野々山正章・真行寺由郎.(2008).「ドキュメントのデザイン—状況論的アプローチ」
田島信元［編］『朝倉心理学講座 11 文化心理学』朝倉書店.pp.94-113.
植村幸生.(1993).「音楽民族誌の再構成に向けて—エスノメソドロジーの視点からの予備的考察」. *洗足論叢*, *22*, 173-184.
薄井明. (2001). 「会話における「間」の問題状況とその管理操作」.
北海道医療大学看護福祉学部紀要, (8), 43-49.
————.(2002).「会話的相互行為の自然な基本単位」.
北海道医療大学看護福祉学部紀要,(9), 9-17.
———— .(2007).「「隣接ペア」 再考」. *北海道医療大学看護福祉学部紀要*, *14*, 75-82.
————. (2010).「発話番交替システムにおける「語り」の組織化と展開」.
北海道医療大学看護福祉学部紀要 ,17, 61-70.
臼田泰如. (2017).「態度や関心の共有のための資源としての演技—雑談における演技の分析」.
社会言語科学, *19*(2), 43-58.
浦野茂.(1994)「コミュニケーションと規則：その実践の論理に関して」
法學政治學論究:法律・政治・社会. No.23 .467- 499
————. (1995).「ワークのエスノメソドロジー的研究の意義」. *年報社会学論集*,(8), 25-34.
————(1996).「119 番通報における「傷病者」の社会的構成 (特集 119 番通話の会話分析的研究—制度・組織のエスノメソドロジー).」*現代社会理論研究* (6) ,pp.133-147.
————. (1997).「相互行為秩序を記述してゆくことの意味」 *三田社会学*, (2), pp.16-21.
————(1998)「「口承の伝統」の分析可能性—物語の相互行為分析」*社会学評論* (49-1).60-76.
（再録→梅屋潔・浦野茂・中西裕二.2000.『憑依と呪いのエスノグラフィー』岩田書院.
pp.197-219）
————. (1999).「想起の社会的コンテクスト」 *現代社会理論研究*, (9),pp.109-121.
————. (2002).「記憶・アイデンティティ・歴史—M. アルヴァックスと視点としての言語」
現代社会理論研究, (12), 26-38.
————(2004a)「文化の概念と社会学における記述の問題」
青森大学学術研究会研究紀要,27(1).27-42.
————(2004b)「実践の中の視覚—身体的行為と見ることの分析」
山崎敬一(編).『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.pp.158-168.
————. (2005).「社会学と記憶—W.I.トマス・「社会理論」・移民の記憶」
社会学評論,56(3),727-744.
————. (2007).「記憶の科学：イアン・ハッキングの「歴史的存在論」 を手がかりに」.
哲學, 117,.245-266.
————.(2008).「社会学の課題としての概念の分析—「構築主義批判・以後」 によせて」.
三田社会学, (13).47-59.

————.(2009)「類型から集団へ—人種をめぐる社会と科学」酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生［編］『概念分析の社会学: 社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版.pp.10-40.
————. (2013).「発達障害者のアイデンティティ」*社会学評論*, 64(3), 492-509.
————. (2014).「保健医療分野におけるエスノメソドロジー：診断をめぐるいくつかの論点について」. *保健医療社会学論集*,25(1), 10-16.
————.(2016a)「はじめに」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.pp. i - vi
————(2016b).「「神経多様性」の戦術—自伝における脳と神経」 酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.pp.7-26.
————. (2016c).「当事者研究の社会的秩序について：経験の共同研究実践のエスノメソドロジーに向けて」*保健医療社会学論集*, 27(1), 18-27.
————.(2017).「「言いっぱなし聞きっぱなし」のエスノメソドロジー」. *臨床心理学増刊第 9 号—みんなの当事者研究*,金剛出版.197-199.
————.(2018a).「ミクロ・ポリティクスとしての当事者研究—トラブル経験の記述をめぐる実践」. *フォーラム現代社会学*, *17*, 202-215.
————.(2018b).「場面にふさわしいやりとりのルールってどんなもの?」綾屋紗月［編］『ソーシャル・マジョリティ研究：コミュニケーション学の共同創造』金子書房.
浦野茂・水川喜文・中村和生. (2012).「社会生活技能訓練における発話の共同産出：広汎性発達障害児への療育場面のエスノメソドロジー」. *三重県立看護大学紀要*,16(16), 1-10.
浦野茂・綾屋紗月・青野楓ほか (2015).「言いっぱなし聞きっぱなし：自閉スペクトラム症当事者による当事者研究における物語り」 *ナラティヴとケア*, (6), 92-101.

［え］
榎本美香. (2003).「会話の聞き手はいつ話し始めるか：日本語の話者交替規則は過ぎ去った完結点に遡及して適用される」. *認知科学*, *10*(2), 291-303.
————. (2008). 「会話・対話・談話研究のための分析単位: ターン構成単位 (TCU) (<連載チュートリアル>多人数インタラクションの分析手法 [第 4 回])」. *人工知能学会誌*, *23*(2), 265-270.
————. (2017).「順番交替」. *日本語学*, *36*(4), 60-69.
榎本美香・伝康晴. (2011).「話し手の視線の向け先は次話者になるか」*社会言語科学*, *14*(1), 97-109.
————. (2015).「フィールドに出た言語行為論—「指令」の事前条件達成における相互行為性・同時並行性・状況依存性」. *認知科学*, *22*(2), 254-267.
江原由美子.(1986)「現象学的社会学あるいはエスノメソドロジーにおける性差別研究の方向性」*お茶の水女子大学女性文化資料館報*(7).41-48

（→再録 : 1988「日常性としての性差別」『フェミニズムと権力作用』勁草書房,pp.144-158）
————.(1987).「座席取りの社会学」
山岸健［編］『日常生活と社会理論—社会学の視点』慶應通信.pp.131-152.
————.(1992).「セクシュアル・ハラスメントのエスノメソドロジー—週刊誌にみる「解釈の政治学」」好井裕明［編］『エスノメソドロジーの現実』世界思想社. pp.111-133.
（→再録：1995『装置としての性支配』勁草書房.pp.181-206.)
————.(1995)「行為・相互行為・社会的場面」宮島喬［編］『現代社会学』有斐閣.pp.8-31.
（→改訂のうえ再録：2005『現代社会学　改訂版』pp.10-33.）
江原由美子・好井裕明・山崎敬一. (1984).「性差別のエスノメソドロジー—対面的コミュニケーション状況における権力装置」. *現代社会学*, (18),pp.143-176.
海老田大五朗. (2011a).「接骨院における問診場面での柔道整復師と患者の相互行為」. *新潟青陵学会誌*, 4(1), 45-54.
————.(2011b).「柔道整復師によるセルフストレッチング指導の相互行為分析」. *保健医療社会学論集*, 21(2), 104-115.
————(2011c).「触診における柔道整復師と患者の相互行為分析」. *保健医療社会学論集*, 22(1), 82-94.
.————.(2012a).「柔道整復師はどのようにしてその名を得たか」 *スポーツ社会学研究*, 20(2), pp.51-63.
————. (2012b).「柔道整復師のストレッチングを受ける患者の語りと相互行為—健康観と相互行為」. *Sociology today*, (20), 13-25.
————.(2016).「柔道家たちの予期を可能にするもの」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］. 『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.pp.259-278.
————.(2017).「柔道整復師のプロフェッショナル・ヴィジョン」水川・秋谷・五十嵐［編］. 『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社. pp.189-207.
海老田大五朗・荒木重嗣・松尾美貴. (2014).「会話にもとづいて認知症を理解する：C さんにとって「避難訓練」とは何だったのか?」 *新潟青陵学会誌*, 7(1), 81-89.
海老田大五朗・藤瀬竜子・佐藤貴洋. (2015).「障害者の労働はどのように「デザイン」されているか?—知的障害者の一般就労を可能にした方法の記述」*保健医療社会学論集*, 25(2), 52-62.
海老田大五朗, & 野﨑智仁.(2016).「地域のストレングスに基づいた就労支援のデザイン：カフェ H のエスノグラフィ」. *新潟青陵学会誌*, *8*(3), 29-38.
海老田大五朗・佐藤貴洋・藤瀬竜子. (2017).「障害者が使用するミシンのデザイン：協働実践としてのデザイン」. *新潟青陵学会誌*, *9*(1), 33-43.
————.(2018).「意思決定支援における常識的知識とオーサーシップ」 *新潟青陵学会誌*(11)1,1-12.
遠藤智子.(2017).「コラム：会話における認識的スタンス」

鈴木亮子・秦かおり・横森大輔［編］『話しことばへのアプローチ—創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦』ひつじ書房.pp.142-144.
遠藤智子・高田明.(2016).「言うこと聞きなさい：行為指示における反応の追求と責任の形成」高田・嶋田・川島［編］.『子育ての会話分析 ： おとなと子どもの「責任」はどう育つか』昭和堂.pp.55-75.
遠藤智子・横森大輔・林誠.(2017).「確認要求に用いられる感動詞的用法の「なに」：認識的スタンス標識の相互行為上の働き」*社会言語科学*20(1).100-114.

［お］
大石真澄. (2015).「生理用品のテレビ CM をめぐる理解とカテゴリー使用の実践：ハーヴィー・サックスの「成員カテゴリー化装置」を手がかりに」. *ソシオロジ*, *60*(2), 57-74.
————. (2016).「学習図鑑において知識の解説と提示はいかにして行われてきたのか：見開き完結フォーマットをめぐる意味受容の変遷から」. *日本研究*, *52*, 183-214.
大谷実.(1997).「授業における数学的実践の社会的構成—算数・数学科の授業を事例に」平山満義［編］『質的研究法による授業研究—教育学/教育工学/心理学からのアプローチ』北大路書房.pp.270-285.
大辻秀樹.(2003).「女児仲間集団の会話構造に関する臨床的研究」*教育社会学研究*, 72, 171-190.
————. (2004). 「児童の友人関係上のトラブルと教師の対応方法」. *教育学科研究年報*, 30, 31-39.
————. (2004b).「エスノメソドロジーからみたいじめ—女子児童の対シカト会話システム」. *現代のエスプリ*, (441), 91-99.
———— (2006). 「Type M:「学ぶことに夢中になる経験の構造」に関する会話分析からのアプローチ」.*教育社会学研究*, 78(0), 147-168.
————(2007).「小学校における教育実践の資料化: 会話分析による教育臨床研究の試み」*臨床教育学研究年報*, (33), 1-9.
————.(2018).「「主体的・対話的で深い学び」の観察可能性」北澤毅・間山広朗［編］『教師のメソドロジー—社会学的に教育実践を創るために』北樹出版.pp.71-85.
大津友美.(2016).「留学生との雑談—第二言語話者との会話における非対称性の克服を目指して」村田和代・井出里咲子［編］『雑談の美学—言語研究からの再考』ひつじ書房. pp.167-188.
大貫挙学・松木洋人. (2003).「犯行動機の構成と成員カテゴリー化実践：いわゆる「足利事件」における精神鑑定をめぐって」. *犯罪社会学研究*, (28), 68-81.
大貫挙学・藤田智子. (2012).「刑事司法過程における家族規範」. *家族社会学研究*,24(1), 72-83.
大山大樹.(2013)「日本語学習の修正場面における 「会話」の協働的達成—学習者のふるまいに関するエスノメソドロジー的研究」. Мовні і концептуальні картини світу, (45), 164-169.
————(2014).「日本語学習場面における学習者たちの「わからない言葉を調べない」ふるま

いに対する積極的な評価—「学習者たちの学び合い」に関するエスノメソドロジー的研究」. Мовні і концептуальні картини світу, (49), 132-136.
————.(2016a).「グループワークにおける教え手の「介入」の協働的生成—フランス語初習者の相互行為分析から」 *都市文化研究*,18,16-30.
————. (2016b).「グループワークにおいて発言の順番を待っている学習者のふりかえりの実際—日本語会話クラスの相互行為分析から」 Мовні і концептуальні картини світу,(58),133-138.
————.(2016c).「グループワークにおける音声発話していない学習者の学びのありよう—フランス語初習者クラスの相互行為分析から」 Revue japonaise de didactique du français,(11),130-139.
————. (2017a)「グループワークにおける周辺的聞き手の質問を起点とした省察の生成—フランス語初級クラスの相互行為分析から」 *都市文化研究*,19, 15-26.
————. (2017b).「グループワークにおける参加していないことの構築」. *大学教育*,*14*(2),1-11.
————.(2018)「グループワークにおける書く行為の協働的生成—フランス語初級クラスの相互行為分析から」 *都市文化研究*,20,31-41
岡沢亮.(2016).「作品のわいせつ性に関する法的判断と非-法的知識：メイプルソープ事件判決を事例として」. *ソシオロゴス*, (40), 95-110.
————. (2017).「図画のわいせつ性をめぐる裁判の恣意性再考」. *現代社会学理論研究*, (11), 29-41.
————.(2018a).「法廷の相互行為における素人の対抗：ある映画製作者の応答技法について」. *法社会学*, (84), 183-202.
————.(2018b).「法専門家と芸術専門家の対立—テクスチュアル・トラベルと専門的知識」 *年報社会学論集*,(31),1-11.
岡田庄生・小川豊武. (2016).「広告クリエーターはいかにして企業課題を発見しているのか：クリエーターによる経営者への課題ヒアリング場面の分析」. *広告科学*, *63*, 31-41.
岡田将吾, 坊農真弓, 高梨克也, 角康之, & 新田克己. (2015).「非言語マルチモーダル情報を利用したグループ対話におけるジェスチャの機能認識」. *電子情報通信学会論文誌 A*, *98*(1), 63-75.
岡田みさを. (2005).「参加者による発話行動理解への動的過程：会話分析 (CA) 手法の言語とジェンダー研究への応用」. *藤女子大学紀要. 第 I 部, 42, 55-78*.
————.(2007).「リソースの組み合わせとしてのインタラクション—「アクションの理論」による終助詞「ね」の分析」上野直樹・ソーヤーりえこ［編著］『文化と状況的学習—実践, 言語, 人工物へのアクセスのデザイン』凡人社.pp.171-218.
————. (2008). 「第 20 回研究大会ワークショップ：インストラクション場面における「職業的/専門的な見方」とその組織化の様相」. *社会言語科学*, *11*(1), 179-182.
————. (2017).「「女の子パンチ」にみるジェンダーカテゴリーの相互行為的意味」柳町智治・岡田みさを［編］『インタラクションと学習』ひつじ書房.

岡田みさを・柳町智治.(2008)「インストラクションの組織化 : マルチモダリティと「共同注意」の観点から」.*社会言語科学 11(1)* .139-150.
岡田美智男.(2001)「特集「社会的相互行為」にあたって」*人工知能学会誌* 6(6), 797-798,
————.(2008).「人とロボットとの相互行為とコミュニケーションにおける身体性」*現代思想* 36(16), 300-311.
————. (2009).「ソーシャルなロボティクスと会話分析研究との接点を探る—社会的相互行為に立ち会う視点の位置を巡って」. *認知科学*, *16*(4), 487-493.
岡田光弘.(1994a).「社会構成主義の現在：社会問題のエスノメソドロジー的理解を目指して」. *年報筑波社会学*, (5), 1-46.
————(1994b).「いくつのエスノメソドロジーがあるのか？」*社会学論考*(15).93-120
————.(1994c)「エスノメソドロジーと認知的構成論」*Sociology today* (5), .84-96.
————(1995a)「観察科学としてのエスノメソドロジー—初期エスノメソドロジーを貫くもの」*現代社会理論研究*(5).137-147.
————(1995b).「エスノ・ソシオロジーの誘惑」 *年報筑波社会学*(7), 109-118.
————(1995c)「相互行為場面における身体とカテゴリー—身体の社会学としての購買場面のエスノメソドロジー的相互行為分析」*Sociology today* (6), pp.27-38
————. (1996a).「119 番通話の社会的な組織化 : 概念と相互行為としてのトークについて」. *年報社会学論集*, (9), 59-70.
————. (1996b). 「『制度』を研究するということ—インタビューと 119 番通話の終了部の会話分析 (特集 119 番通話の会話分析的研究—制度・組織のエスノメソドロジー)」. *現代社会理論研究*(6), 165-180.
————.(1999)「119 番通報の会話分析」
好井裕明・山田富秋・西阪仰［編］『会話分析への招待』世界思想社 pp.196-222.
————.(2001).「構築主義とエスノメソドロジー研究のロジック」. 中河伸俊［編］『社会構築主義のスペクトラム：パースペクティブの現在と可能性』.ナカニシヤ出版.pp.26-42.
————.(2002).「スポーツ実況中継の会話分析」
橋本純一［編］『現代メディアスポーツ論』世界思想社,pp.163-195
————(2004)「制度と会話—エスノメソドロジー研究による会話分析」
山崎敬一［編］.『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.,pp.100-112.
————.(2005a).「医学教育のための応用エスノメソドロジー研究」.
応用社会学研究, 47,113-127.
————(2005b)「身体の動きの表象を『自然に』読むということ—エスノメソドロジー研究によるテキスト分析」
三宅和子・岡本能理子・佐藤彰［編］『メディアとことば 2』ひつじ書房.pp.136-157.
————(2005c)「エスノメソドロジー研究」
三宅和子・岡本能理子・佐藤彰［編］『メディアとことば 2』ひつじ書房.pp.158-159.

————(2007a).「秩序があるとは、どのようなことか」
前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』pp.57-74.
————(2007b)「議論をする／釈明をする」
前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』pp.156-162.
————(2007c)「ジョークを語る（物語をすること／理解の表示としての笑い）」
前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』pp.163-168.
————(2007d)「ニュースを伝える／受けとる」
前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』pp.169-174.
————(2007e).「エスノメソドロジー研究の想像力：社会に学ぶ想像力を解放する」
年報筑波社会学. 第II期 ,1,.114-128
———— (2008).「ビデオ・エスノグラフィー：医学教育のなかの身体と視線」.
応用社会学研究, 50, 155-164.
————.(2012)「会話分析・エスノメソドロジー―人びとの活動を可能にしているものを明らかにする」茂呂雄二・有元典文ほか［編］『状況と活動の心理学―コンセプト・方法・実践』新曜社.pp.247-252.
————. (2013).「「社会学的記述」について」. *コミュニケーション紀要*, 24, 93-100.
————. (2014a).「『Perspectives in Sociology』に見た Ethnomethodology の自画像」.
コミュニケーション紀要, 25, 31-84.
————(2014b).「スポーツ実践における「観察」：観察社会学による身体教育のフィールドワーク」. *成城大学共通教育論集*, (7), 97-107.
————. (2015).「『Perspectives in Sociology』を経由してみる，もうひとつの<概念分析の社会学 (エスノメソドロジー)>：相互反映性という論点から」
コミュニケーション紀要,26, pp.31-70.
————. (2017). 「「学習の観察社会学：レントゲン写真について「考える人」から,それを「読む人」へ」.*成城大学社会イノベーション研究*, 12(2), 35-55.
————. (2018)「医療面接のコミュニケーション分析―人びとの方法に学ぶ研究手法（「ビデオ・エスノグラフィー」「相互行為分析」「観察社会学」）とは」.
樫田美雄・岡田光弘・中塚朋子［編］.『医療者教育のビデオ・エスノグラフィー』晃洋書房.pp.43-58.
岡田光弘・山崎敬一・行岡哲男(1997)「救急医療現場の社会的組織化」
山崎敬一・西阪仰［編］. 『語る身体・見る身体』ハーベスト社.pp.168-185.
岡田光弘・樫田美雄・平英美. (2009).「会話分析から見た医療コミュニケーション」.

医療コミュニケーション研究会［編］『医療コミュニケーション—実証研究への多面的アプローチ』篠原出版新社 pp.83-100.
岡田悠佑.(2015a).「ドーナツを穴だけ残して食べる言語文化学的方法：会話分析による考察」. *言語文化研究*, 41, 27-46.
————.(2015b).「アイデンティティによる尺度化：言語教師の定式化手続きの会話分析研究」 *JALT Journal, 37*(2), 147-170.
————.(2017).「教師の相互行為能力を可視化する—会話分析による授業実践のアプローチ」今尾康裕・岡田悠佑・小口一郎・早瀬尚子［編］『英語教育徹底リフレッシュ：グローバル化と 21 世紀型の教育』開拓社.pp.39-52.
————.(2018).「ラベルの妥当性と物語の適切化—第 2 言語での採用面接における物語連鎖」. *言語文化共同研究プロジェクト 2017*, 13-22.
岡村逸郎. (2013).「「通り魔的」の誕生と犯罪被害者問題：犯罪被害者補償に関する新聞報道のカテゴリー化実践に注目して」. *犯罪社会学研究*, (38), 110-123.
————. (2014).「犯罪被害者救済の言説の地平はいかにしてきりひらかれたのか:<社会保険>がつくりあげた, 大谷実の実践について」.*年報社会学論集*, (27), 25-36.
岡本能里子. (1990)「電話による会話終結の研究」. *日本語教育*, 72,145-159.
————. (1991).「会話終結の談話分析」. *東京国際大学論叢 商学部編*,44, 117-133.
————. (1997).「教室談話における文体シフトの指標的機能—丁寧体と普通体の使い分け」. *日本語学*, 16(3), 39-51.
岡本能里子・服部圭子(2017).「LINE のビジュアルコミュニケーションスタンプ機能に注目した相互行為分析を中心に」
柳町智治・岡田みさを［編］『インタラクションと学習』ひつじ書房.
小川豊武.(2014a).「戦後日本における「青年」「若者」カテゴリー化の実践：1950~ 60 年代の新聞報道を事例として」. *マス・コミュニケーション研究*, (84), 89-107.
————. (2014b).「若者言説はいかにして可能になっているのか：心理学的知としての「モラトリアム」の概念分析」. *年報社会学論集*, (27), 37-48.
————.(2016).「「若者」はいかにしてニュースになるのか」
川崎賢一, 浅野智彦［編］『「若者」の溶解』勁草書房
小田桐徳和・浦野茂(2008)「格闘技実況中継の会話分析」.*地域研究* (16) pp.85-97.
小野寺典子. (1992).「エスノメソドロジーにおける電話会話の研究と日本語データへの応用」*日本語学*, 3, 26-38.
小野奈生子. (2009).「保育実践場面における「ルール」の社会的構築：ブランコの順番交代の事例を通して」. *立教大学教育学科研究年報*, *52*, 63-76..
————. (2012a).「学校的社会化についての一試論—「推論実行機械」概念の利用可能性」. *共栄大学研究論集*, (10), 235-254.
————.(2012b).「感情社会学の変遷と課題—社会・文化性の問い方をめぐって」

北澤毅［編］『文化としての涙—感情経験の社会学的探求』勁草書房.pp.22-40.
————.(2012c).「ことばの前の〈泣き〉—「泣き声」の意味づけをめぐる相互行為の分析」
北澤毅［編］『文化としての涙—感情経験の社会学的探求』勁草書房.pp.73-88.
（※芝田奈生子(2005)を改稿したもの）
————. (2017).「児童-教師間相互行為にみる学校秩序：発話のインデックス性・相互反映性に着目して」. *立教大学教育学科研究年報*, *60*, 121-131.
————.(2018).「園児から 1 年生への「飛躍」としての社会化」
北澤毅・間山広朗［編］『教師のメソドロジー—社会学的に教育実践を創るために』
北樹出版.pp.17-29.
小山慎哉, 葛岡英明, 山崎敬一, 山崎晶子, 加藤浩, 鈴木栄幸, & 三樹弘之. (1999).
「実空間上の遠隔作業指示を支援するシステムの開発」. *情報処理学会論文誌*, *40*(11), 3811-3822.
小山慎哉・葛岡英明・上坂純一・山崎敬一.(2004).「実空間を対象とした遠隔コミュニケーション支援システムの設計要件提案と開発」. *情報処理学会論文誌*, *45*(1), 178-187.

［か］
樫田美雄.(1991a).「施設内文化の研究—二つの悪循環過程の例示とその意味の考察」
母子研究,11,.12-27
————. (1991b).「アグネス論文における<非ゲーム的パッシング>の意味：エスノメソドロジーの現象理解についての若干の考察」. *年報筑波社会学*, (3), 74-98.
————(1994).「達成されるものとしての権力：権力現象を探究するためのノート」.
社会学ジャーナル, 19, 145-152.
————. (1995a).「119 番通話における緊急電話らしさの達成」. *年報社会学論集*,(8), 227-238.
————. (1995b).「デイケアの社会学—K 市中間施設における観察記録から」.
臨床心理学研究, 33(1), p16-28.
————. (1996a). 「119 番通話研究の意義について」. *現代社会理論研究*, 6, 113-120.
————. (1996b).「医療におけるコミュニケーションの可能性—終末期医療の社会学的研究」.
臨床心理学研究, 33(3), 2-17.
————. (1996c).「エスノメソドロジーと権力—エスノメソドロジーは権力をどのように扱うのか」. *社会学ジャーナル*, (21), 102-113.
————. (2001). 「エスノメソドロジー的アプローチ」.
『家族社会学の分析視角—社会学的アプローチの応用と課題』ミネルヴァ書房, pp.122-137.
————.(2004a).「調査実習としてのエスノメソドロジー」
山崎敬一［編］.『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.pp.85-98.
————. (2004b).「エスノメソドロジー・会話分析からみた医師と患者の会話：患者の同意の共同的達成」 *保健医療社会学論集*, 14(2), 35-44.

————. (2006).「「弱者の抵抗」の非個人能力主義的解釈—論理的達成と会話的達成」. *ソシオロジ*, 51(1), 171-177.

————.(2006).「フィールド研究の倫理とエスノメソドロジー：社会リアリティの変化と社会理解ループの変化」平英美, & 中河伸俊［編］『新版・構築主義の社会学: 実在論争を超えて』世界思想社,pp.260-284..

————. (2010a).「病院に行く」串田秀也・好井裕明［編］(2010)『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社.pp.133-153.

————(2010b)「施設で暮らす」串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社. pp.154-170.

————. (2014a).「研究倫理の討議的達成の相互行為分析：福島原発事故・甲状腺検査評価部会のケーススタディー」. *現象と秩序*, (1), 103-125.

————. (2014b).「研究倫理に関する<合意形成>の相互行為分析：福島県民健康管理調査の事例研究」. *質的心理学フォーラム*,6, 41-49.

————. (2018).「コミュニケーショントラブルの合理的背景—医療面接のビデオ・エスノグラフィー」樫田美雄・岡田光弘・中塚朋子［編］『医療者教育のビデオ・エスノグラフィー』晃洋書房.pp.19-42.

樫田美雄・岡田光弘・五十嵐素子・宮崎彩子・出口寛文・真鍋陸太郎・小泉秀樹ほか. (2008).「高等教育改革の相互行為分析：ビデオ・エスノグラフィー研究の狙いと工学部都市工学演習の実際」. *大学教育研究ジャーナル*, 5, 93-104.

樫田美雄・岡田光弘・中村和生. (2001).「解剖実習のエスノメソドロジー: 社会的達成としての医学教育」. *年報筑波社会学*, 13, 96-127.

樫田美雄・喜多加実代. (1998).「制度的場面について：緊急電話のエスノメソドロジー」. *徳島大学社会科学研究*, 11, 97-138.

樫田美雄・寺嶋吉保. (2003).「インフォームド・コンセントに家族はどのように関わっているか—エスノメソドロジー的検討」. *社会学年誌*, (44), 33-55.

樫田美雄・堀田裕子・若林英樹.(2014).「在宅医療文化のビデオエスノグラフィー—生活と医療の相互浸透関係の探求」. *現象と秩序*, (1), 95-101.

————(2015).「在宅療養インタビューで発見された 2 つの課題:「病歴と生活歴のズレ問題」と「看取りのパラドックス問題」」.*現象と秩序*, (2), 201-207.

樫村志郎. (1987). 「我が国の労使紛争における当事者の 「背景報告」(一)：不当労働行為紛争を素材として」. *神戸法學雜誌*, 37(1), 19-79.

————(1989).「紛争行動と文化的説明—日本の労働争議における文化の使用法」藤倉晧一郎・長尾龍一［編］『国際摩擦—その法文化的背景』日本評論社,174-202.

————.(1990a).「法律現象のエスノメソドロジーにむけて」. *神戸法学年報*, 6, 73-99.

————. (1990b).「我が国の労使紛争における当事者の「背景報告」(二)：不当労働行為紛争を素材として」. *神戸法學雜誌*, 39(4), 1073-1096.

————.(1991).「労働仲裁の社会学的秩序」中野貞一郎・新堂幸司・鈴木正裕・竹下守夫・青山善充・伊藤眞・高橋宏志［編集委員］『三ケ月章先生古稀祝賀論文集 民事手続法学の革新（上）』有斐閣. pp.649-680.

————. (1992).「法律的探究の社会組織」
好井裕明［編］『エスノメソドロジーの現実』世界思想社,pp.88-110.

————(1994).「＜席交替＞の社会的達成—インタビューにおける回答者地位の委譲をめぐって」.*現代社会理論研究*,4,.187-199.

————(1996a).「会話分析の課題と方法」. *実験社会心理学研究*, 36(1), 148-159.

————. (1996b).「法律相談における協調と対抗」.
棚瀬孝雄［編］『紛争処理と合意』ミネルヴァ書房, 209-233.

———— (1997a).「裁判外紛争処理における弁護士の関与」. *法社会学*, (49), 52-62.

————(1997b)「視線と法廷」
山崎敬一・西阪仰［編］『語る身体・見る身体』ハーベスト社.pp.186-213

————(1998a)「相対交渉」小島武司・伊藤眞［編］『裁判外紛争処理法』有斐閣.pp.50-59.

————.(1998b).「法社会学とエスノメソドロジー」
山田富秋・好井裕明［編］.『エスノメソドロジーの想像力』. せりか書房.224-237.

————. (1998c).「エスノメソドロジーとは何か？」. *日本ファジィ学会誌*, 10(1), 2-10.

————. (1998d).「規範の身体：エスノメソドロジーの犯罪社会学への応用」.
犯罪社会学研究, (23), 23-34.

————.(1999a).「震災報道の会話分析」
好井裕明・山田富秋・西阪仰［編］『会話分析への招待』世界思想社.pp.148-172.

————(1999b).「合意の観察可能性」
井上治典・佐藤彰一［共編］『現代調停の技法—司法の未来』判例タイムズ社.pp.294-307.

———— (2000a).「宗教的世界の会話的構成(一)」.*神戸法學雜誌*,49(3),139-190.

————.(2000b).「宗教的世界の会話的構成(二・完)」.*神戸法學雜誌*,49(4),.83-166.

————.(2001).「法的トークの制度的特徴—法律相談場面の会話分析」*語用論研究*,3 .86-100.

————(2002a)「相談先行連鎖」,
『新堂幸司先生古稀記念論文集—民事訴訟法理論の新たな構築・上』,有斐閣,163-192..

————. (2002b).「法律相談の会話分析—制度的アイデンティティの呈示とトピック生成」
現代のエスプリ, (415), 92-101.

————(2002c).「実定法について—エスノメソドロジーの視角から」佐藤進・斉藤修［編］
『現代民事法学の理論—西原道雄先生古稀記念・下巻』信山社,779-807.

————(2004a)「法現象の分析」
山崎敬一［編］ 『実践エスノメソドロジー研究入門』有斐閣.pp.143-157.

————(2004b).「「相談の語り」とその多様性」
和田仁孝・樫村志郎・阿部昌樹［編］『法社会学の可能性』法律文化社. pp.212-235.

———— (2004c)「エスノメソドロジーと法」
和田仁孝・太田勝造・阿部昌樹［編］『法と社会へのアプローチ』日本評論社.
————. (2005).「法社会学の主題としての「死と生」—「死の法社会学」に向けて」.
法社会学, (62), 31-40.
————.(2008).「制度への疑問—ある「警察からの電話」の分析」.
現代社会学理論研究,(2),3-13.
————(2009)「日常と法における事実確定—日常会話と法律相談を素材にして」
伊藤眞ほか［編］『民事手続法学の新たな地平』有斐閣.pp.1049-1071.
————(2013a)「労働審判紛争の社会的構造—問題定義の記述形式を通じて」菅野和夫・仁田道夫・佐藤岩夫・水町勇一郎［編］『労働審判制度の利用者調査—実証分析と提言』有斐閣.pp.154-172.
————(2013b) 「法における共通理解の達成と維持」,片岡邦好・池田佳子［編］,
『コミュニケーション能力の諸相—変移・共創・身体化』,ひつじ書房,pp.311-342.
————(2013c)「コラム　社会的構築」, 片岡邦好・池田佳子［編］,
『コミュニケーション能力の諸相—変移・共創・身体化』ひつじ書房,343-345.
————.(2014).「市民法律相談における法への言及—その明示的および暗示的諸方法」
和田仁孝・樫村志郎・阿部昌樹・船越資晶［編］『法の観察—法と社会の批判的再構築に向けて』法律文化社. pp.159-183
————. (2015).「法社会学の対象と理論—エスノメソドロジーの社会学的形成の観点から」
法と社会研究, (1), 3-29.
————.(2016).「アカウントの社会学的解釈：Florian Znaniecki の社会学方法論を手掛かりにして」西田英一・山本顕治［編］『振舞いとしての法：知と臨床の法社会学』法律文化社. pp.3-25.
樫村志郎・菅野昌史. (1999).「契約過程の方法的組織化」
棚瀬孝雄［編］『契約法理と契約慣行』. 弘文堂,pp. 233-249.
柏原全孝(1995)「エスノメソドロジーの視座—再帰性とエトセトラ実践」
ソシオロジ,40(2)..23-39
粕谷圭佑. (2017).「相互行為の分析可能性についての一考察：成員カテゴリー化分析の射程」.
立教大学大学院教育学研究集録, (14), 1-16.
————.(2018).「児童的振る舞いの観察可能性—「お説教」の協働産出をめぐる相互行為分析」
教育社会学研究,102, 239-258.
片岡邦好・池田佳子・秦かおり.(2017).「参与・関与の不均衡を考える」片岡・池田・秦［編］
『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』pp.1-23,くろしお出版.
片岡邦好・白井宏美.(2017).「ラジオ番組収録における多層的な参与フレームの交わりについて—制度的制約に伴う現象を中心に」片岡・池田・秦［編］『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』くろしお出版,pp263-284..

加藤亜希子. (2010).「「始末書」にみる<学生>カテゴリーの実践」. *ソシオロジ*,55(1), 75-92.
加藤秀一.(2014).「生命の社会学のためのノート：<人々の形而上学>の観点から (1)」.
明治学院大学社会学・社会福祉学研究, (142), 85-103.
————(2016).「〈誤った生命〉とは誰の生命か—ロングフル・ライフ訴訟の定義から見えるもの」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.pp.134-153.
加藤隆雄.(1995).「アーヴィング・ゴッフマンにおける社会秩序の逆構築—断片的社会秩序とその理論(1)」*Sociology today* (6), 39-54,
————. (1996).「ハロルド・ガ-フィンケルにおける秩序, etc.の産出—断片的社会秩序とその理論(2)」*Sociology today* (7), 12-30,
加藤春恵子.(1975).「ガーフィンケルのエスノメソドロジー」 *中央評論*(134).
（再録→1986「エスノメソドロジーの可能性—「時代の子」の登場」
『広場のコミュニケーションへ』勁草書房 pp.120-134.)
————. (1978a)「日常生活における意味付与活動」.吉田民人［編］『社会学』日本評論社
（再録→1986『広場のコミュニケーションへ』勁草書房.pp.135-158.）
————.(1978b)「社会的相互作用への現象学的接近—ガーフィンケルのエスノメソドロジーをめぐって」 *社会学評論* 29(2).15-27
（再録→1986『広場のコミュニケーションへ』勁草書房.pp.159-183.）
————.(1980)「エスノメソドロジー」.安田三郎・塩原勉・富永健一・吉田民人［編］
『基礎社会学　第 II 巻　社会過程』東洋経済新報.pp.172-191.
————.(1986).「「広場」のエスノメソドロジー—オルタナティブ・コミュニケーション試論」
『広場のコミュニケーションへ』勁草書房.pp.184-206.
————.(1987)「女性解放運動のエスノメソドロジー—コミュニケーションとしての社会運動」
栗原彬・庄司興吉［編］『社会運動と文化形成』東京大学出版会.pp.185-212.
加藤浩. (1995). 「状況論的アプローチによる教育システムのデザイン」.
計測と制御, *34*(2), 122-130.
————. (2008).「もう一つの教育評価 : 状況内評価の活用に向けて (<特集>協調学習と AI)」.
人工知能学会誌, *23*(2), 163-173.
加藤浩, 井出有紀子, & 鈴木栄幸. (1999). 「状況論的アプローチによる情報教育のための協同学習環境のデザインと評価：プログラム対戦ゲーム「アルゴアリーナ」の開発と実践」.
情報処理学会論文誌, *40*(5), 2497-2507.
加藤浩・鈴木栄幸.(2004).「学校・教育工学・CSCL—コンピュータを通した協同の学び」
山崎敬一［編］　『実践エスノメソドロジー研究入門』有斐閣.pp.211-228.
金井薫.(2004).「会話における認識的権威の交渉—終助詞「よ」,「ね」,驚き表示の分析を通して」.
語用論研究, (6), 17-28.
金澤貴之・樫田美雄・上農正剛・岡田光弘・西澤弘行. (2001).「ろう文化と社会学: 聴者による

ろう文化理解は果たして可能か?」. *徳島大学社会科学研究*, 14, 1-53.
金澤貴之・樫田美雄・岡田光弘. (2003). 「障害者スポーツはなぜ 「面白い」のか？
：聾者バレーボールにおけるコミュニケーションの編成」. *群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編*. 52,.449-459
兼子一. (1995).「ラディカル・リフレキシビティ再考—reflexivity を radical かつ, referential にするとはどういうことか」. *Sociology today*, (6), 55-74.
————(1997).「自らが所属する世界において,自らを含み入れて記述する方法について (1)
：エスノメソドロジー研究からフィールドワーク論を再考する」*Sociology today*, (8),73-84.
————.(1998)「リフレクシビティとエスノメソドロジーを実践すること」
山田富秋・好井裕明［編］『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房.pp.88-104.
————. (1999).「信者が「世代」を語る時：「エホバの証人」の布教活動に現れたカテゴリー化実践の分析」. *宗教と社会*, *5*, 39-59.
————. (2003).「エスノメソドロジーによる宗教研究の可能性」. *宗教と社会（増補）*, 31-41.
神長百合子.(1992).「エスノメソドロジーと裁判研究」.*法社会学*,(44), 101-107.
————.(1996).「エスノメソドロジーによる法の理解」宮澤節生・神長百合子［編］『法社会学コロキウム：石村善助先生古稀記念論文集』日本評論社.
唐津麻理子(2011).「ストーリーテリングにおける語り手の自己表出と語彙・文法表現の使用—会話物語「サンタクロースの衣装を買った」の分析」*日本語／日本語教育研究*,(2). 267-286.
狩谷あゆみ. (1997).「社会問題の構成と隠蔽—「道頓堀野宿者殺人事件」に関するマスコミ報道を事例として」. *ソシオロジ*, 42(1), 77-95.
————(1998).「法廷における犯行動機の構成と被害者のカテゴリー化」.
社会学評論, 49(1),.97-109.
河﨑宜史・池谷のぞみ. (2013).「医療スタッフの協働を支援する—検査業務のエスノグラフィ(ユーザスタディのフロンティア 3.)」. *情報処理*, *54*(10), 1028-1033.
川島理恵. (2008a).「不妊治療方針に関する提案の構造」西阪・高木・川島『女性医療の会話分析』. 文化書房博文社.pp.157-176.
————.(2008b).「不妊治療における患者意思の立ち現れ方」西阪・高木・川島『女性医療の会話分析』, 文化書房博文社.pp.181-197.
————.(2013).「救急医療における意思決定過程の会話分析」 *社会学評論*,64(4), 663-678.
川島理恵・高田明.(2016).「家族をなすこと：胎児とのコミュニケーションにおける応答責任」
高田・嶋田・川島［編］.『子育ての会話分析 ：おとなと子どもの「責任」はどう育つか』昭和堂.pp.171-198.
川島理恵・バーデルスキー,M.(2016).「全米日系人ミュージアムの会話分析」
山崎敬一・やまだようこ・山崎晶子・池田佳子・小林亜子［編著］
『日本人と日系人の物語—会話分析・ナラティヴ・語られた歴史』pp.270-285.

川床靖子.(2000)「人、もの、世界の関係を可視化するインスクリプション」*心理学評論(43)*,2-23.
————. (2001).「流通活動を組織化するアーティファクト」
上野直樹［編］『状況のインターフェース』金子書房.pp.104-139.
————. (2007).「個人とコミュニティの社会・技術的編成―バイテクラボにおける科学的ディスコースの分析」. *大東文化大学紀要. 社会科学* (*45*), 147-164.
————. (2008).「精密部品の加工実践における多層的ヴィジョンの状況的構成」.
大東文化大学紀要. 社会科学(46), 217-235.
河村賢. (2013).「テロリズム研究における宗教的動機の概念分析：「新しいテロリズム」論争を事例として」. *ソシオロゴス*, (37), 1-19.
河村裕樹. (2017).「「普通であること」の呈示実践としてのパッシング―ガーフィンケルのパッシング論理を再考する」. *現代社会学理論研究*, (11), 42-54.
菅野昌史. (2000).「契約過程の形式構造についての一考察：英会話学校への入学契約を素材として」. *六甲台論集. 法学政治学篇*, 46(3), 35-65.
———— (2001).「陪審評議の会話秩序」.*法社会学*, (55), 192-207.
————(2010)「法律に接する」串田秀也・好井裕明［編］(2010)『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社.pp.171-186

［き］
菊地浩平. (2008). 「日本手話会話におけるターン・テイキング・メカニズム：隣接応答ペアとそのシグナルの分析」. *手話学研究*, *17*, 29-45.
———— (2011).「二者間の手話会話での順番交替における視線移動の分析」.
社会言語科学, 14(1), 154-168.
————(2015).「手話とコミュニケーション―接触場面としての手話会話」
村田和代［編］『共生の言語学―持続可能な社会をめざして』ひつじ書房
————.(2017).「通訳者の参与地位をめぐる手続き―手話通訳者の事例から」
片岡・池田・秦［編］『コミュニケーションを枠づける―参与・関与の不均衡と多様性』くろしお出版,pp.221-242.
菊地浩平・坊農真弓. (2012).「手話会話における修復の組織」.
言語・音声理解と対話処理研究会,(65), 37-42.
————. (2015).「相互行為としての手話通訳活動：通訳者を介した順番開始のための聞き手獲得手続きの分析」 *認知科学*, 22(1), 167-180.
岸政彦.(1994).「規則と行為―エスノメソドロジー批判の新しい視点」 *ソシオロゴス*(18)1-12.
喜多加実代. (1992).「歴史性と言説の水準―フーコーの考古学と歴史の現象学」.
Sociology today, (3), 1-15.
————. (1994).「保安処分をめぐる言説と“精神障害犯罪者”」.
年報社会学論集,1994(7),143-154.

————.(1996).「制度/組織の自己記述的側面—119 番通話の事例を通して」.
現代社会理論研究,(6). 121-132.
————. (2008).「触法精神障害者という問題—その問題化の系譜：1945 年から 1969 年の議論から (1)」. *福岡教育大学紀要 第 2 分冊 社会科編*, (57), 1-10.
————.(2009a).「触法精神障害者の「責任」と「裁判を受ける権利」—裁判と処罰を望むのはだれなのか」酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生［編］.『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版. pp.99-129.
————. (2009b).「語る/語ることができない当事者と言説における主体の位置—スピヴァクのフーコー批判再考」. *現代社会学理論研究*, (3), 111-123.
————. (2009c).「触法精神障害者という問題—その問題化の系譜：1945 年から 1969 年の議論から(2)」. *福岡教育大学紀要 第 2 分冊 社会科編*, (58), 1-11.
. ————. (2011).「触法精神障害者という問題—1970 年代における保安処分反対論の隆盛と保安処分対象者像の変化」. *福岡教育大学紀要 第 2 分冊 社会科編*, (60), 1-15.
————. (2013).「触法精神障害者という問題: 1970 年代における精神医療批判としての保安処分反対論」. *福岡教育大学紀要. 第 2 分冊, 社会科編.*, (62), 1-17.
————.(2016)「触法精神障害者と保安処分の対象」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』.ナカニシヤ出版.pp.65-84.
喜多加実代・浦野茂.(2017).「実践の記述としての「当事者」の概念分析」*社会学年報*(46),3-15.
北澤毅.(1985).「「問題」行動の社会的構成—相互行為論の視点から」
教育社会学研究(40), 138-149.
————.(1987).「規則適用過程における行為者の意志—「規則に従う」とはどういうことか」.
ソシオロジ, *32*(1), 55-71.
————. (1998).「「子ども問題」の語られ方—神戸「酒鬼薔薇」事件と〈少年〉カテゴリー」
教育社会学研究 (63), 59-73.
————. (2008).「「いじめ自殺」の構造：テレビドラマ『わたしたちの教科書』の分析を通して」. *立教大学教育学科研究年報*, *51*, 35-51.
————.(2011).「「学校的社会化」研究方法論ノート—「社会化」概念の考察」.
立教大学教育学科研究年報, *54*, 5-17.
————.(2012a).「感情はどこにあるのか—社会化・制度化への着目」
北澤毅［編］『文化としての涙—感情経験の社会学的探求』勁草書房.pp.3-21.
————.(2012b).「社会の中の涙・涙の中の社会」
北澤毅［編］『文化としての涙—感情経験の社会学的探求』勁草書房.pp.189-206.
————.(2012c).「「教育と責任」の社会学序説」. *教育社会学研究*, *90*, 5-23.
————.(2018).「「方法」とは何か—「方法の社会学」序説」
北澤毅・間山広朗［編］『教師のメソドロジー—社会学的に教育実践を創るために』
北樹出版.pp.2-13.

北澤裕.(1982).「エスノメソドロジーの成員活動に対する開放項概念と＜推論＞」
社会学年誌(23)131-149.
————(1984).「パーソンズ理論とエスノメソドロジー—主観性問題に関する方法分析をめぐって」. *社会学評論*, 35(1), 58-76.
————.(1985a).「言語による行為の構成」
江原由美子・山岸健［編］『現象学的社会学—意味へのまなざし』pp.131-157.
————.(1985b).「ドクサの正当性—言語行為の社会性と記述」
早稲田大学文学研究科紀要別冊哲学・史学(11),59-68.
————.(1987).「日常生活世界と背後期待」山岸健［編］『日常生活と社会理論』pp.195-216.
————. (1989). 「現実社会の構成とエスノメソドロジー—主体性への回帰を求めて」.
社会学評論, 40(1), 2-16.
————.(1991)「エスノメソドロジー」西原和久・張江洋直・佐野正彦［編］『社会学理論のリアリティ—現代社会学のまなざし』八千代出版.pp.44-64.
————(1993a).「同時定立と自己組織—エスノメソドロジーの構造概念」佐藤慶幸・那須壽［編］『危機と再生の社会理論』マルジュ社.pp.313-331.
————(1993b)「空間の表象とレンダリング・プラクティス—エスノメソドロジカル・アプローチ」*社会学年誌*(34).29-46.
————(1994)「科学的ワークのテクニカリティ—エスノメソドロジーは科学をどう扱えるか」
社会科学討究 40(1).185-211.
————.(1997).「エスノメソドロジー—秩序の局域的生成の解明」
那須壽［編］『クロニクル社会学—人と理論の魅力を語る』有斐閣.pp.241-256.
北田暁大.(2016a).「「開かれる」のではなく「閉じられているがゆえに開かれている」—社会とアート」藤田直哉［編］『地域アート 美学／制度／日本』堀之内出版.pp.301-339.
————.(2016b).「彼女たちの「社会的なもの the social」—世紀転換期アメリカにおけるソーシャルワークの専門職化」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』pp.90-111.
北野清晃.(2018).「ワークショップの実践的知識(1)—自己紹介をどのように始めるのか」
デザイン学論考,12, 3-9.
北村隆憲. (2012).「誘導尋問に対する証人の「はい/いいえ」を超える返答の帰結：法廷尋問のミクロ分析」. *法曹養成と臨床教育*, (5), 150-155.
————. (2013a).「法の相互行為分析と法実践」. *質的心理学フォーラム*, (5), 86-88.
———— (2013b) 「レイプ裁判と法廷尋問のミクロ分析：解題」. *東海法学*, (46), 94-106
————. (2013c).「「弁護士のアドバイスへの依頼者の拒否と抵抗」の可視化：臨床法学教育における「即時分析」から」*法曹養成と臨床教育*, (6), 153-157.
————. (2013d). 「反対尋問のビデオ・エスノグラフィー：弾劾と防御の方略とコミュニケーション・トラブル(特集 臨床法学教育場面のビデオ・エスノグラフィー)」.

鹿児島大学法学論集, *47*(2), 239-269.
————. (2015).「ミディエーションの相互行為分析の試み：エスノメソドロジーと会話分析の視点から」. *東海法学*, (51), 68-102.
————.(2016).「解釈法社会学とエスノメソドロジー／会話分析」西田英一・山本顕治［編］『振舞いとしての法：知と臨床の法社会学』法律文化社.pp.176-182.
————.(2018).「エスノメソドロジーと会話分析による法社会学研究の世界」*東海法学*(55),228-173.
北村隆憲・五十嵐素子・真鍋陸太郎.(2017).「航空管制のペアワークにおけるリスク管理—二重のモニターによる相互理解の達成」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.208-226.
木戸功・松木洋人. (2003)「ふつうに家族であることを成し遂げる—家族生活の組織化と成員カテゴリー化分析」. *社会学年誌*, (44), 15-31.
木下衆. (2012a).「家族会における「認知症」の概念分析：介護家族による「認知症」の構築とトラブル修復」. *保健医療社会学論集*, 22(2), 55-65.
————(2012b).「日常からの逸脱を識別する」. *ソシオロジ*, 57(1), 93-109.
————. (2013). 「介護家族による「特権的知識のクレイム」」.*社会学評論*, 64(1), 73-90.
————. (2014).「「認知症」患者の「人生」と「はたらきかけ」：ある介護家族の実践の医療社会学的分析」. *フォーラム現代社会学*, (13), 45-57.
————.(2016).「フィールドノートをとる—記録すること、省略すること」前田・秋谷・朴・木下［編］『最強の社会調査入門—これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版.pp.103-118..
木下衆・緑山清.(2013).「ケースを記録する—強調する，省略する，共有する」中河伸俊・赤川学［編］『方法としての構築主義』勁草書房 pp.94-112.
刑部育子. (1998). 「「ちょっと気になる子ども」の集団への参加過程に関する関係論的分析」. *発達心理学研究*, *9*(1), 1-11.
刑部育子・小野寺涼子. (2002). 「エスノメソドロジーによる社会的相互交渉の分析」. 野嶋栄一郎［編］『教育実践を記述する：教えること・学ぶことの技法』金子書房, pp.102-114.

［く］
権賢貞. (2009a). 「「日本語母語話者が非母語話者の言葉を置き換える」ということ—第二言語習得研究における「言い直し」の再考」*社会言語科学*, *12*(1), 44-56.
————.(2009b).「日本語非母語話者は学習モデルの逸脱者なのか—日本語教育と第二言語習得研究における調整過程の再考」. *筑波応用言語学研究*, (16), 45-59.
————. (2011).「「非母語話者がある対象物を指し示す日本語を学ぶ」ということ—第二言語習得研究における会話分析 (CA) の可能性」. *第二言語としての日本語の習得研究*, (14), 80-97.

串田秀也 (1988)「「フレーム」と「関与」: 相互作用分析における「コンテクスト」の問題へのゴフマンの視角」 *ソシオロジ*,33(2), .3-20.

————(1991) 「ゴフマンの関与／没入論と相互行為概念：Encounter 論を中心に」愛媛大学人文学会［編］『愛媛大学人文学会創立 15 周年記念論集』, pp.27-51.

————(1994a) 「日常生活と社会的相互行為」千石好郎［編］『モダンとポストモダン』pp.31-55.

————(1994b)「会話におけるトピック推移の装置系」 *現代社会理論研究*,(4).119-38.

————(1995) 「トピック性と修復活動：会話における「スムーズな」トピック推移の一形式をめぐって」 *大阪教育大学紀要：第二部門*,44(1).1-25.

————(1997a). 「会話のトピックはいかにつくられていくか」谷泰［編］『コミュニケーションの自然誌』新曜社 .pp.173-212.

————(1997b). 「ユニゾンにおける伝達と交感 : 会話における「著作権」の記述をめざして」谷泰［編］『コミュニケーションの自然誌』新曜社. pp.249-294.

———— (1999a) 「共有知識と経験への権限：物語りにおける参与の組織化の一局面に関する試論」 *大阪教育大学紀要：第二部門*,47(2), .59-81.

————(1999b) 「助け船とお節介：会話における参与とカテゴリー化に関する一考察」好井裕明・山田富秋・西阪仰［編］『会話分析への招待』世界思想社 pp.124-147.

———— (2000) 「モニターのこちら側のフィールドワーク：ある「会議」をめぐる会話分析の経験」好井裕明・桜井厚［編］『フィールドワークの経験』せりか書房.pp.176-93.

————(2001a) 「私は - 私は連鎖：経験の「分かちあい」と共ー成員性の可視化」 *社会学評論*,52(2).36-54.

———— (2001b) 「会話分析から見た「敬意表現」」 *Humanity of Science Bensei（人文学と情報処理）*(32).74-79.

————(2002a) 「統語的単位の開放性と参与の組織化(1)：引き取りのシークエンス環境」 *大阪教育大学紀要：第二部門* 50(2).37-64.

———— (2002b) 「統語的単位の開放性と参与の組織化(2)：引き取りにおける参与の交渉」 *大阪教育大学紀要：第二部門* 51(1).43-66.

————(2002c) 「会話の中の「うん」と「そう」: 話者性の交渉との関わりで」定延利之［編］『「うん」と「そう」の言語学』ひつじ書房. pp.5-46.

———— (2003) 「注意と抵抗：保育場面における規則の実際的利用」公民論集(12),77-99.

———— (2005a) 「参加の道具としての文：オーヴァーラップ発話の再生と継続」串田秀也・定延利之・伝康晴［編］『シリーズ文と発話１　活動としての文と発話』ひつじ書房,pp.27-62.

———— (2005b)「子供のトラブルのコントロール：相異なる事実描写の実際的整序」宝月誠・進藤雄三［編］『社会的コントロールの現在』世界思想社,pp.381-96.

————(2005c) 「「いや」のコミュニケーション学：会話分析の立場から」 *言語*,34(11).44-51

――――― (2006) 「会話分析の方法と論理 : 談話データの「質的」分析における妥当性と信頼性」伝康晴・田中ゆかり［編］『講座社会言語科学６　方法』ひつじ書房. pp.188-206.
――――(2008) 「指示者が開始する認識探索：認識と進行性のやりくり」*社会言語科学*,10(2).96-108.
――――― (2009a) 「聴き手による語りの進行促進：継続支持・継続催促・継続試行」*認知科学*,16(1). 12-23.
――――(2009b)「理解の問題と発話産出の問題―理解チェック連鎖における「うん」と「そう」」*日本語科学*,(25). 43-66.
――――(2010a)「言葉を使うこと」串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社. pp.18-35.
――――(2010b)「サックスと会話分析の展開」串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社.pp.205-224.
――――(2010c)「文献案内　ミーハン『授業を学ぶこと：教室における社会的組織化』」串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 pp.280-283
――――(2010d)「文献案内　リンチ『科学的実践と日常的行為：エスノメソドロジーと科学の社会的研究』」串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 pp.284-287.
――――(2010e)「文献案内　シェグロフ『相互行為における連鎖組織：会話分析入門 1』」串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 pp.288-292.
――――― (2011).「追加的解決方法を求める訴え―精神科外来診察におけるデリケートな問題提示の一事例」*大阪教育大学紀要　第Ⅱ部門*,60(1) .1-21.
――――.(2017a).「会話分析とは何か」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房. pp.1-27.
――――.(2017b).「行為の構成と理解」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房. pp.28-50.
――――.(2017c).「連鎖組織（4 節 データに切り込む糸口としての連鎖組織/ 5 節 結論）」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房.pp.105-117.
――――.(2017d).「表現の選択」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房.pp.218-242.
――――.(2017e).「全域的構造組織」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房. pp.259-273
――――.(2017f).「相互行為・制度・社会生活（1 節 相互行為における制度の「証」/ 2 節 制度的相互行為における実際的目的の追求 : 医療制度の場合/ 3 節 より多様な社会生活の諸相へ/ 5 節 結びに代えて）」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房.pp.274-301,310.
――――.(2018).「発話デザイン選択と行為の構成―精神科診療における処置決定連鎖の開始」

平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実［編］.『会話分析の広がり』ひつじ書房. pp.163-191.
串田秀也・好井裕明.(2010)「エスノメソドロジーへの招待」
串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 pp.1-14.
串田秀也・平本毅・山川百合子(2013) 「典型的な更新連鎖とそのオールターナティヴ：精神科外来再診場面の開始部門に関する覚え書き」
大阪教育大学紀要　第Ⅱ部門　社会科学・生活科学,62(1).1-21.
串田秀也・林誠.(2015).「WH 質問への抵抗—感動詞「いや」の相互行為上の働き」
友定賢治［編］『感動詞の言語学』ひつじ書房.pp.169-210.
葛岡英明, 水川喜文, & 三樹弘之. (1995). 「CSCW 研究とエスノメソドロジー研究の接点」. *現代社会理論研究*, *5*, 76-91.
葛岡英明・山崎晶子・山崎敬一.(2004)「コンピューター支援の協同作業研究」
山崎敬一［編］.『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.pp.229-239.
葛岡英明・山崎敬一・上坂純一. (2005).「ロボットを介した遠隔コミュニケーションシステムにおけるエコロジーの二重性の解決: 頭部連動と遠隔ポインタの評価」.
情報処理学会論文誌, *46*(1), 187-196.
久野義徳（2011）「エスノメソドロジーに基づくロボット研究」
日本ロボット学会誌.29(1) .27-30
久野義徳, 山崎敬一, 秋吉直矩, & 丹波仁史. (2006). 「介護ロボット開発のための人間の依頼行動の分析」*埼玉大学紀要. 工学部 第 1 編 第 1 部 論文集*, *39*, 97-101.
黒嶋智美.(2013a).「経験の固有性を認める共感」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂. 『共感の技法—福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.127-139.
————.(2013b).「段階をへる共感」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂. 『共感の技法—福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.157-171.
————.(2016)「ん？なあに？：言い直しによる責任の形成」
高田・嶋田・川島［編］.『子育ての会話分析 ： おとなと子どもの「責任」はどう育つか』昭和堂.pp.171-198.
黒嶋智美, 城綾実, 杉浦秀行, & 牧野遼作. (2016)「第 36 回研究大会ワークショップ 発語・ジェスチャー・物理的環境の包括的記述に向けて—会話分析の可能性と課題」
社会言語科学, *18*(2), 76-81.

［け］
見城武秀.(2006).「「他者がいる」状況下での電話」山崎敬一［編］. (2006)『モバイルコミュニケーション： 携帯電話の会話分析』大修館書店. pp.145-164.

［こ］

小池星多. (1996). 「協同的達成としての表現のデザイン」. *認知科学*, *3*(4),77-101.
————.(2001).「観察を組織化する道具―動きのデザインにおけるコンピュータの状況的な使用」加藤浩・有元典文［編］『認知的道具のデザイン』金子書房.pp.139-174.
————. (2006). 「エスノメソドロジーと状況論的デザイン」 *ヒューマンインタフェース学会誌* *8*(4), 241-246.
小池高史. (2009).「日常会話に現れる「自己」の存在形式とその利用 : 自己呈示発話の会話分析」. *技術マネジメント研究*, 8, 1-10.
————. (2012).「認知症患者への話しかけ方: 映像作品における話しかけ場面の会話分析」. *保健医療社会学論集*, *23*(1), 96-105.
————. (2015).「認知症患者への話しかけ場面の会話分析: 発話のタイミングに着目して」 *コミュニケーション障害学*, 32(1), 71-77.
————. (2017).「認知機能検査の会話分析: 検査の会話における焦点と問題の処理」. *保健医療社会学論集*, *27*(2), 57-66.
小磯花絵・伝康晴. (2000). 「円滑な話者交替はいかにして成立するか 会話コーパスの分析にもとづく考察」. *認知科学*, *7*(1), 93-106.
甲田直美. (2015a).「語り内において連鎖する節の音声特徴：語りの構造とターン交替システムとの関連から」. *認知言語学論考*, (12), 261-289.
————(2015b).「語りの達成における思考・発話の提示」. *社会言語科学*, 17(2), 24-39.
小坂啓史(2014).「ケアの場における相互行為を分析するために：エスノメソドロジーの応用可能性に関する考察」. *日本福祉大学子ども発達学論集*, (6), 21-29.
————. (2017). 「<ケア関係>の形成についての相互行為分析―「重度身体障害者」対象の生活介護事業所でのビデオ映像データに基づいて」. *現代と文化:日本福祉大学研究紀要*, *135*, 41-55.
越川葉子. (2010).「少年犯罪被害者の語りにおける成員カテゴリー化実践：被害当事者の手記分析を通して」. *立教大学教育学科研究年報, 53,* 183-196.
————. (2012).「少年院における「謝罪」の概念分析:「謝罪の気持ち」の観察可能性に着目して」. *立教大学教育学科研究年報*, *55*, 87-100
————. (2013).「加害少年の「謝罪」概念に関する覚書：新聞記事を事例として」. *立教大学教育学科研究年報*, *56*, 67-76.
小嶋秀樹・高田明. (2001).「社会的相互行為への発達的アプローチ: 社会のなかで発達するロボットの可能性」. *人工知能学会誌*, *16*(6), 812-818.
越川葉子. (2009).「少年犯罪被害者の語りにおける成員カテゴリー化実践：被害当事者の手記分析を通して」.*立教大学教育学科研究年報*, 53, 183-196.
————.(2012).「「家族」になった「父」と「娘」―成員性の喪失と回復手続きとしての〈泣き〉」 北澤毅［編］『文化としての涙―感情経験の社会学的探求』勁草書房.pp.111-133.
呉青青. (2018). 「相互行為の資源としての「なんか」」. *地球社会統合科学研究*, *8*, 31-41.

小松栄一.(1995).「言語行為と心的事象—いかにして言葉を用いて“心”になるか」
社会学年誌(36).112-126.
小宮友根 . (2002a).「成員カテゴリー・結合の論理・性別秩序—「性差別のエスノメソドロジー」再考」. *現代社会理論研究*, (12), 147-160.
————.(2002b).「「個人であること」の秩序—基礎付け主義/反基礎付け主義と記述」. *社会学論考*, (23), 57-80.
————. (2005).「「価値判断」の分析可能性について」. *年報社会学論集*,(18), 241-251.
————.(2006).「性別の社会性を記述する—成員カテゴリー化装置というアイデンティティの射程」山崎敬一・江原由美子［編］『ジェンダーと社会理論』有斐閣.pp.201-205.
————. (2007a).「「法廷の秩序」研究の意義について」. *法社会学*, (66), 162-186.
————. (2007b).「規範があるとは，どのようなことか」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.*pp.97-120*.
————.(2007c).「会話をする」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』pp.122-154.
————.(2009a).「「被害」の経験と「自由」の概念のレリヴァンス」酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生［編］.(2009).『概念分析の社会学: 社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版.pp.130-162.
————. (2009b).「行為の記述と社会生活の中のアイデンティティ—J. バトラー「パフォーマティヴィティ」概念の社会学的検討」.*社会学評論*, *60*(2),192-208.
————. (2011a).「法的推論と常識的知識」.*人文学報*, (437), 59-93.
————. (2012).「評議における裁判員の意見表明：順番交替上の「位置」に着目して」. *法社会学*, (77), 167-196.
————. (2013).「裁判員は何者として意見を述べるか：評議における参加者のアイデンティティと「国民の健全な常識」」.*法社会学*, (79), 63-84.
————.(2016a).「裁判官の知識管理実践についての覚え書き」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.pp.214-232.
————.(2016b)「ナビゲーション 2」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.pp.233-238.
————.(2016c)「判決文を「読む」：「素人でいること」から始める社会調査」前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆［編］『最強の社会調査入門—これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版.pp.187-201.
————.(2017a).「強姦罪における「被害者資格」問題と「経験則」の再検討」陶久利彦［編］『性風俗と法秩序』尚学社.pp.306-327.
————. (2017b).「構築主義と概念分析の社会学」 *社会学評論*, *68*(1), 134-149.
————.(2018a).「研究コラム：エスノメソドロジー」小林多寿子・浅野智彦［編］『自己語りの社会学—ライフストーリー・問題経験・当事者研究』新曜社.pp.224-225.

————.(2018b).「意見交換と教育のあいだ―「話し合い」の中の諸活動」
村田和代［編］『話し合い研究の多様性を考える』ひつじ書房.
是永論. (1999).「「メールのやりとり」という行為はいかにして可能か：相互行為的実践としての CMC の分析」. *マス・コミュニケーション研究*, (54), 156-170.
————. (2002).「葛藤する文脈と相互行為分析の可能性：「広告」における理解の実践をめぐって」. *応用社会学研究*, 44, 23-46.
————.(2004a) 「映像広告に関する理解の実践過程：「象徴」をめぐる相互行為的な実践」. *マス・コミュニケーション研究*, (64), 104-120
————. (2004b). 「メディア分析」
.山崎敬一［編］『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.pp.169-180.
————. (2007a).「プランが「見える」こと：配管工事現場における携帯電話利用を事例に」. *応用社会学研究*, *49*, 29-51.
————(2007b).「映像を見る（１）:「チラシの表」で社会学」前田泰樹ほか［編］
『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.pp.217-222.
————. (2008).「ネット広告の非言語表現―静止画と動画」. *日本語学*, *27*(6), 14-23.
————. (2009).「画像をめぐる相互行為の理解について：マンガにおける日常的光景の理解可能性を中心に」. *応用社会学研究*, *51*, 29-48.
————.(2009b).「画像を見ることをめぐって：エスノメソドロジーという方法」.
高校生のための社会学編集委員会［編］『 高校生のための社会学 : 未知なる日常への冒険』. ハーベスト社.pp.353-362
————.. (2013). 「人々における経験に根ざした「情報」へのアプローチ：エスノメソドロジーに特徴付けられたエスノグラフィー」. *社会情報学*, *1*(3), 1-9.
————. (2016).「E.ゴフマンにおけるドラマティズム再考：行為のフレームから活動の記述へ」. *応用社会学研究*, *58*, 357-366.
————. (2017).「道具としての言語= 言語としての道具―もう一つのサマリートーク」. *社会情報, 25*(1), 185-193.
是永論・五十嵐素子(2004).「携帯メール「親しさ」にかかわるメディア」.山崎敬一［編］
『モバイル・コミュニケーション：携帯電話の会話分析』大修館書店.pp.119-143.
是永論・五十嵐素子・水川喜文(2017).「遠隔作業における知識の非対称性をめぐって
―配管工事現場のエスノグラフィーから」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.237-257.
是永論, & 酒井信一郎.(2005a).「広告はいかにして「広告」に見えるのか：「メッセージ」としての「リスク」の理解に向けて」三宅和子・岡本能里子・佐藤彰［編］
『メディアとことば２：組み込まれるオーディエンス』ひつじ書房. pp.100-131.
————.(2005b).「シークエンス(Sequence)」三宅和子・岡本能里子・佐藤彰［編］
『メディアとことば２：組み込まれるオーディエンス』ひつじ書房.pp.132-133.

————(2005c).「社会的実践(social practice)」三宅和子・岡本能里子・佐藤彰［編］『メディアとことば２：組み込まれるオーディエンス』ひつじ書房.pp.134-135.
————(2007). 「情報ワイド番組における「ニュース・ストーリー」の構成と理解の実践過程 : BSE 問題における「リスク」を事例に」.*マス・コミュニケーション研究*, (71), 107-128.
今防人.(1982)「ガーフィンケル—エスノメソドロジーの挑戦」.*現代思想* 10(10)138-141.

［さ］
齋藤雅彦・樫田美雄. (2011).「医療化する家庭・家庭化する医療—在宅医療のエスノメソドロジー」. *徳島大学社会科学研究*, *24*, 13-56.
酒井信一郎(2003a).「状況規範の了解カテゴリー—マナーの社会学に向けての予備的考察(1)」. *社会学研究科年報*, (10), 111-121.
————.(2003b).「マナーはどこに「ある」のか—相互行為論的インプリケーションの可能性」. *現代社会理論研究*, (13), 167-176.
————.(2007).「映像を見る(2) CM の後で社会学」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』pp.223-228.
————(2010). 「メディア・テクストのネットワークにおける成員カテゴリー化の実践」*マス・コミュニケーション研究*, (77), 243-259.
————.(2016a).「観光における「見ること」の組織化」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』.ナカニシヤ出版.pp.279-292.
————.(2016b).「読む経験を「読む」—社会学者の自明性を疑う調査の方法」前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆［編］『最強の社会調査入門—これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版.pp.202-211.
酒井信一郎・池谷のぞみ・粟村倫久.(2017).「ワークとしての情報行動—ミーティングにおける情報の実践的マネジメント」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.121-138.
酒井泰斗.(2009)「おわりに」酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生［編］.(2009).『概念分析の社会学：社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版.pp.261-267.
————.(2016).「おわりに」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』.pp.293-305.
酒井泰斗・小宮友根. (2007).「社会システムの経験的記述とはいかなることか—意味秩序としての相互行為を例に」. *ソシオロゴス*, (31), 62-85.
坂井田瑠衣.(2017).「傍参与的協同—歯科診療を支える歯科衛生士のプラクティス記述」片岡・池田・秦［編］『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』pp.179-197.
坂井田瑠衣・諏訪正樹. (2015).「身体の観察可能性がもたらす協同調理場面の相互行為」. *認知科学*, *22*(1), 110-125.

————. (2016).「受け手になるか対象物になるか—歯科診療における参与地位の拮抗と相互調整」. *社会言語科学*, *19*(1), 70-86.
桜井厚. (1992).「会話における語りの位相—会話分析からライフストーリーへ」,
好井裕明［編］『エスノメソドロジーの現実—せめぎあう<生>と<常>」世界思想社 pp. 46-68.
左古輝人. (1995).「秩序のふたつの様相—当事者からみた」. *社会学評論*, *46*(3), 295-309.
佐々木啓. (2003).「日常知のエスノメソドロジー — J. クルター理論を中心に」. *東洋大学大学院紀要*, *40*, 1-13.
————. (2005). 「「日常知」としての「知識」論—エスノメソドロジーの視点から」. *現代社会理論研究*, (15), 257-268.
————. (2007).「インターネットにおけるテキスト・コミュニケーションに関する一考察—エスノメソドロジーの視点から」. *東洋大学大学院紀要*, *44*, 89-109.
————. (2016). 「理解」 することと 「記述」 すること: エスノメソドロジーの視点から. *The Basis: 武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要*, (6), 167-183.
佐々木啓・田上大輔(2015)「〈秩序〉と〈規範〉をめぐる一考察—エスノメソドロジーとウェーバー社会学の視点から」*年報社会学論集*,28.pp.101-111
佐竹保宏(1993a)「『理解』と『意味』—社会学的アプローチ」*現代社会理論研究*,(3).7-11.
————(1993b)「相互作用秩序の分析可能性—『フレーム』と『エスノ・メソッド』」*現代社会理論研究*,(3). pp.13-35.
佐藤貴宣.(2013).「盲学校における日常性の産出と進路配分の画一性」. *教育社会学研究*, 93(0), 27-46.
————.(2018a).「小学校における支援の組織化と教師のワーク—全盲児童の学級参画を中心に」. *龍谷教職ジャーナル*, (5), 1-17.
————.(2018b).「インクルーシブ教育体制に関する社会学的探求—全盲児の学級参画とメンバーシップの配分実践」*フォーラム現代社会学*,(17),188-201.
佐藤ひとみ. (2015). 「会話分析の臨床的有用性」 *コミュニケーション障害学*, 32(1), 49-54.
佐藤慶幸.(1996).「エスノメソドロジーとデュルケム社会学」*早稲田大学大学院文学研究科紀要 第1分冊 (42),* 119-135.
佐野正彦.(1985). 「逸脱研究とエスノメソドロジー」 *東洋大学大学院紀要*(21), 77- 88.
————. (1987).「〈役割論〉に関するエスノメソドロジカル・クリティーク Stephen J. Pfohl の場合」*東洋大学大学院紀要* (23) . 61-73.
————. (1996).「プフォール逸脱議論のトレース(下) : エスノメソドロジー的逸脱論とその後—逸脱の社会学(3)」. *季刊社会学部論集*, *15*(3), 1-19.
————.(1998).「逸脱論の漂流—ある逸脱論者の問い」西原・張江・井出・佐野［編］『現象学的社会学は何を問うのか』勁草書房.pp.257-289.
佐野真弓.(2017a).「第二言語としての日本語の教室における学習者の自発的なターン取得—日常会話のターン交替組織の観点から」. *言語コミュニケーション文化*, *14*(1), 31-45.

————. (2017b).「宛先語を伴わない発問に対する学習者の応答―第二言語としての日本語の教室における相互行為に注目して」*社会言語科学*,20(1),115-130.
真田孝昭・山岸俊男・市川孝一・樋野芳雄. (1974).
「性格検査結果の解釈における指標性 (indexicality) の問題」. *一橋研究*, *28*, 71-91.
澤則子.(2018).「話し合いについての考察―水戸市協働推進事業ミーティングへの提言」.
尚美学園大学総合政策研究紀要, *31*, 51-67.
澤則子・西澤弘行. (2016).「市民・行政協働ミーティングにおける会話の分裂についての考察―水戸市協働推進事業ミーティングの EM/CA 研究」.*常磐大学大学院学術論究*,*3*,103-118.

［し］
椎野信雄.(1991).「ドラマトゥルギィから相互行為秩序へ」
安川一［編］『ゴフマン世界の再構成―共在の技法と秩序』世界思想社.pp.33-64.
————.(1993).「G・ジンメルの社会学を読む―間身体的実践学のために」*社会学論考(14)*,1-23.
（→.(2007).「ジンメルの形式社会学」『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.137-164.）
————. (1994).「エスノメソドロジー研究の方針と方法について―ラディカルな秩序*現象の再特定化」. *社会学評論*, *45*(2), 188-205.
（→(2007).「エスノメソドロジー研究の方針と方法」『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.222-250.）
————. (1996a).「小特集を編むにあたって (特集 119 番通話の会話分析的研究―制度・組織のエスノメソドロジー)」. *現代社会理論研究*, (6), 109-111.
————.(1996b)「相互行為秩序はいかにして可能か？―ジンメル・デュルケーム・ゴフマンから実践学へ」*社会学史研究*(18).39-49.
（→(2007).「社会学の根本問題」『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.97-113.）
————. (1997). 「E.リヴィングストンを読む：科学のエスノメソドロジーの理解のために」.
文教大学国際学部紀要, *7*, 27-43.
（→.(2007).「統計学入門のエスノメソドロジー研究入門」『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.273-303.）
————. (1998a).「現象学的社会学とエスノメソドロジ―プロトエスノメソドロジーを越えて」. *情況 第二期*, *9*(1), 56-69.
（→(2007).「現象学的社会学とエスノメソドロジー」『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.201-221.）
————.(1998b).「会話秩序 （制度） のエスノメソドロジー研究」
文教大学国際学部紀要,*8*, 79-86.
（→(2007).「会話分析とエスノメソドロジー研究のために」『エスノメソドロジー

の可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.334-346.）
————. (2001).「エスノメソドロジーの科学研究」. *文教大学国際学部紀要*, *11*(2), 23-42.
（→(2007).『エスノメソドロジーの可能性 : 社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.64-94.)
————. (2002).「「遺伝子改造社会の論理と倫理」論について」.
文教大学国際学部紀要, *12*(2), 69-79.
（→(2007).「「遺伝子改造社会の論理と倫理」の概念分析」『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.253-272.）
————. (2003). 「「男女共同参画社会」の中の「男女」 概念について」.
文教大学国際学部紀要, 14(1), 21-41.
————.(2007a).「科学の社会学研究」
『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.17-32.
（単著収録にあたり訳出→ (1989). On Sociological Studies of Science—a disparity between the" new" sociology and ethnomethodology. *人文学報*, (210), 81-100.
————.(2007b).「科学への社会学アプローチとエスノメソドロジー研究」
『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.33-51.
（単著収録にあたり訳出 →(1990). On Sociological Approaches to Sciences —centering on ethnomethodology. *人文学報*, (219), 83-102.）
————.(2007c).「科学的ワークの研究」
『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.52-63.
（単著収録にあたり訳出 → (1994). Science in Interaction—Sociological Studies of Scientific Work. *人文学報*, (251), 171-183.）
————.(2007d).「シクレルのエスノメソドロジー再読」『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.189-200.
（単著収録にあたり訳出→(2000).Reading Cicourel's Ethnomethodology. *文教大学国際学部紀要*,*11*(1).71-77.）
————.(2007e).「科学的ワークのエスノメソドロジー研究入門」
『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』春風社.pp.304-333.
（→初出(1993).「科学的ワークのエスノメソドロジー研究について—科学的デモンストレーションのワークの再特定化」科研費成果報告書『微視的権力状況における会話分析』）
塩崎紀子.(1996).「コミュニケーション的行為の理論的考察—エスノメソドロジーの視座から」. *講座日本語教育*, *31*, 220-229.
————. (1997).「コミュニケーション的行為の理論的考察②—エスノメソドロジーの視座から」
講座日本語教育, *32*, 171-179.
————. (1998).「コミュニケーション的行為の理論的考察③—エスノメソドロジーの視座から」
講座日本語教育, *33*, 238-251.
芝田奈生子. (2000). 「「授業」経験をめぐる教師-生徒の相互行為」

立教大学教育学科研究年報, 44, 95-106.
————. (2002). 「<共同研究:ビデオレターを用いた授業研究> 参与の仕方の特殊性に見る「授業」の観察可能性：会話の順番取りシステムをてがかりとして」. *立教大学教育学科研究年報*, 46, 93-100.
————. (2003). 「構成主義的感情概念再考：<感情> をめぐる相互行為の分析へ向けて」. *立教大学教育学科研究年報*, 47, 69-79.
————. (2005).「日常的相互行為過程としての社会化—発話ターンとしての〈泣き〉という視点から」. *教育社会学研究*, 76(0), 207-224.
清水学(1992).「実践的社会学的推論と社会学的物語批判—ガーフィンケルによる日常的社会学的想像力の解剖」.*ソシオロジ*36(3)pp.3-20.
志村栄二.(2015).「Dysarthria 例の会話分析とリハビリテーションへの応用可能性」*コミュニケーション障害学*,32(1), 63-70.
下嶋篤.(1998).「談話状況における情報統合：一般化理論の可能性について」*アルケー：関西哲学会年報*,6,12-26
下谷麻記. (2010).「発話頭に現れる助詞「は」の使用とその相互行為上の役割：自然会話における文構造の一考察」. *関西外国語大学留学生別科日本語教育論集*, 20, 97-118.
————(2012).「自然談話における二人称代名詞「あなた」についての一考察—認識的優位性 (Epistemic Primacy) を踏まえて」*日本語教育論集*, 22, .63-96.
城綾実.(2017a).「秩序だった手の動きが誘う相互行為—意味の共同理解を試みる活動を例に」*日本語学*,36(4) 特集 インターアクションの科学.pp.177-189.
————. (2017b).「ケア活動を組織する諸行為の規範的結びつき—専門職に宿るものの見方とそれに基づく実践に注目して」石崎雅人［編］『高齢者介護のコミュニケーション研究—専門家と非専門家の協働のために』ミネルヴァ書房.pp.187-221.
————.(2018).「相互行為における身体・物質・環境」平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実［編］.『会話分析の広がり』ひつじ書房. pp.97-126.
城綾実・細馬宏通. (2009). 「多人数会話における自発的ジェスチャーの同期」. *認知科学*, *16*(1), 103-119.
————(2014).「語りの進行を回復する実践として共 - 語り手たちが産出する同期現象」. *社会言語科学*, *16*(2), 32-49.
城綾実・平本毅. (2015).「認識可能な身振りの準備と身振りの同期」.*社会言語科学* 17(2), 40-55.
城綾実・坊農真弓・高梨克也. (2015).「科学館における「対話」の構築：相互行為分析から見た「知ってる?」の使用」. *認知科学*,22(1), 69-83.
白井千晶. (2009).「生殖医療現場における科学技術と相互行為の関係について：産婦人科診察室における超音波画像診断装置を焦点に」. *保健医療社会学論集*, *19*(2), 68-81.
————. (2016).「産婦人科における内診台と医師-患者の相互行為 (1): 空間編成を中心に」.

人文論集, *67*(1), 21-40.
————. (2017).「産婦人科における内診台と医師-患者の相互行為 (2): 内診台上のカーテンを中心に」. *人文論集*, *67*(2), 23-44.

［す］
須賀あゆみ. (2002).「ストーリーの聞き手のアセスメントに関する一考察：文法とインターアクションの観点から」. *研究年報*, 46, 91-104.
————(2007a).「指示交渉と「あれ」の相互行為的機能」溝越彰・小野塚裕視・藤本滋之・加賀信広・西原俊明・近藤真・浜崎道世［編］『英語と文法と—鈴木英一教授還暦記念論文集』開拓社.
———— (2007b).「相互行為としての指示：日本語の会話における指示対象の認識を確立するプラクティス」. *奈良女子大学文学部研究教育年報*, 3, 63-73.
.———— (2010).「会話における直示表現の「再利用」について」. *人間文化研究科年報*, 25,.13-23.
————.(2012).「実演と笑いによる語り連鎖」吉村あきこ・須賀あゆみ・山本尚子［編］『ことばを見つめて』英宝社,pp. 425-436.
————. (2014).「聞き手の知識に関する想定と二段構えの指示交渉：日常会話の分析から」. *英語学英米文学論集*, *40*, 1-23.
————. (2016).「日常会話における語彙選択をめぐるプラクティス」. *欧米言語文化研究*, *4*, 51-72.
————. (2017). 「聞き手が知らない対象の存在を知らせるプラクティス」. *欧米言語文化研究*, 5, 47-68.
菅野盾樹.(2011).「臨床的眼なざしの誕生—〈医療の記号論〉のための研究覚書」日本記号学会［編］.『いのちとからだのコミュニケーション—医療と記号学の対話（新記号論叢書［セミオトポス］6）』慶応義塾大学出版会.pp.164-177.
菅靖子・山崎晶子.(2006).「表象とジェンダー」. 山崎敬一・江原由美子［編］『ジェンダーと社会理論』有斐閣 pp.176-187.
菅靖子, 山崎晶子, & 山崎敬一. (2003). 「インタラクティブな展示装置を中心とする鑑賞者の相互行為」. *デザイン学研究*, *49*(5), 1-10.
杉浦郁子.(1998).「「動機」はどのように観察されるか—カミング・アウトの動機の語彙を題材に」. *現代社会理論研究*, (8), 93-104.
————. 「K さんは「トランス」か—性的アイデンティティの理解可能性」. *解放社会学研究*, (13), 53-73.
————. (2000)「「ライフヒストリーを記述する」実践を記述する—「レズビアン」カテゴリーの使用法をめぐって」好井裕明・桜井厚［編］『フィールドワークの経験』せりか書房 pp.133.-144.

————. (2001).「「性」の構築:「性同一性障害」医療化の行方」. *ソシオロジ*, *46*(3), 73-90.
————.. (2001).「「性の自己認知 gender identity」の社会的構築：「性同一性障害」 をめぐる医学的言説において」.*中央大学文学部紀要. 社会学科*, *11*, 89-111.
————.（2010）「レズビアンの欲望／主体／排除を不可視にする社会について—現代日本におけるレズビアン差別の特徴と現状」好井裕明［編］『セクシュアリティの多様性と排除：差別と排除の〔いま〕第 6 巻』明石書店. pp.55-91.
————. (2013).「「性同一性障害」 概念は親子関係にどんな経験をもたらすか—性別違和感をめぐる経験の多様化と概念の変容に注目して」. *家族社会学研究*, *25*(2), 148-160.
————.(2017).「同性愛者のライフヒストリーとともに分析方法をさがす—経験を形づくるものの解明に向けて」鳥越皓之・金子勇［編］『現場から創る社会学理論：思考と方法』ミネルヴァ書房.pp.191-203.
杉浦秀行. (2011).「「強い同意」はどのように認識可能となるか：日常会話における同意ターンのマルチモーダル分析」. *社会言語科学*, 14(1), 20-32.
————.(2012).「位置に反応する文法：否定疑問文を使用した説明要求質問への応答に係わる予備的考察」.*茨城大学留学生センター紀要*, 10, 71-85.
————. (2013).「「そう」によって表明される同意の強弱: マルチモーダル分析の試み」. *茨城大学留学生センター紀要*, (11), 43-62.
杉原由美. (2003).「地域の多文化間対話活動における参加者のカテゴリー化実践」 *日本語教育論集 世界の日本語教育*, (13), 1-19.
————. (2008).「日本語教育の相互学習型活動における日本語母語話者と非母語話者の関係性の転換—大学授業でのグループワークの相互行為から」. *人間文化創成科学論叢*, 10, 35-45.
杉本巧.(2018).「会話分析とメタファー」 鍋島弘治朗・楠見孝・内海彰［編］『メタファー研究 1』ひつじ書房.pp.49-79.
厨子直之・井川浩輔. (2010).「人事評価面接の会話分析(1)—医療事務の成長的サポートに関するケース」. *経済理論*,(*358)*, 35-57.
————.(2011).「人事評価面接の会話分析(2)—医療事務の感情的サポートに関するケース」. *経済理論*,(*360)*, 113-135.
鈴木佳奈（2007）「会話における数字の使用に関する一考察—『数字数量表現』と『主観的数量表現』が共在する事例をてがかりに」言語と文化の展望刊行会 ［編］ 『津田葵教授退官記念論文集 言語と文化の展望』英宝社.pp.363-374.
————(2008).「「なにかが欠けている発話」に対する他者開始修復：会話の事例から「文法項の省略」を再考する」.*社会言語科学*, 10(2), 70-82.
————(2010).「「より知る者」としての立場の確立—言い間違いの指摘とそれに対する抵抗」木村大治・中村美知夫・高梨克也［編］ 『インタラクションの境界と接続：サル・人・会話研究から』.昭和堂.
鈴木栄幸. (2006). 「エスノメソドロジーに基づく協同作業インタフェースのデザイン：相互行

為リソースとしての身体の再編成」. *ヒューマンインタフェース学会誌* *8*(4), 235-240.
鈴木栄幸・加藤浩. (1995). 「共同学習のための教育ツール 「アルゴブロック」」. *認知科学*, 2(1), 36-47.
鈴木栄幸・加藤浩.(2001).「協同学習環境のためのインターフェースデザイン―「アルゴブロック」の設計思想と評価」加藤浩・有元典文［編］『認知的道具のデザイン』金子書房.pp.66-94.
鈴木栄幸・舟生日出男・加藤浩. (2002).「状況論的学校改革プロジェクトの本質的困難と対処戦略」. *認知科学*, *9*(3), 385-397.
鈴木栄幸・加藤浩・山口悦司・稲垣成哲. (2003).「学習環境の社会的・継続的デザイン方略としてのローカルエキスパート育成：大学・企業・小学校による共同デザインプロジェクトの事例研究」. *日本教育工学雑誌*, *26*(4), 309-323.
鈴木雅博. (2012).「生活指導事項の構築過程における教師間相互行為：日常言語的な資源としてのレトリックに着目して―」.*教育社会学研究*, 90, 146-167.
――――.(2014).「学校現場におけるアカウンタビリティ概念の作用と帰結：ミクロ・ポリティクス的視角からの検討」.*日本教育行政学会年報*, 40, 73-90.
――――.(2015).「教員コードによる職員会議の秩序構築：解釈的アプローチによる相互行為分析」.*日本教育経営学会紀要*, 57, 64-78.
――――.. (2016).「教師は曖昧な校則下での厳格な指導をどう論じたか：エスノメソドロジーのアプローチから」. *教育社会学研究*, *99*, 47-67.
――――. (2017a).「学校教師のエスノメソドロジー研究に向けて―社会学的アプローチによる学校組織研究への再検討を通して」 *常葉大学外国語学部紀要*,(34)
――――..(2017b).「学校組織研究が「見落としてきたもの」―教育行政学・教育経営学における学校組織研究の再検討」 *常葉大学教育学部紀要*,(38) 69-92
鈴木理恵(2012) .「テロップと音声情報のずれ―ＮＨＫニュース番組でのインタビュー発話の場合」成蹊大学文学部学会［編］『音と映像　授業・学習・現代社会におけるテクノロジーの在り方とその役割』成蹊大学人文叢書９, 風間書房, pp.181-221.
鈴木亮太・新井雅也・佐藤慶尚・山田大地・小林貴訓・久野義徳・宮澤怜・福島三穂子・山崎敬一・山崎晶子. (2015).「複数同伴者とのグループコミュニケーションを考慮した複数ロボット車椅子システム」. *電子情報通信学会論文誌 A*, *98*(1), 51-62.
周藤真也. (1999).「エスノメソドロジーと人びとの社会学」. *年報筑波社会学*, (11). 63-85.
須永将史.(2013).「マッサージの手順が違反されるとき」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂. 『共感の技法――福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房. pp.29-47.
――――. (2016).「社会科学は身体をいかに問うことができるか：相互行為におけるジェンダーの分析のための方法論的考察」. *人文学報*. (512), 29-45.
――――.(2018a).「身体接触を伴うケア実践における性別の話題化はどのようになされているのか―足湯ボランティア活動の相互行為分析」 *福祉社会学研究*,15,241-263.

————.(2018b).「見ることについての論争―ウェス・シャロックとジェフ・クルターのJ.J.ギブソン批判について」*応用社会学研究*,60,55-68.
須永将史・黒嶋智美.(2017).「内部被ばく検診結果報告におけるケア実践の相互行為分析」. *社会学研究科年報*, 24, 7-18.
砂川千穂.(2017).「空間をまたいだ家族のコミュニケーション―スカイプ・ビデオ会話を事例に」片岡・池田・秦［編］『コミュニケーションを枠づける―参与・関与の不均衡と多様性』pp.91-108.くろしお出版.

［せ］
清矢良崇.(1983a).「学習の過程としての会話―エスノメソドロジーと社会化研究」*教育学研究集録*(7).61-70.
————. (1983b).「社会的相互行為としての初期社会化の様式―しつけ場面におけるカテゴリー化問題」. *教育社会学研究*, *38*, 122-133.
————.(1985).「方法としての社会化―解釈的パラダイムと方法論（Ⅰ）」*教育学研究集録*(9).11-23.
————. (1989).「生活指導場面における教師のカテゴリー運用分析の視点について」. *筑波大学教育学系論集*, *14*(1), 1-14.
————. (1992).「社会学的記述としての会話分析: 社会化研究の一視角」. *人文論究*, *42*(1), 131-144.
————. (1994).「社会化・言説・文化」. *教育社会学研究*, *54*(0), 5-23.
————.(1995).「エスノメソドロジーと発達研究」. *人文論究*, *45*(3), 55-65.
————.(1997).「社会的構成物としての調査―「よそ者」の視点から」北澤毅・古賀正義［編］『＜社会＞を読み解く技法―質的調査法への招待』福村出版. pp.160-176
————.(1998).「教育社会学とエスノメソドロジー」山田富秋・好井裕明［編］『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房.pp.238-251.
————. (1999).「教育研究における視聴覚データ使用の意義について」.*人文論究*, *49*(2), 75-86.
————.(2001).「研究者が AV 機器を用いるのはなぜか」石黒広昭［編］『AV 機器をもってフィールドへ―保育・教育・社会的実践の理解と研究のために』新曜社.pp.29-46.
————.(2005).「社会的相互行為の形式構造記述の手順について―会話の順番取りを素材として」. *教育学科研究年報*, (31), 1-8.
————. (2008).「社会的相互行為の記述について―形式構造の標本化を中心に」北澤毅・古賀正義 [編],『質的調査法を学ぶ人のために』世界思想社
————. (2009).「質的データと教育研究：社会化過程の記述に焦点づけて」*教育社会学研究*, *84*, 7-25.
————.(2012).「日常生活における感情経験の構造」 北澤毅［編］『文化としての涙―感情経

験の社会学的探求』勁草書房.pp.41-52.
盛山和夫. (1988). 「反照性と社会理論」. *理論と方法*, *3*(1), 57-76.
関水徹平. (2007).「「社会性」概念の再検討―H.ガーフィンケルの「信頼論」解釈をてがかりに」. *社会学年誌*, (48), 71-85.
［そ］
曽田裕司. (2018).「ピアノ練習における「相転移」を記述する理論についての予備的考察 ―現象学的エスノメソドロジーを中心に」.*尚絅大学研究紀要 人文・社会科学編*, *50*, 61-70.
園田浩二.(2015).「狩猟採集民バカ・ピグミーの狩猟と「あいまいな発話」」 木村大治［編］『動物と出会うⅠ：出会いの相互行為』ナカニシヤ出版.pp.23-36.

［た］
平英美. (1984).「会話分析素描―社会的相互作用の範型としての会話」. *大阪教育大学紀要 社会科学・生活科学*, *33*(2), 135-148.
――――. (1993a).「沈黙の会話分析(I)： 授業における「間」の操り」. *大阪教育大学教育研究所報*, *28*, 1-9.
――――.(1993b).「会話分析と Goffman (I)」 *大阪教育大学紀要. II, 社会科学・生活科学* 41(2), 89-103.
――――. (1994a).「沈黙の会話分析(II)： 授業における「間」の操り」. *大阪教育大学教育研究所報*, *29*, 39-48.
――――.(1994b)「クレイムメイクされる Interruptions：会話と社会構造・序説」 *大阪教育大学紀要. II, 社会科学・生活科学* 42(2), 61-80.
――――.(1994c).「Reflexion on Woolger―「SSK(科学的知識の社会学)」のアリーナにて」 *大阪教育大学紀要. II, 社会科学・生活科学* 43(1), 1-12,
――――. (1999). 「「仕組まれた」カンファレンス―ある視線の indexicality に関する覚書」. *現代社会理論研究*, (9), 251-263.
――――. (2001).「Schegloff をめぐる議論のエスノグラフィー」.*現代社会理論研究*,(11),110-121.
――――.(2009).「会話分析」谷富夫・芦田徹郎［編著］『よくわかる質的社会調査　技法編』 ミネルヴァ書房. pp.106-119.
高泉拓. (2010).「誤った発砲の合理性―日本人留学生射殺事件とアメリカ「銃文化」」. *北海道民族学*, (6), 16-30.
――――.(2015).「カテゴリー，出来事，文化：いわゆる「フリーズ事件」と刑事裁判を中心に」. *北海道民族学*, (11), 29-43.
高木智世. (2005).「社会的実践としての日常会話―電話会話の終了に関わるプラクティスを例に」. *論叢現代文化・公共政策*, (1), 143-175.
――――.(2006).「「電波が悪い」状況下での会話」 山崎敬一［編］『モバイルコミュニケーション：携帯電話の会話分析』大修館書店.pp.77-97.

————.(2007).「相互行為秩序維持装置としての「ええと」」言語と文化の展望刊行会 ［編］『津田葵教授退官記念論文集　言語と文化の展望』英宝社..pp.327-342.
————. (2008a).「相互行為を整序する手続きとしての受け手の反応：治療的面接場面で用いられる「はい」をめぐって」.
社会言語科学, *10*(2) <特集> 相互行為における言語使用:会話データを用いた研究, 55-69.
————.(2008b)「診療記録媒体への指し示し—婦人科カウンセリングにおける相互行為」西阪・高木・川島『女性医療の会話分析』. 文化書房博文社.pp.91-117.
————.(2008c)「婦人科カウンセリングにおける「心の問題」をめぐる問題」西阪・高木・川島『女性医療の会話分析』.文化書房博文社.pp.123-156.
————.(2008b).「相互行為の中の子どもの発話」串田秀也・定延利之・伝康晴［編］『「単位」としての文と発話』ひつじ書房.pp.133-167
————.(2009a).「社会的実践としての日常会話 II :「親しさ」の実践」.*論叢現代語・現代文化*, (3), 47-64.
————.(2009b).「おねがいごとがあるんだけど—相互行為に埋め込まれた関係性」西川盛雄教授退官記念論文・随想集刊行会［編］『言語理論の展開と応用』英宝社.pp.175-189
————. (2009c).「隣接ペア概念再訪: 相互行為の原動装置」. *認知科学*, *16*(4), 481-486.
————. (2011).「幼児と養育者の相互行為における間主観性の整序作業 : 修復連鎖にみる発話・身体・道具の重層的組織」. *社会言語科学*, *14*(1), 110-125.
————.(2013).「エスノメソドロジーの考え方」日本発達心理学会［編］,田島信元・南徹弘［編著］『発達科学ハンドブック１：発達心理学と隣接領域の理論・方法論』.新曜社.pp.298-306
————.(2016).「膝に抱っこして遊ぶ姿勢：共に視てふるまう身体と相互行為秩序」高田・嶋田・川島［編］.『子育ての会話分析 ： おとなと子どもの「責任」はどう育つか』昭和堂.pp.199-228.
————.(2016b).「子どものエスノメソドロジー・会話分析」日本児童研究所［監修］『児童心理学の進歩　2016 年版（第 55 巻）』金子書房, pp.251-272
————.(2016c).「はじめに」高木智世・細田由利・森田笑.『会話分析の基礎』ひつじ書房. pp. iii - vii.
————.(2016d).「順番交替の組織」高木智世・細田由利・森田笑『会話分析の基礎』ひつじ書房.pp.49-92.
————.(2016e).「連鎖の組織と優先組織」高木智世・細田由利・森田笑『会話分析の基礎』ひつじ書房.pp.93-182.
————. (2017).「子どもとおとなのインターアクション :「原初的」言語使用の現場から見えること」*日本語学*, *36*(4) (特集 インターアクションの科学), 4-16.
高木智世, & 森田笑. (2015). 「「ええと」 によって開始される応答」*社会言語科学*, *18*(1), 93-110.
高田明(2010)「相互行為を支えるプラグマティックな制約—セントラル・カラハリ・サンにおけ

る模倣活動の連鎖組織」木村大治・中村美知夫・高梨克也［編］『インタラクションの境界と接続：サル・人・会話研究から』.昭和堂.
————. (2013).「行為の堆積を知覚する：グイ／ガナのカラハリ砂漠における道探索実践」片岡邦好・池田桂子［編］『コミュニケーション能力の諸相: 変移・共創・身体化』ひつじ書房, pp.97-128.
————.(2015).「ゴフマンのクラフトワーク：その言語人類学における遺産」中河伸俊・渡辺克典［編］『触発するゴフマン—やりとりの秩序の社会学』新曜社.pp.229-255.
————.(2016).「養育者 - 子ども間相互行為における「責任」の形成」. 高田・嶋田・川島［編］.『子育ての会話分析 ：おとなと子どもの「責任」はどう育つか』昭和堂.pp.1-26.
高梨克也. (2001). 「社会的相互行為を「見る」方法 (< 特集> 社会的相互行為)」. *人工知能学会誌*, 16(6), 799-805.
————. (2008). 会話構造理解のための分析単位: 参与構造 (< 連載チュートリアル> 多人数インタラクションの分析手法 [第 6 回]). *人工知能学会誌*, *23*(4), 538-544.
————. (2011). 「複数の焦点のある相互行為場面における活動の割り込みの分析」. *社会言語科学*, *14*(1), 48-60.
————. (2015). 「懸念を表明する：多職種ミーティングにおける野生の協同問題解決のための相互行為手続」. *認知科学*, *22*(1), 84-96.
————(2016)「触っちゃダメ：2 つの「注意」と責任の発達」高田・嶋田・川島［編］.『子育ての会話分析 ：おとなと子どもの「責任」はどう育つか』昭和堂.pp.29-54.
————.(2017a).「展示制作活動における参与・関与の変化から見た参与者の志向の多層性」片岡・池田・秦［編］『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』くろしお出版.pp.199-219.
————.(2017b).「インタラクション分析に基づく科学コミュニケーションのリ・デザイン」村田和代［編］『市民参加の話し合いを考える　シリーズ話し合い学をつくる 1』ひつじ書房.pp.51-71.
高梨克也, 加納圭, 水町衣里, & 元木環. (2012). 「双方向コミュニケーションでは誰が誰に話すのか？： サイエンスカフェにおける科学者のコミュニケーションスキルのビデオ分析」. *科学技術コミュニケーション*, *11*, 3-17.
高梨克也・森本郁代(2009)「発言権の構造」.大坊郁夫・永瀬治郎［編］『講座社会言語科学３：関係とコミュニケーション』.ひつじ書房. pp.100-119.
高橋章子. (2009).「相互行為論のデュルケム」.*社会学評論*, 60(2), 209-224.
高橋靖幸. (2017).「子どもの対人葛藤場面における保育者のかかわり：「実践の方法」に着目した保育と学生指導のあり方について」. *人間生活学研究*, (8), 89-101.
————.(2018).「becoming としての子ども／being としての子ども」北澤毅・間山広朗［編］『教師のメソドロジー—社会学的に教育実践を創るために』北樹出版.pp.42-56.

田上大輔・佐々木啓. (2015).「規範理論と秩序問題：社会学における規範的問いと経験的問いに関する一考察」. *東洋大学人間科学総合研究所紀要*, (17), 75-90.
高山啓子. (1992). 「相互行為としての会話—相互行為をめぐる会話分析とゴフマン」. *Sociology today*, (3), 43-58.
————. (1993a).「「箱庭療法」の相互行為的組織化—制度的地位と参与地位の配置のリフレクシビティ」. *年報社会学論集*, (6), 83-94.
————.(1993b).「社会学における映画研究の批判的考察—映画記号学とエスノメソドロジーのパースペクティブから」*Sociology today* (4), 31-39.
————. (1994).「映像の組織化の社会分析に向けて一エスノメソドロジーの観点から」. *人間文化研究年報*, *17*.212-221.
————.(1995).「メディアにおける日常的知識の使用—カテゴリー化の実践」.宮島喬［編］『文化の社会学—実践と再生産のメカニズム』有信堂.pp.142-160.
————.(1996).「緊急事態の確定作業—119 番通報における要請と訴えの組織化」*現代社会理論研究* (6), 149-163.
————. (1997).「協同作業場面の身体配置—通信指令室における社会空間の構成」. *年報社会学論集*, *1997*(10), 157-168.
————.(2001).「CM 視聴活動実践における視聴者の構成：会話と映像のシークエンス分析」*川村学園女子大学研究紀要* 12(3), 63-75
————. (2002). 「医療相互行為へのエスノメソドロジー的アプローチ：医師 - 患者関係の非対称性をめぐって」. *川村学園女子大学研究紀要*, *13*.
高山啓子・行岡哲男.(1997)「道具と身体の空間秩序—救急医療における身体参与の分析」山崎敬一・西阪仰［編］. (1997)『語る身体・見る身体』ハーベスト社.147-167.
瀧則子. (2002).「「主婦」再考—カテゴリー化の問題性」. *現代社会理論研究*, (12), 368-377.
————. (2004a).「「女性の経験」をめぐって：ドロシー・E・スミスにおける「問いの出発点」の検討」. *ククロス: 国際コミュニケーション論集*, (1), 115-131.
————. (2004b). 「「知る実践」と「知識」のあいだの探求—ドロシー・E・スミスのフェミニスト・アプローチ」. *現代社会理論研究*, (14), 207-217.
————. (2005).「社会的組織化のアクチュアリティ:「制度のエスノグラフィ」 における日常世界の探求」 *国際開発研究フォーラム*, *30*, 9.167-182.
田中耕一.(1990)「不確定性の生成と処理—自己組織的意味構成のメカニズム」土方透［編］『ルーマン　来るべき知』勁草書房.pp.31-60.
————. (1994).「自己言及性の二つの位相—ルーマンとエスノメソドロジー」*社会学史研究* (16), 15 -30.
————. (2002).「規範と心: 実践的行為の構造」. *関西学院大学社会学部紀要*, (91), 71-85.
→(2014).「実践としての行為—規範と心」田中耕一『〈社会的なもの〉の運命—実践・言説・規律・統治性』関西学院大学出版会.pp.31-64

————(2003).「再帰性の神話：社会的構築主義の可能性と不可能性」.
関西学院大学社会学部紀要, (93), 93-108.
————. (2004).「認知主義の陥穽：会話分析と言説分析」.
関西学院大学社会学部紀要, (96), 121-136.
→(2014).「認知主義／記述主義を超えて―会話分析と言説分析」
田中耕一『〈社会的なもの〉の運命―実践・言説・規律・統治性』関西学院大学出版会.pp.93-125
————.(2006).「構築主義論争の帰結―記述主義の呪縛を解くために」.平英美・中河伸俊［編］
『新版　構築主義の社会学―実在論争を超えて』世界思想社.pp.214-238.
→(2014).「現実はいかにして〈社会的〉に構築されるのか」
田中耕一『〈社会的なもの〉の運命―実践・言説・規律・統治性』関西学院大学出版会.pp.65-92.
田中剛太. (2007). 「「好きである」ということ」
明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻紀要, (31), 135-150.
————. (2008).「それ以上言わなくていい―「聞き手による完了」の一側面」.
明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻紀要, (32), 1-12.
田中浩朗.(1992).「科学者の社会学と科学知識の社会学―その紹介と位置づけ」
年報 科学・技術・社会(1),55-70.
田中博子.(2004).「会話分析の方法と会話データの記述法」
山崎敬一［編］.『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.pp.71-84.
————. (2008).「阿吽の呼吸：暗示的談話の生成」. *社会言語科学*, *10*(2), 109-120.
團康晃. .(2013a).「指導と結びつきうる「からかい」:「いじり」の相互行為分析」.
ソシオロジ, *58*(2), 3-19.
————. (2013b). 「「おたく」の概念分析：雑誌における「おたく」の使用の初期事例に着目して」. *ソシオロゴス*, (37), 45-64.
（加筆のうえ再録→北田暁大, 解体研［編著］(2017).『社会にとって趣味とは何か：文化社会学の方法規準』河出書房新社.pp.231-260.
————. (2013c).「学校の中のケータイ小説：ケータイ小説をめぐる活動と成員カテゴリー化装置」. *マス・コミュニケーション研究*, (82), 173-191.
————.(2014).「学校の中の物語作者たち―大学ノートを用いた協同での物語制作を事例に」
子ども社会研究(20) 3-16.
————. (2015).「書きかわる慰安の動線：特需佐世保における「輪タク」と行政の相互作用を事例に」. *年報社会学論集*, (28), 124-135.
————(2016).「学校のなかの調査者―問い合わせから学校の中ですごすまで」
前田拓也・秋谷直矩・朴沙羅・木下衆［編］『最強の社会調査入門―これから質的調査をはじめる人のために』ナカニシヤ出版.pp.119-131.
————.(2017).「「嗜好品」が「趣味」と結びつくとき―明治期における衛生学及び勧業、PR誌のテクスト実践を事例に」 *年報社会学論集*(30),75-86.

————.(2018a).「止まった時間の乗り越え方―プライベート・カレンダー試論」
ユリイカ:詩と批評,50(3),168-176.
————.(2018b).「話すこととのむことの相互行為分析―マルチアクティヴィティの観点から」
ソシオロゴス(42),18-36.

［ち］

千々岩宏晃. (2013).「「からかい」の相互行為的達成 :「あなたに関する知識」を用いた発話の一用法」.*日本語・日本文化研究* (23) .129-141.
————. (2014).「"副詞の語順の自由性" に関する会話分析の方法を用いた考察」.
日本語・日本文化研究, (24), 81-92.
————. (2015).「日本語の雑談での「あなたに関する知識を示す発話」の会話分析を用いた研究：発話末の下降調の 「ジャン」 に着目して」. *日本語・日本文化研究*, (25), 78-89.
————. (2016).「スピーチスタイルアップシフトの会話分析を用いた研究：日本語の雑談における反応要求の技法」. *日本語・日本文化研究*, (26), 115-126.
————.(2017).「「忘れた」ということの相互行為分析 : 活動進行に必要かつ充分な情報提供」.
日本語・日本文化研究, *27*, 128-138.
チブルカ,パウル.(2010).「あっ，えっとー，はい―会話分析の視点からみた「気を使う」話し方」.
日独研究論集, (5), 43-53.
張承姫. (2014a).「会話参与者の立場から分析する「ほめ」と「ほめの応答」: 会話分析手法を用いた日韓ほめの分析」. *言語コミュニケーション文化*, 11(1), 135-148.
————(2014b).「相互行為としてのほめとほめの応答:聞き手の焦点ずらしの応答に注目して」.
社会言語科学, 17(1), 98-113.
————. (2015).「話題終了しうる部分における「ほめ」と話題展開について：日本語の初対面会話に注目して」. *言語コミュニケーション文化*, 12(1), 91-105.
陳力.(2016).「インタビュイーの応答途中におけるインタビュアーの発話についての一考察
―テレビ番組のインタビューを対象として」.*地球社会統合科学研究*,(5), 55-64.
陳力・趙剛. (2013).「制度的状況の会話分析に基づくマスメディア相互行為の考察」.
日本言語文化研究, *18*, 1-18.

［つ］

塚野弘明.(2001).「文化的実践としての実験場面の組織化」
上野直樹［編］『状況のインターフェース』金子書房.pp.58-83.
筒井佐代.(2016).「評価の対立による友人関係の構築―友人同士の雑談の分析」
村田和代・井出里咲子［編］『雑談の美学―言語研究からの再考』ひつじ書房. pp.145-166.
鶴田幸恵. (2003).「「心の性」を見るという実践―「性同一性障害」の「精神療法」における性別カテゴリー」.*年報社会学論集*, (16), 114-125.

————.(2004a)「相互行為とコミュニケーション—ゴフマンとエスノメソドロジーの視点」
岡野雅雄［編］『わかりやすいコミュニケーション学 基礎から応用まで』三和書籍.pp.80-115.
————. (2004b).「トランスジェンダーのパッシング実践と社会学的説明の齟齬：カテゴリーの一瞥による判断と帰納的判断」. *ソシオロジ*, *49*(2), 21-36.
————. (2004c).「性別判断における外見を「見る」仕方」. *現代社会理論研究*, (14), 195-206.
————.(2005)「いかにして「ふつう」の外見に駆り立てられるのか？—トランスジェンダーにおける眼差しの力を例に」好井裕明［編］『繋がりと排除の社会学』明石書店.pp.7-76.
————.(2006a).「女装者との差異を語る—「TS／TG であることをする」実践」
矢島正見［編］.『戦後日本女装・同性愛研究』. 中央大学出版部.pp.557-585.
————.(2006b)「名のりのない名のり—携帯電話における会話の始まり」
山崎敬一［編］『モバイル・コミュニケーション—携帯電話の会話分析』大修館 pp.57-75.
————. (2006c).「言明されていないカテゴリー使用を見る—セクシュアル・ハラスメントの会話における性別カテゴリー」. *年報社会学論集*, *2006*(19), 37-48.
————.(2006d).「まなざしと外見」山崎敬一・江原由美子［編］『ジェンダーと社会理論』
有斐閣.pp.198-200.
————.(2007).「性別を見る」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.pp.229-235.
————. (2008a).「正当な当事者とは誰か—「性同一性障害」であるための基準」.
社会学評論, *59*(1), 133-150.
————.(2008b).「『金八』放送以降の知識の広まりは何をもたらしたか—FtM カテゴリー使用の論理」石田仁［編］『性同一性障害—ジェンダー・医療・特例法』御茶ノ水書房.pp.161-182.
————.(2009)「性別カテゴリーの特異性が現れる「視界の秩序」—「性同一性障害」の人びとへのインタビューデータから」. *女性学*, *16*, 85-100.
————.(2010a).「いかにして「性同一性障害としての生い立ち」を持つことになるのか—実際のカウンセリングの録音・録画における「自分史をやる」活動に焦点を当てて」
宮内洋・好井裕明［編］『〈当事者〉をめぐる社会学—調査での出会いを通して—』
北大路書房.pp.21-40.
————.(2010b).「性同一性障害のカウンセリングの現実について—ここ十数年の調査から」
好井裕明［編］『セクシュアリティの多様性と排除：差別と排除の〔いま〕第 6 巻』
明石書店. pp.125-160.
————.(2011).「会話のリソースとして使われる〈文化的地域差〉—いかにして関西地方の性同一性障害医療が関東地方のそれと差異化されるか」. *論叢クィア*,(4) 29-49.
————.(2015).「『他者の性別がわかる』というもう一つの相互行為秩序—Ft の生きづらさに焦点を当てて」中河伸俊・平英美・渡辺克典［編著］『触発するゴフマン』新曜社.
pp.72-103.
————.(2016).「性同一性障害として生きる—「病気」から生き方へ」酒井・浦野・前田・中

村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』.ナカニシヤ出版.pp.46-64.
————. (2017).「水と油を乳化する：性同一性障害とトランスジェンダーの対立を無効化する実践」. *社会学年報*, (46), 17-31.
鶴田幸恵・小宮友根. (2007).「人びとの人生を記述する：「相互行為としてのインタビュー」について」. *ソシオロジ*, *52*(1), 21-36.
鶴田真紀. .(2007). 「＜障害児であること＞の相互行為形式：能力の帰属をめぐる教育可能性の産出」. *教育社会学研究*, *80*, 269-289.
————. (2008).「自閉症児の言語獲得をめぐる相互行為系列」.*教育社会学研究*, 82, 205-225.
————. (2009).「教育研究における映像データ分析論: 障害児教育研究の観点から」. *教育社会学研究*, *84*, 83-102.
————. (2010). 「初期授業場面における学校的社会化--児童の挙手と教師の指名の観点から」. *立教大学大学院教育学研究集録*, (7), 23-33.
————. (2011).「学校的ルーティンの産出にみる社会化機能：小学校 1 年生の帰りの会に着目して」.*立教大学教育学科研究年報*, *54*, 51-62.
————.(2012).「しょうがい児が泣く—泣きとその記述をめぐる相互行為分析」
北澤毅［編］『文化としての涙—感情経験の社会学的探求』勁草書房.pp.89-107.
————.(2018).「「児童になること」と挙手ルール」
北澤毅・間山広朗［編］『教師のメソドロジー—社会学的に教育実践を創るために』
北樹出版.pp.30-41.

［て］
伝康晴. (2008).「会話･対話･談話研究のための分析単位: 隣接ペア (< 連載チュートリアル> 多人数インタラクションの分析手法 [第 4 回])」. *人工知能学会誌*, *23*(2), 271-276.
————. (2009). 聞き手行動の認知科学に必要なもの. *認知科学*, *16*(4), 475-480.

［と］
鄧開蜀. (2002).「日・中電話会話終結部に関する一考察-「好」「那」「就这样」を中心に」
千葉大学日本文化論叢, (3), 13-28.
杜長俊.(2011).「反省会における評価の行為連鎖：専門家が同席する反省会においての知識の交渉」. *筑波応用言語学研究*, 95-109.
———— (2014).「非優先行為のフォーマットで産出される優先行為の応答：後続の発話スペースが確保される事例をめぐって」. *社会言語科学*, 16(2), 18-31.
————.(2016).「予示した行為がデリケートであることを受け手に推察させる手続き
：指示表現を体言止めの形式で産出する事例をめぐって」.
学習院大学国際研究教育機構研究年報, (2), 65-77.
戸江哲理.(2007a) 「悩みの分かち合いの会話分析—『手抜き』の提案とその受け流し」

ソシオロジ, 51(3), 39-56.
――― (2007b) 「テレビ人生相談における相談 - 助言の相互行為的達成―成員カテゴリー化分析を中心に」 *マス・コミュニケーション研究*, (70), 139-156.
――― (2008a) 「糸口質問連鎖」 *社会言語科学*, 10(2), 135-145.
――― (2008b) 「乳幼児をもつ母親の悩みの分かち合いと『先輩ママ』のアドヴァイス―ある『つどいの広場』の会話分析」 *子ども社会研究*, 14, 59-74.
――― (2009) 「乳幼児をもつ母親どうしの関係性のやりくり―子育て支援サークルにおける会話の分析から」 *フォーラム現代社会学*, 8, 120-134.
――― (2012) 「会話における親アイデンティティ―子どもについての知識をめぐる行為の連鎖」 *社会学評論*, 62(4), 536-553.
――― (2013) 「晩ごはんのひとり言―相互行為における公私区分とその交渉」*家族研究年報*, 38, 109-128.
――― (2015)「母親が子どもを『これ』と呼ぶとき―母親による子どもに対する指示の会話分析のための小論」 *女性学評論*, 神戸女学院大学女性学インスティチュート, 29, 71-89.
―――.(2016a)「例外扱いする特権―母親による子どもに対する『この人』という指示」 *社会学評論*, 67(3), 319-337.
――― (2016) 「コミュニケーション論から―子育てひろばでの支え合い」與那嶺司［編］『日常を拓く知 6 支える』世界思想社.pp. 93-108.
――― (2017) 「子育てひろばにおけるやりとりとつながり」永田夏来・松木洋人［編］『入門 家族社会学』新泉社. pp.199-214.
――――.(2018).「会話分析とフィールドワーク―やりとりのしくみの解明と社会的世界の解明」平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実［編］.『会話分析の広がり』ひつじ書房. pp.127-162.
戸田山和久.(1994)「ウィトゲンシュタイン的科学論」『岩波講座現代思想 10 科学論』pp.139-170.

［な］
中川敦. (2015).「遠距離介護者は何をしてるのか: 提案の判断と離れて暮らす家族の知識」. *総合政策論叢*, (29), 29-44.
――――.(2016).「遠距離介護の意思決定過程の会話分析：ジレンマへの対処の方法と責任の分散」. *年報社会学論集*, (29), 56-67.
―――.(2018).「遠距離介護における SNS を用いた遠隔コミュニケーションの会話分析的研究」. *福祉社会学研究*, (15), 217-239.
中河伸俊.(1989).「クレイム申し立ての社会学―構築主義の社会的問題論の構成と展開(上)」. *富山大学教養部紀要. 人文・社会科学篇*, 22(2), 57-73.
――――. (1990).「クレイム申し立ての社会学―構築主義の社会的問題論の構成と展開(下)」. *富山大学教養部紀要. 人文・社会科学篇*, 23(2), 49-79.

————.(1991).「アメリカでのコンストラクショニスト・アプローチによる犯罪・刑事司法過程・社会問題研究」. *犯罪社会学研究*, *16*, 152-157.

————.(1993).「社会問題ゲームと研究者のゲーム—「社会問題」と「逸脱」へのコンストラクショニスト・アプローチの諸課題」
富山大学教養部紀要. 人文・社会科学篇, *25*(2), 57-81.

————. (1996).「逸脱・社会問題研究における公式統計の使用について」.
奈良女子大学社会学論集, *3*, 49-62.

————. (1998). 「レイベリングからトラブルの自然史へ—逸脱と社会問題の研究へのエスノメソドロジーの影響」.『エスノメソドロジーの想像力』 せりか書房, pp.105-120.

————.(2001a).「方法論のジャングルを越えて：構築主義的な質的探求の可能性」.
理論と方法, *16*(1), 31-46.

————.(2001b).「Is Constructionism Here to Stay?——まえがきにかえて」.
『社会構築主義のスペクトラム—パースペクティブの現在と可能性』ナカニシヤ出版 pp.3-24.

————. (2004).「構築主義とエンピリカル・リサーチャビリティ」. *社会学評論*, *55*(3), 244-259.

————.(2005a).「逸脱のカテゴリー化とコントロール」
宝月誠・進藤雄三［編］『社会的コントロールの現在』世界思想社.pp.159-172.

————.(2005b).「「どのように」と「なに」の往還—エンピリカルな構築主義への招待」
盛山和夫［ほか編著］『<社会>への知/現代社会学の理論と方法 (下) : 経験知の現在』勁草書房.pp.164-189.

————. (2010).「「自己」への相互行為論アプローチ：経験的探究に有効な再定式化のために」. *人文学論集*, *28*, 45-71.

————. (2015).「フレーム分析はどこまで実用的か」
中河伸俊・渡辺克典［編］『触発するゴフマン—やりとりの秩序の社会学』新曜社 pp.130-147.

————.(2016).「談話標識としての笑いと「お笑い」: フレーム分析の実用のための試行的検討」.
同志社社会学研究, (20), 1-17.

中島道男. (1994). 「エスノメソドロジーからデュルケムへ：道徳的規制と規則をめぐって」.
奈良女子大学社会学論集, *1*, 141-154.

中沢新一.(1982).「孤独な鳥の条件—カスタネダ論」*現代思想*,10(6).
「特集＝人類学の最前線」(→再録 1983『チベットのモーツァルト』せりか書房. pp.9-47.)

中塚朋子.(2012).「「写真」に関する質的研究の展開—「映像」／「視覚」の社会学という２つの視点から」*質的心理学フォーラム*,(4) ,74-80 .

————.(2018).「医療面接教育における「医学的情報」と「心理・社会的情報」—「病い（illness）と「疾患（disease)」の接する場として」樫田美雄・岡田光弘・中塚朋子［編］.
『医療者教育のビデオ・エスノグラフィー』晃洋書房.pp.59-88.

中塚朋子・櫻井裕子・山内美月・樫田美雄.(2010).「写真鑑賞場面における相互行為分析—地域の歴史写真集を介した夫婦のコミュニケーション」*徳島大学社会科学研究*, (23),1-29.

中根光敏.(1992).「「寄せ場」差別の社会学—排除のカテゴリー化作用と市民社会のロジック」好井裕明［編］『エスノメソドロジーの現実：せめぎあう〈生〉と〈常〉』世界思想社 pp.167-185.

中村和生. (1996).「エスノメソドロジー的関心：科学の日常性」. *現代社会理論研究*, (6), 73-86.

————. (1997).「理論化作業の実践学的探究」. *年報社会学論集*, (10), 181-192.

————. (1998). 「諸科学の異種混成をめぐって」. *現代社会理論研究*, (8), 131-148.

————. (1999a). 「科学的理論化をめぐって」.*年報社会学論集*,(12), 234-245.

————.(1999b). 「「合理性の印象」の合理的アカウンタビリティ」.*ソシオロジ*, *44*(2), 55-74.

————.(2000a).「エスノメソドロジーにおける技法の変遷—現象学的方法から会話分析的技法へ」*社会学史研究*(22).113-129.

————.(2000b). 「テクノサイエンスとエスノメソドロジーの接点：インスクリプション」. *現代社会理論研究*, (10), 267-280

————. (2001).「知識社会学から知識の実践学へ」. *年報社会学論集*, (14), 174-186.

————(2006a)「「推定無罪」と科学知識の社会学—成員の達成としての実在論 vs.懐疑論」平英美・中河伸俊［編］『新版　構築主義の社会学—実在論争を超えて』世界思想社. pp.162-181.

————. (2006b).「成員カテゴリー化装置とシークェンスの組織化」*年報社会学論集*, (19),25-36.

————.(2007a).「合理的であるとは、どのようなことか」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社,pp.75-98.

————.(2007b).「実験する」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.pp.189-195.

————.(2007c).「比較する／測定する」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.pp.196-202.

————.(2009).「科学社会学における「社会」概念の変遷」酒井泰斗・前田泰樹・浦野茂・中村和生［編］『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版.pp.233-260.

————.(2012).「インスクリプション—現実を描き出す道具立て」茂呂雄二・有元典文ほか［編］『状況と活動の心理学—コンセプト・方法・実践』新曜社. pp.90-95.

————(2015).「分析的エスノメソドロジーとポスト分析的エスノメソドロジー」*明治学院大学社会学・社会福祉学研究*, 144, 17-54.

————.(2016).「ナビゲーション 2」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』.ナカニシヤ出版.pp.85-89.

————.(2017a).「分析的エスノメソドロジー／ポスト分析的エスノメソドロジー、あるいは概念分析」*現代思想*,45,(6).112-124.

————.(2017b).「「不十分な」助言の十分な達成—電話相談における〈相談者 - 助言者〉とい

う装置」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.70-91.
中村和生・樫田美雄. (2004). 「＜助言者 - 相談者＞という装置」. *社会学評論*, *55*(2), 80-97.
中村和生・浦野茂・水川喜文 (2013).「「心の理論」と社会的場面の理解可能性—自閉症スペクトラム児への療育場面のエスノメソドロジーにむけて.」
年報社会学論集, *2013*(26), 159-170.
————.(2018).「当事者研究におけるファシリテーター・当事者の実践—共成員性とカテゴリー対を中心に」*保健医療社会学論集,28*(2),65-75.
中村和生・海老田大五朗. (2016).「保健医療の実践のエスノメソドロジー ＆ 会話分析研究：録音・録画メディアの利用と臨床への介入的貢献」. *保健医療社会学論集*, *27*(1), 51-61.
中村和生・森一平・五十嵐素子.(2016).「素朴心理学から Doing Sociology へ—記述の下での理解と動機のレリヴァンス」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.pp.154-172.
中村香苗.(2011).「会話における見解交渉と主張態度の調整」. *社会言語科学*, *14*(1), 33-47.

［に］
ニシオ,ハリー,K.・竹中和郎.(1969).「アメリカ社会学における現代的課題：民俗学的社会学方法 (Ethnomethodology) と一般社会学方法との交錯」.*社会学評論*, 20(1),.73-90.
西川玲子.(2013).「「出来事」が「ストーリー」になるとき」佐藤彰・秦かおり［編］
『ナラティブ研究の最前線—人は語ることで何をなすのか』ひつじ書房.pp.65-84.
西阪仰.(1984).「論理的に〈行なう〉こと」*社会学年誌*(25). 215-230.
————.(1985).「意味・行為・行為の連鎖: ハーバマース=ルーマン論争への一視座」
社会学評論(165). 85-99
————.(1986).「どうして差別的にふるまえるのか—ことばと社会」*社会学年誌*(27). 59-74.
————.(1988a).「行為出来事の相互行為的構成」*社会学評論*(154). 2-18.
————.(1988b).「非公式権力」*理論と方法* (3)2. 49-68.
————.(1990a).「心理療法の社会秩序—セラピーはいかにしてセラピーに作りあげられていくか」*研究所年報*(20). 1-24.
————.(1990b).「コミュニケーションのパラドクス」
土方透［編］『ルーマン／来るべき知』勁草書房.pp. 61-87.
————.(1990c).「コムニオ・サンクトルム: 宗教について」
土方透［編］『ルーマン／来るべき知』勁草書房 .pp. 88-113.
————.(1991).「独り言と「ながら言」：心理療法の社会秩序 II」*明治学院論叢*(474). 1-25.
————.(1992a)「エスノメソドロジストはどういうわけで会話分析を行なうようになったか」
好井裕明［編］『エスノメソドロジーの現実—せめぎあう〈生〉と〈常〉』世界思想社.
pp. 23-45.

————.(1992b).「自由の社会的構成」*法社会学*(44).81-86.（※西阪 1991 の短縮版）
————.(1992c).「参与フレームの身体的組織化」*社会学評論*(169). 58-73.
————.(1993a).「ハロルド・ガーフィンケル」別冊宝島,176 (4 月号).p242
————.(1993b).「実践のなかの理念—『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』はどこまで社会学の模範たりうるか」 佐藤慶幸・那須壽［編］『危機と再生の社会理論』マルジュ社.pp. 55-76.
————.(1993c).「異文化性の社会的構成—たとえば日本人はどうやって日本人になっていくのか」*明治学院論叢*(514). 223-249.
————.(1993d).「相互行為（やりとり）のなかの曖昧さ」*言語*,22(3). 54-61.
————.(1994a).「直接知覚・論理文法・身体の配置—見ることの相互行為的構成」*現代思想* 22 (13).306-316.
————.(1995a).「心の透明性と不透明性—相互行為分析の射程」*社会学評論*.(182). 2-17.
————.(1995b).「関連性理論の限界」*言語* 24 (4). 64-72.
————.(1995c).「連載〈会話をフィールドにした男〉サックスのアイデア：(1)順番取りシステム再訪」*言語* 24 (7).100-105.
————.(1995d).「連載〈会話をフィールドにした男〉サックスのアイデア：(2)物語を語ること」.*言語* 24(8).106-111.
————.(1995e).「連載〈会話をフィールドにした男〉サックスのアイデア：(3)文の構築」*言語* 24(9).102-107.
————.(1995f).「連載〈会話をフィールドにした男〉サックスのアイデア：(4)隣接関係と隣接ペア」*言語* 24(10).133-138.
————.(1995g).「連載〈会話をフィールドにした男〉サックスのアイデア：(5)成員カテゴリー」*言語* 24(11).104-109.
————.(1995h).「連載〈会話をフィールドにした男〉サックスのアイデア：(6)やりとりのなかのアイデンティティ—ふたたび順番取りシステムへ」*言語* 24(12).114-119.
————. (1996a).「差別の語法—「問題」の相互行為的達成」栗原彬［編］『差別の社会理論—講座 差別の社会学 第 1 巻』弘文堂.pp. 61-76.
————.(1996b).「自然な人工物」*認知科学*,3(2). 50-61.
————.(1996c).「相互行為のなかの非対称性」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・見田宗介・吉見俊哉［編］『岩波講座 現代社会学 第 16 巻：権力と支配の社会学』岩波書店.pp. 47-66.
————.(1996d).「エスノメソドロジーという技法」栗田宣義［編］『メソッド／社会学—現代社会を測定する』川島書店.pp. 61-78.
————.(1996e).「エスノメソドロジーという技法：ブックリスト」栗田宣義［編］『メソッド／社会学—現代社会を測定する』川島書店.pp. 168-169.
————.(1996f).「エスノメソドロジーという技法：キーコンセプト集」栗田宣義［編］『メソッド／社会学—現代社会を測定する』川島書店.pp. 178-179.

————.(1996g).「社会現象としての言語＝記号—ふたたび異文化間コミュニケーションについて」*明治学院論叢*(574). 21-67.
————.(1996h).「対話の社会組織」*言語* 25 (1).40-47.
————. (1997a).「間身体的関係としての対象」
茂呂雄二［編］『対話と知—談話の認知科学入門』新曜社 pp. 79-100.
————.(1997b).「語る身体・見る身体」
山崎敬一・西阪仰［編］『語る身体・見る身体』ハーベスト社.pp. 3-29.
————.(1997c)「秩序は逸脱する—社会システムはどんなシステムか」*大航海*(16). 140-146.
————. (1997d).「会話分析になにがてきるか—「社会秩序の問題」をめぐって」
奥村隆［編］『社会学になにができるか』八千代出版.pp. 115-154.
————.(1997e).「プログラム・相互行為・リフレキシヴィティ—サッチマンとウィノグラードの論争によせて」*明治学院論叢*(593). 167-194.
————.(1998)「概念分析とエスノメソドロジー —「記憶」の用法」
山田富秋・好井裕明［編］『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房.pp. 204-223.
————.(1999a).「会話分析の練習—相互行為の資源としての言いよどみ」
好井裕明・山田富秋・西阪仰［編］『会話分析への招待』世界思想社.pp. 71-100.
————.(1999b).「社会問題の語り口について—山中一郎教授・老川寛教授を送る言葉にかえて」*明治学院論叢*(624). 5-21.
————.(2000a).「一つの社会科学の考え方—経験的データをもちいた概念分析としての相互行為分析」*理論と方法* 15 (1). 61-74.
————.(2000b).「コミュニケーションはいかにして可能か?」
大澤真幸［編］『社会学の知 33』新書館 .pp.138-143.
————.(2000c) 「ガーフィンケルのエスノメソドロジー・プログラム」
情況：第二期 11 (7). 38-50..
————.(2000d).「相互行為のなかの認識」*文化と社会*(2).149-175.
————.(2000e).「エスノメソドロジー」猪口孝ほか［編］『政治学事典』弘文堂.pp.112-113.
————.(2000f).「会話分析」猪口孝ほか［編］『政治学事典』弘文堂.pp.165-166.
————.(2001a).「実験心理学における視覚の『無視された状況』」
上野直樹［編］『状況のインターフェース』金子書房.pp. 26-57.
————. (2001b).「数量化の実践—「よい」記録の組織上の「よい」理由」
船津衛［編］『アメリカ社会学の射程』恒星社厚生閣.pp. 233-256.
————.(2001e).「心的イメージはどのくらい心的か—心的イメージの社会的組織」
足立・渡辺・石川・月本［編］『心とは何か—心理学と諸科学の対話』北大路書房.pp.244-270.
————.(2001f).「対話」永井均ほか［編］『哲学の木』講談社.pp.686-688.
————.(2002).「人間と道具の基礎的研究—道具が道具になるとき」*研究所年報*(32). 71-77.
————.(2003a).「相互行為としての『伝聞』」*言語* 32 (7). 62-69.

————. (2003b). 「10 回研究大会 ワークショップ: 会話分析の可能性:『学習』 の捉え直し」
社会言語科学, *5*(2), 86-89.
————.(2003c).「参加の構造とモノの対象的性格」研究所年報(33). 91-101.
————.(2004a).「電話の会話分析—日本語の電話の開始」
山崎敬一［編］『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣. pp.113-129.
————.(2004b).「心・相互行為・社会学」*心理学ワールド*(26). 17-20.
————.(2004c).「会話分析」『アエラムック 新版 社会学がわかる』朝日新聞社.pp.95-99.
————.(2004d).「見える対象/見えない対象」*研究所年報*(34). 225-237.
————.(2005a).「分散する文—相互行為としての文法」*言語* 34(4). 40-47.
————.(2005b).「語句の配置と行為の連鎖—プラクティスとしての文法」
片桐恭弘・片岡邦芳［編］『講座 社会言語科学(6) 社会・行動システム』ひつじ書房
pp. 176-201.
————.(2005c).「複数の発話順番にまたがる文の構築—プラクティスとしての文法Ⅱ」
串田秀也・定延利之・伝康晴［編］『活動としての文と発話』ひつじ書房.pp. 63-90.
————.(2005d)「想像の空間—会話のなかの「演技」」*研究所年報*(35). 75-88.
————.(2005e).「ジェスチャー」『新版日本語教育事典』大修館書店.pp.339-340.
————.(2006a).「関係の中の電話／電話の中の関係」
山崎敬一［編］『モバイル・コミュニケーション—携帯電話の会話分析』大修館書店.
pp.45-56.
————.(2006b).「反応機会場と連続子—文の中の行為連鎖」*研究所年報*(36). 57-72.
————.(2006c).「教育の樹林 相互行為としての学習」*初等教育資料*(814) .68-71.
————.(2007a).「行為連鎖のなかの敬体と常体」*明治学院大学大学院社会学専攻紀要*(31).
55-78.
————.(2007b).「繰り返して問うことと繰り返して答えること—次の順番における修復開始の
一側面」*研究所年報*(37). 133-143.
————.(2008a).「心の社会論理—エスノメソドロジー的相互行為分析」
田島信元［編］『朝倉心理学講座 11 巻 文化心理学』朝倉書店.pp.186-200.
————.(2008b).「発言順番内において分散する文—相互行為の焦点としての反応機会場」
社会言語科学.10 (2). 83-95.
————.(2008c).「Pre-Pre（プレプレ）」*言語* 37(5). 72-77.
————.(2008d).「会話分析と女性医療の社会学」
西阪仰・川島理恵・高木智世.『女性医療の会話分析』文化書房新社.pp.15-36.
————.(2008e).「技術的環境における分散する指し示し—超音波検査における相互行為」
西阪仰・川島理恵・高木智世.『女性医療の会話分析』文化書房新社.pp.39-62.
————.(2008f).「非技術的環境における指し示し—経腟触診における相互行為」
西阪仰・川島理恵・高木智世.『女性医療の会話分析』文化書房新社.pp.65-90.

————.(2008g).「妊婦が心配事を語るとき—非正当的位置における防御的問題提示について」西阪仰・川島理恵・高木智世.『女性医療の会話分析』文化書房新社.pp.199-225.
————.(2008h).「エスノメソドロジーに方向付けられた相互行為分析—妊婦の問題提示の組織について」*INR（インターナショナル・ナーシング・レビュー）*31 (5). 44-48.
————.(2008i).「行為連鎖のなかの道具使用—超音波検査における指し示しの実践」*日本認知言語学会論文集*(8), 532-544.
————.(2009).「活動の空間的および連鎖的な組織—話し手と聞き手の相互行為再考」*認知科学*,16(1). 65-77.
————. (2010a).「道具を使うこと—身体・環境・相互行為」好井裕明・串田秀也［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 .pp. 36-57.
————.(2010b).「文献案内 サックス『会話についての講義』」好井裕明・串田秀也［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 .pp.269-273.
————.(2010c).「訳者あとがき」『会話分析基本論集—順番交替と修復の組織』世界思想社. pp.247-255.
————.(2010d).「『友だちである』ということ—会話分析の視点から」*Socially*(18). 11-14.
————. (2011).「身体化された知覚: 出生前超音波検査の相互行為組織の一側面」*年報社会学論集*(24). 12-23.
————.(2013a).「二つで一つ—複合活動としての足湯活動」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂.『共感の技法—福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.13-28.
————.(2013b).「視線のゆくえ」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂.『共感の技法—福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.49-65.
————.(2013c).「話題の展開—足湯利用者はどのようにして自分から語り始めるか」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂.『共感の技法—福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.67-81.
————.(2013d).「飛び越えの技法—「でも」とともに導入される共感的反応」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂.『共感の技法——福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.113-126.
————.(2013e).「できなかったこと、そしてできたこと」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂.『共感の技法——福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.189-196.
————.(2014).「絞り出される共感 : 会話分析の掟」*マーケティング・リサーチャー*(124).30-33.
————. (2015).「相互行為における言葉のやりとり: 適合配列・優先関係・共感」伊福部達・西阪仰［他著］『進化するヒトと機械の音声コミュニケーション』NTS.pp. 19-30.
————. (2016).「身体の構造化と複合感覚的視覚: 相互行為分析と『見ること』の社会論理」荒畑靖宏・山田圭一・古田哲也［編］『これからのウィトゲンシュタイン—刷新と応用

のための 14 篇』リベルタス出版.pp. 202-219.
————. (2017).「知識と心配の道徳性：内部被ばく検査報告を語ること／聞くこと」
岩上真珠・池岡義孝・大久保孝治［編］『変容する社会と社会学—家族・ライフコース・地域社会』学文社 pp. 101-123.
————.(2018).「会話分析はどこへ向かうのか」平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実［編］.『会話分析の広がり』ひつじ書房.pp.253-279.
西阪仰・川島理恵.(2007).「曖昧さのない質問を行なうこと—相互行為のなかの情報収集」田中耕一・荻野昌弘［編］『社会調査と権力』世界思想社.pp.115-137.
西阪仰・須永将史・黒嶋智美・早野薫・岩田夏穂.(2012).「避難者の語りの開始—「足湯」ボランティアにおける相互行為の一側面」*研究所年報*(42). 3-23.
西阪仰・黒嶋智美・早野薫・坂井愛理.(2013).「在宅医療の相互行為」*研究所年報*(43). 9-26.
西阪仰・須永将史.(2013).「足湯活動の相互行為分析」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂.『共感の技法——福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.1-11.
西阪仰・小宮友根・早野薫.(2014).「山形 119 番通報の会話分析」*研究所年報*(44), 3-16.
西阪仰・早野薫・黒嶋智美.(2015).「就労支援カウンセリングの会話分析」*研究所年報*(45).21-41.
西澤弘行・南保輔・秋谷直矩・坂井田瑠衣. (2016).「「今，ここ」を引き延ばすこと：歩行訓練における環境構造化実践の相互行為分析」. *常磐大学大学院学術論究*, *3*, 25-43.
西澤弘行・南保輔・坂井田瑠衣・佐藤貴宣・秋谷直矩・吉村雅樹. (2016).「視覚障害者と歩行訓練士の相互行為の中の触覚についての覚え書き」. *現象と秩序*, (5), 15-32.
西原和久.(1991).「ボストニアン・ソシオロジストについて」*現代社会理論研究*(1)
————. (1996).「シュッツとエスノメソドロジーの視座」
北川隆吉・宮島喬［編］『20 世紀社会学理論の検証』有信堂高文社.pp.111-135.
西原鈴子. (1991).「会話の turn-taking における日常的推論」. *日本語学*, 10, 10-18.
西村ユミ・前田泰樹. (2011).「「痛み」の理解はいかに実践されるか—急性期看護場面の現象学的記述」. *看護研究*, *44*(1), 63-75.
————.(2012a) 「時間経験と協働実践の編成—急性期病棟の看護に注目して」. *看護研究*, *45*(4), 388-399.
————. (2012b).「事象に示される通りに—フィールドワークという実践」. *看護研究*, *45*(4), 400-408.
————. (2014).「病院全体のバランスを見る—病棟看護師長の語りとその編成」. *看護研究*, *47*(7), 679-690.
西山真司.(2014).「世界観としての政治理論」
井上彰・田村哲樹［編］『政治理論とは何か』風行社.pp.73-98.
————. (2016).「政治学におけるエスノメソドロジーの寄与」
名古屋大学法政論集(268),75-103.

［ね］
根上優・柴田丈・江間敏郎. (1992).「体育における現実構成主義の観点：授業のエスノメソドロジーを目指して」. *鳴門教育大学研究紀要. 生活・健康編*, 7, 41-60.
根上優・柴田丈(1993)「エスノメソドロジーの実践者としての体育教師—体育におけるエスノメソドロジーの可能性」*宮崎大学教育学部紀要 芸術・保健体育・家政・技術* (75),133-143,

［の］
野呂香代子(1992).「日常会話と常識—成員カテゴリーをめぐる社会的相互行為と言語形式」*大阪大学日本学報*,11, 83-104.
————. (1994).「人物の類型化と感情：常識を基軸とした日常会話分析の試み」. *阪大日本語研究*, 6, 29-52.

［は］
バーデルスキー,マシュー. (2014). 「言語社会化の過程：親子 3 人の会話における謝罪表現を中心に」. *阪大日本語研究*, (26), 33-49.
————.(2016).「養育者 - 子ども間の会話における謝罪表現の言語的社会化」高田・嶋田・川島［編］.『子育ての会話分析：おとなと子どもの「責任」はどう育つか』昭和堂.pp.99-120.
初鹿野阿れ. (1998).「発話ターン交代のテクニック：相手の発話中に自発的にターンを始める場合」. *東京外国語大学留学生日本語教育センター論集*, *24*, 147-162.
初鹿野阿れ・岩田夏穂.(2008).「選ばれていない参加者が発話するとき：もう一人の参加者について言及すること」*社会言語科学*, 10(2), 121-134.
————. (2011).「会話分析を利用した教材開発：日本語非母語話者の会話における修復に注目して」. *日本語教育方法研究会誌*, 18(1), 24-25.
————.(2017).「「からかい」連鎖の構造と相互行為における環境」柳町智治・岡田みさを［編］『インタラクションと学習』ひつじ書房.
橋田浩一.(1994).「サッチマンの相互作用主義について」日本認知学会［編］『認知科学の発展 Vol.7 分散認知』講談社.pp.58-62.
バックハウス,P.・鈴木理恵. (2010).「起きる時間： 施設介護における承諾獲得」. *社会言語科学*, 13(1), 48-57.
八田達夫. (2001). 社会的世界としての作業療法過程を解明するために—不断の達成とみるエスノメソドロジーの示唆. *作業療法*, *20*(6), 540-543.
服部明子. (2009).「電話会話における日本人ビジネス関係者のクレームへの応対」.*言葉と文化*, (10), 77-93.
浜日出夫. (1992).「現象学的社会学からエスノメソドロジーへ」. 好井裕明［編］.『エスノメソドロジーの現実：せめぎあう〈生〉と〈常〉』世界思想社. pp.2-22.

————. (1995).「エスノメソドロジーと「羅生門問題」」. *社会学ジャーナル*, 20, 103-112.
————. (1996a).「ガーフィンケル信頼論再考」. *年報筑波社会学*, *7*, 55-74.
————.(1996b).「もうひとつの秩序問題—ジンメルからガーフィンケルへ」
社会学史研究, (18) 27-37
————.(1997).「「共通価値」から「信頼」へ—秩序問題のパラダイム転換」
駒井洋［編］『社会知のフロンティア』 新曜社, pp.82-106.
————.(1998).「エスノメソドロジーの原風景—ガーフィンケルの短編小説『カラートラブル』」. 好井裕明［編］『エスノメソドロジーの想像力』 せりか書房, pp.30-43.
———— (1999).「シュッツ科学論とエスノメソドロジー」. *文化と社会*, (1), 132-153.
————. (2004).「エスノメソドロジーの発見」
山崎敬一［編］『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣, pp.2-14.
————. (2006).「羅生門問題—エスノメソドロジーの理論的含意」.
富永健一［編］『理論社会学の可能性—客観主義から主観主義まで』新曜社.pp.271-89.
濱西栄司. (2006). 「社会運動論の方法論的レパートリーの拡充: エスノメソドロジー・構築主義・分析的括弧入れによる運動研究」. *京都社会学年報*, *14*, 59-74.
林田康子. (2004).「デイケア作業療法における相互作用: 精神医療の事例から」.
熊本大学社会文化研究, *2*, 113-134.
————. (2005).「精神科作業療法におけるケース・カンファレンスの組織化：相互行為の分析をとおして」. *熊本大学社会文化研究*, *3*, 313-328.
————. (2008).「精神科作業療法における能力と援助の関係について: 相互行為における教育的フレームの成立」. *保健医療社会学論集*, *18*(2), 57-69.
林誠 (2005)「『文』内におけるインターアクション—日本語助詞の相互行為上の役割をめぐって」
串田秀也・定延利之・伝康晴［編］『活動としての文と発話』 ひつじ書房 pp.1-26.
————(2008a)「会話における「指示」と発話の文法構造」児玉一宏・小山哲春［編］
『言葉と認知のメカニズム—山梨正明教授還暦記念論文集』ひつじ書房.pp. 603-619.
————.(2008b).「相互行為の資源としての投射と文法：指示詞「あれ」の行為投射的用法をめぐって」 *社会言語科学*, 10(2),.16-28.
————. (2017a).「会話におけるターンの共同構築」 *日本語学*, *36*(4) （特集 インターアクションの科学）, 128-139.
————.(2017b).「発話順番の構築」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房.
pp.145-168
————.(2017c).「修復」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房.pp.191-217.
————.(2018).「会話分析と多言語比較」平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実［編］.
『会話分析の広がり』ひつじ書房.pp.225-252.

林芳樹.(1985).「エスノメソドロジーと教育調査」

松原治郎［編］『教育調査法』有斐閣 pp.248-260.
————.(1986).「解釈学的社会学再考—エスノメソドロジーの視座構造」
椙山女学園大学研究論集 17(1), 165-175.
早野薫.(2013a).「態度のすり合わせ—「共感」はどのように形成されるか」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂.『共感の技法——福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.83-95.
————.(2013b).「避難期間の表わし方から読みとれること」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂.『共感の技法——福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.97-111.
————.(2013c).「不満・批判・愚痴を述べるということ」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂.『共感の技法——福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房.pp.173-187.
————.(2015).「会話における質問の働きと日本人英語学習者の相互行為能力」.
Journal of the Ochanomizu University English Society, *5*, 50-63.
————.(2017).「修復の組織」. *日本語学*, *36*(4) (特集 インターアクションの科学), 82-92.
————.(2018).「認識的テリトリー—知識・経験の区分と会話の組織」平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実［編］.『会話分析の広がり』ひつじ書房.pp.193-224.

［ひ］
平本毅.(2004).「日常的 CMC 実践の情報倫理学—インタラクティブな達成としての「専門性」」. *立命館産業社会論集*, *39*(4), 123-144.
————. (2005a).「会話分析を応用した CMC 研究」. *現代社会理論研究*, (15), 244-256.
————. (2005b).「社会的分散認知システムとしての CMC—電子空間はどこに存在するか」.
立命館産業社会論集, *41*(3), 133-154.
————.(2008).「電子メディアを通じてことばはいかにして話されるのか」
岡本能里子・佐藤彰・竹野谷みゆき.『社会を構築することば：メディアとことば 3』ひつじ書房 pp.174-201.
————. (2011a).「「フリ」による「オチ」の投射：会話分析によるアプローチ」.
フォーラム現代社会学, (10), 148-160.
————. (2011).「発話ターン開始部に置かれる「なんか」の話者性の「弱さ」について」.
社会言語科学, *14*(1), 198-209.
————. (2011c). 「話題アイテムの掴み出し」. *現代社会学理論研究*, (5), 101-119.
————. (2011d).「他者を「わかる」やり方にかんする会話分析的研究」.*社会学評論*, *62*(2) 153-171.
————. (2013).「複数の語り手が経験の語りを組み合わせることについて：会話分析による検討」. *現代社会学理論研究*, (7), 94-108.

————. (2014).「組織活動の現場での「志」: NPO のミーティング場面の会話分析」. *フォーラム現代社会学*, (13), 18-31.
————.(2015a).「会話分析の「トピック」としてのゴフマン社会学」」中河伸俊・渡辺克典［編］『触発するゴフマン—やりとりの秩序の社会学』新曜社.pp.104-129.
————. (2015b). 「「絶句」の会話分析」. *立命館産業社会論集*, *51*(1), 239-254.
————. (2015c).「コミュニティのデザイン」.*デザイン学論考*(4).16-22.
————. (2016).「物を知らないことの相互行為的編成」. *フォーラム現代社会学*, *15*, 3-17.
————.(2017a).「分析の手順と方法論」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房. pp.51-76.
————.(2017b)「連鎖組織（1 節 はじめに/ 2 節 隣接対/3 節 隣接対の拡張)」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房.pp.77-105.
————.(2017c).「順番交替組織」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房. pp.118-144.
————.(2017d).「物語を語る」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房. pp.169-190.
————.(2017e).「成員カテゴリーの使用」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房. pp.243-258.
————.(2017f).「相互行為・制度・社会生活（4 節 相互行為における身体資源）」串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』勁草書房.pp.301-309.
————.(2017g).「組織の動的理解」山内裕・平本毅・杉万俊夫［著］『組織・コミュニティデザイン』共立出版.pp.43-60.
————.(2017h).「言語と規則のデザイン」山内裕・平本毅・杉万俊夫［著］『組織・コミュニティデザイン』共立出版.pp.61-74.
————.(2017 I).「日常的実践のデザイン」山内裕・平本毅・杉万俊夫［著］『組織・コミュニティデザイン』共立出版.pp.75-89.
————.(2018)「会話分析の広がり」平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実［編］. 『会話分析の広がり』ひつじ書房.pp.1-33.
平本毅,・黒嶋智美・水川喜文・秋谷直矩. (2014).「第 32 回研究大会ワークショップ：会話分析はサービスエンカウンター研究にどう貢献するか」. *社会言語科学*, *16*(2), 99-105.
平本毅, 城綾実, 戸江哲理, 増田将伸, 横森大輔, 西阪仰. (2014).「第 30 回研究大会ワークショップ: 会話分析のスペクトラム—その広がりと可能性」. *社会言語科学*, *17*(1), 134-141.
平本毅・高梨克也.(2015a).「社会的活動としての想像の共有：科学館新規展示物設計打ち合わせ場面における「振り向き」 動作の会話分析」. *社会学評論*, 66(1), 39-56.
————. (2015b).「環境を作り出す身振り：科学館新規展示物制作チームの活動の事例から」. *認知科学*, *22*(4), 557-572.
平本毅・水川喜文.(2017)「セクション 1　サービスエンカウンター／カスタマーサービスという

フィールド：イントロダクション」水川・秋谷・五十嵐［編］．『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp28-35.
平本毅・山内裕.(2016).「鮨屋のサービス文化と雑談」
村田和代・井出里咲子［編］『雑談の美学—言語研究からの再考』ひつじ書房. pp.73-95.
————.(2017a).「どんな店か、どんな客か：江戸前鮨屋の注文場面の応用会話分析」
水川喜文・秋谷直矩・五十嵐素子［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp35-53.
————. (2017b).「サービスエンカウンターにおける店員の「気づき」の会話分析」.
質的心理学研究, (16), 79-98.
————. (2017c).「相互行為としてのサービス: クリーニング店の接客場面の会話分析」.
日本語学, *36*(4) (特集 インターアクションの科学), 18-30.
————.(2017d).「提供者と利用者の「やりとり」による価値共創—日本型クリエイティブ・サービス」村上輝康・新井民夫・JST 社会技術研究開発センター［編］
『サービソロジーへの招待：価値共創によるサービス・イノベーション』
東京大学出版会.pp.56-72.
平本毅・山内裕・北野清晃. (2014).「言語と情報への会話分析によるアプローチ: : ハンバーガー店の調査から」. *日本情報経営学会誌*, *35*(1), 19-32.
比留間太白. (1993).「「説明」研究の傍流：エスノメソドロジーの視点から見た「説明」研究の展望」. *上越教育大学研究紀要,* 12(2), 149-157.
————. (1994).「手順の説明の会話分析的検討」. *上越教育大学研究紀要*,13(2), 131-143.

［ふ］
福島三穂子. (2013).「カナダ仏教会における語りの中の日本文化」.
埼玉大学紀要. 教養学部, *49*(1), 157-168.
————.(2016).「スティブトン仏教会における日系文化の考察」
山崎敬一・やまだようこ・山崎晶子・池田佳子・小林亜子［編著］『日本人と日系人の物語—会話分析・ナラティヴ・語られた歴史』pp.255-262.
福島三穂子・佐藤信吾. (2013).「遠隔操作ロボットを使ったコミュニケーションの研究：ハワイと福島の交流事業を中心に」. *埼玉大学紀要 (教養学部)*, *49*(2).105-114
福田千恵.(2016).「ハワイ沖縄移民ミュージアムにおけるカテゴリーの構築」
山崎敬一・やまだようこ・山崎晶子・池田佳子・小林亜子［編著］『日本人と日系人の物語—会話分析・ナラティヴ・語られた歴史』pp.263-269.
藤浦五月・田中真衣・今田恵美・高井美穂・吉兼奈津子・岩田夏穂・初鹿野阿れ(2014).
「第 32 回研究大会ワークショップ：日本語教育に生かす会話分析の可能性—日常的なやりとりに注目して」*社会言語科学* 16(2), 106-111,
藤谷忠昭. (1999). 「W. ジェームズの純粋経験の概念について」. *社会学評論*, *50*(1), 75-90.

藤守義光. (2002).「相互行為による 「達成」(Interactional Achievement) としての医療実践—メディカル・カンファレンスを一例として」. *工学院大学共通課程研究論叢*, (39), 119-132.
藤守義光, 寺嶋吉保, 玉置俊晃, 森口博基, 相野田紀子, & 樫田美雄. (2004).「医療のエスノメソドロジー研究の現状と課題: 徳島大学大学院医学研究科特別講義(医療コミュニケーション研究セミナー)」. *徳島大学社会科学研究*, *17*, 207-253.
藤巻祐規. (2004).「「社会問題の社会学」再考」. *年報社会学論集*, (17), 155-165.
————. (2006).「社会問題の状況的な再定式化に向けて」. *早稲田大学大学院文学研究科紀要 第 1 分冊*, *51*, 47-54.
藤原信行. (2012a).「自殺動機付与/帰属活動の社会学・序説：デュルケムの拒絶, ダグラスの挫折, アトキンソンの達成を中心に」. *現代社会学理論研究*, (6), 63-75
————.(2012b).「自殺動機付与・責任帰属活動の達成と,人びとの方法と/しての精神医学的知識」. *ソシオロゴス*, (36), 68-83.
————. (2012c).「非自殺者カテゴリー執行のための自殺動機付与」. *ソシオロジ*,57(1), 125-140.
渕田隆史. (2007). 「会話的相互行為としての言語臨床」. *言語社会*, 1, 408-428.
ブッシュネル,ケード. (2017).「そこ, 笑うとこ—留学生向けの落語会における観客による笑いの会話分析」*笑い学研究*, 24, 17-32.

［ほ］
坊農真弓.(2008a).「UCLA で会話分析を学ぶ」. *ヒューマンインタフェース学会誌*, 10(2), 167-168.
————. (2008b). 「会話構造理解のための分析単位: F 陣形 (<連載チュートリアル>多人数インタラクションの分析手法 [第 6 回])」. *人工知能学会誌*, *23*(4), 545-551.
————. (2009).「手話会話分析をはじめるために」*言語*, 38(8), 40-48.
————(2010).「手話会話における分裂—視覚的インタラクションと参与枠組み」木村大治・中村美知夫・高梨克也［編］ 『インタラクションの境界と接続：サル・人・会話研究から』.昭和堂.
————. (2013).「手話三者会話における身体と視線」.*日本語学*, 32(1), 46-55.
————. (2015a).「ロボットは井戸端会議に入れるか：日常会話の演劇的創作場面におけるフィールドワーク」. *認知科学*, 22(1), 9-22.
————.(2015b).「『ロボットと出会う』を創る—ロボット演劇のフィールドワーク」木村大治［編］『動物と出会うⅡ：心と社会の生成』ナカニシヤ出版 pp.93-112.
————.(2016).「手話雑談におけることばと身体とマルチアクティビティ」村田和代・井出里咲子［編］『雑談の美学—言語研究からの再考』ひつじ書房. pp.97-117.
————. (2017a).「手話相互行為における即興手話表現—修復の連鎖の観点から」*社会言語科学*, *19*(2), 59-74.

————.(2017b).「即興手話表現というインターアクション—手話話者の手話と日本語の関係」*日本語学*, *36*(4), 46-58.
————.(2018).「多人数の会話にはルールがあるの?」
綾屋紗月［編］『ソーシャル・マジョリティ研究：コミュニケーション学の共同創造』金子書房.
坊農真弓・菊地浩平・大塚和弘. (2011).「手話会話における表現モダリティの継続性」. *社会言語科学*, 14(1), 126-140.
坊農真弓・高梨克也. (2007). 「多人数インタラクション研究には何が必要か? :インタラクション研究の国内外の動向と現状 (<連載チュートリアル>多人数インタラクションの分析方法［第 1 回］」. *人工知能学会誌*, *22*(5), 703-710.
————(2007). 「多人数インタラクション研究の方法: 言語・非言語コミュニケーション研究のための分析単位とその概念 (<連載チュートリアル>多人数インタラクションの分析手法［第 2 回］」. *人工知能学会誌*, *22*(6), 838-845.
————. (2008). 「チュートリアルへの質問と回答 (<連載チュートリアル>多人数インタラクションの分析方法 ［第 8 回］)」. *人工知能学会誌*, *23*(6), 803-810.
細田由利.(2003).「非母語話者と母語話者の日常コミュニケーションにおける言語学習の成立」. *社会言語科学*, 6(1), 89-98.
———— (2007).「日本語における反応機会場と第二言語会話への転移」. *人文研究：神奈川大学人文学会誌*, 163, 201-226.
————(2008).「「第二言語で話す」ということ：カタカナ英語の使用をめぐって」. *社会言語科学*,10(2), 146-157.
————.(2016a).「「会話」の研究」
高木智世・細田由利・森田笑.『会話分析の基礎』ひつじ書房.pp.1-8.
————.(2016b).「修復の組織」
高木智世・細田由利・森田笑.『会話分析の基礎』ひつじ書房.pp.183-227.
————.(2016c).「物語を語ること」
高木智世・細田由利・森田笑『会話分析の基礎』ひつじ書房.pp.229-264.
————.(2016d).「受け手に合わせたデザインと成員カテゴリー」
高木智世・細田由利・森田笑『会話分析の基礎』ひつじ書房.pp.265-293.
————.(2016e).「教室内相互行為—制度的場面の分析」
高木智世・細田由利・森田笑.『会話分析の基礎』ひつじ書房.pp.313-338.
細田由利・高木智世(2016).「会話分析の視点と研究プロセス」
高木智世・細田由利・森田笑『会話分析の基礎』ひつじ書房.pp.9-47.
細馬宏通.(2002).「相互行為とメディア—チャットという「会話」はどのような時空間構造を持つか」伊藤勇・徳川直人［編］『相互行為の社会心理学』北樹出版 pp.179-198.
———— (2008). 「非言語コミュニケーション研究のための分析単位: ジェスチャー単位

(< 連載チュートリアル> 多人数インタラクションの分析手法 [第 5 回])」. *人工知能学会誌*, *23*(3), 390-396.
————. (2009).「話者交替を越えるジェスチャーの時間構造—隣接ペアの場合」. *認知科学*, *16*(1), 91-102.
————. (2011).「巻頭インタビュー ケアする人々(4) 細馬宏通さん 微視的にケアのプロセスを「記述」する—介護現場のコミュニケーション分析が見せてくれるもの」. *訪問看護と介護*, *16*(4), 267-272.
————. (2012).「身体的解釈法：グループホームのカンファレンスにおける介護者間のマルチモーダルな相互行為」. *社会言語科学*, *15*(1), 102-119.
————. (2014).「相互行為としてのページめくり」. *認知科学*, *21*(1), 113-124.
————. (2017a).「介護活動を表現する身体—介護者のカンファレンスにおける身体相互作用」石崎雅人［編］『高齢者介護のコミュニケーション研究—専門家と非専門家の協働のために』ミネルヴァ書房.pp.157-185.
————. (2017b).「個の認知から相互行為的認知へ:行為のマイクロ分析から」*表象*, (11), 73-80.
細馬宏通・坊農真弓・石黒浩・平田オリザ. (2014).「人はアンドロイドとどのような相互行為を行いうるか」. *人工知能学会論文誌*, *29*(1), 60-68.
堀田裕子.(2012a).「生活環境データをいかにして論文へ定着させるか : ビデオエスノグラフィーの経験とエスノメソドロジーの困難を中心に」. *質的心理学フォーラム*, (4), 75-79.
————. (2012b).「「社交」としての在宅療養場面：ビデオエスノグラフィーに基づく相互行為分析」. *コロキウム: 現代社会学理論・新地平*, (7), 166-187.
————. (2014).「声の回路と手の回路：意思疎通困難者をめぐる相互行為分析」. *愛知学泉大学現代マネジメント学部紀要*, 2(2), 53-67.
————.(2015).「在宅療養の社交性とその意義に関する一断章—ALS 患者 S さんの事例より」. *現象と秩序*, (2), 209-214.
————. (2017).「残されるモノの意味—線条体黒質変性症患者とその介護者の事例より」. *質的心理学研究*, (16), 63-78.
堀田裕子・樫田美雄. (2012).「在宅療養者と介護者の相互行為分析：ある脊椎損傷者の着替え場面に注目して」. *徳島大学地域科学研究*, 2, 1-16.
堀内浩.(2008)「知的障害者小規模作業所のエスノグラフィー：職員 - 利用者間の相互行為から」." *北星学園大学大学院社会福祉学研究科北星学園大学大学院論集* 11 (2008): 27-45.
————. (2009).「障害者の就労支援における概念の再検討 :「就労移行支援のためのチェックリスト」を読む実践」. *北星学園大学大学院社会福祉学研究科北星学園大学大学院論集*, (12), 17-34.
————. (2012).「会話の中における知的障害者の不利益の提示」 *北星学園大学大学院論集*, (3), 69-88.
本間美里・松本健義. (2014)「対話による鑑賞授業における学習過程の触発性について」.

美術教育学: 美術科教育学会誌, (35), 457-470.

［ま］

前田泰樹.(1995).「言語ゲームにおける「理解」と「知識」」 *哲学の探求*.(23)124-147

————.(1998).「「私的経験」の理解可能性について—歯科医療場面の相互行為分析」. *年報社会学論集*, *1998*(11), 25-36.

———— (1999a).「情緒をめぐる語りの理解可能性について」. *ソシオロゴス*, *23*, 86-102.

————. (1999b).「情緒経験の語りとケアの論理—痴呆に関する問診場面の相互行為分析」. *現代社会理論研究*, (9), 97-108.

————. (2001).「「心の時代」の何が問題か？」. *文明*, (85), 45-62.

————. (2002).「失語であることの生活形式：言語療法場面の相互行為分析」. *総合教育センター紀要*, *22*, 71-86.

————.. (2003).「「傾聴」活動の論理文法について：電話相談看護のロール・プレイの相互行為分析」. *保健医療社会学論集*, *14*(1), 13-26.

————. (2004).「記憶の科学の思考法—失語症研究と想起の論理文法」. *文明*, (3), 45-55.

————. (2005a).「行為の記述・動機の帰属・実践の編成」. *社会学評論*, *56*(3), 710-726.

————. (2005b). 「知識を示す能力・経験を語る権利—言語療法場面の相互行為分析 2」. *総合教育センター紀要*, *25*, 13-39.

————.(2007a).「はじめに」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.pp. iii -xii

————.(2007a).「行為を理解するとは、どのようなことか」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.pp.37-56.

————.(2007b).「見る」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.pp.210-216.

————.(2007c).「感情」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.pp.236-241.

————.(2007d).「記憶と想起」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.pp.242-247.

————. (2009).「遺伝学的知識と病いの語り—メンバーシップ・カテゴリー化の実践」. 酒井泰斗・前田泰樹・浦野茂・中村和生［編］『概念分析の社会学—社会的経験と人間の科学』ナカニシヤ出版.pp.41-73.

————.(2011).「「痛み」の文法—ウィトゲンシュタインとエスノメソドロジー」『KAWADE 道の手帖 ウィトゲンシュタイン—没後 60 年、ほんとうに哲学するために』河出書房新社.pp.141-146.

————. (2012).「経験の編成を記述する」. *看護研究*, *45*(4), 311-323.

————. (2013).「急変に対応する:看護ケアのエスノメソドロジー」.*現代思想*, *41*(11), 191-203.

————(2015a).「物語を語り直す—遺伝子疾患としての多発生嚢胞腎」.
ナラティブとケア(6),84-91.
————. (2015b).「「社会学的記述」再考」. *一橋社会科学,* 7(別冊), 39-60.
————.(2016a)「人間の科学の諸概念に対する社会学的概念分析」
平子友長ほか［編］『危機に対峙する思考』梓出版.pp.56-73
————.(2016b)「ナビゲーション 1」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.pp.3-6.
————.(2016c)「新しい分類のもとでの連帯—遺伝学的シティズンシップと患者会の活動」
酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』
ナカニシヤ出版.pp.27-45.
————.(2016d)「ナビゲーション 3」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］.『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』.ナカニシヤ出版.pp.173-176.
————.(2017).「「メンバーの測定装置」としての「痛みスケール」—急性期病棟における緩和ケアの実践」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.171-188.
前田泰樹・西村ユミ. (2010).「「メンバーの測定装置」としての「痛みスケール」—急性期看護場面のワークの研究」. *総合教育センター紀要*, (30), 41-58.
————. (2012).「協働実践としての緩和ケア—急性期看護場面のワークの研究」.
質的心理学研究(11)7-25.
前田泰樹・溝口満子・守田美奈子. (2007).「「遺伝」について「学習」するとはどのようなことか？—大学生へのグループインタビューの分析から」. *日本遺伝看護学会誌*, *5*(1), 1-17.
牧野遼作・古山宣洋・坊農真弓.(2015).「フィールドにおける語り分析のための身体の空間陣形」. *認知科学*, *22*(1), 53-68.
牧野遼作・阿部廣二・古山宣洋・坊農真弓. (2017).「会話における" 収録される" ことの多様な利用」. *質的心理学研究*, (16), 25-45.
増田将伸. (2007). 「「どうです/でした (か)」型質問をめぐる相互行為の諸相—『日本語話し言葉コーパス』の用例から」. *言語科学論集*, (13), 55-69.
————. (2011). 「「どんな/どういう+名詞」型質問-応答連鎖における優先構造」.
言語科学論集, (17), 143-158.
————.(2017).「ちょっとひといき②：会話データ中の「質問」の分析」
中井陽子［編］『文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析の広がりと軌跡』
ナカニシヤ出版.pp.64-65.
————. (2018a).「日本語会話のスタンス標識のはたらきの記述的検討 研究経過報告—副詞「もう」を例として」. *京都産業大学総合学術研究所所報*, *13*, 111-130.
————.(2018b).「連鎖組織をめぐる理論的動向」平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実［編］.『会話分析の広がり』ひつじ書房.pp.35-61.

増田将伸・城綾実.(2017).「「わからない」理解状態の表示を契機とする関与枠組みの変更」
片岡・池田・秦［編］『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』
pp.27-46,くろしお出版.
増田将伸・宮﨑七湖.「森純子先生へのインタビュー」
中井陽子［編］『文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析の広がりと軌跡』
ナカニシヤ出版.pp.159-173.
松浦加奈子. (2015).「授業秩序はどのように組織されるのか：児童間の発話管理に着目して」.
教育社会学研究, 96, 219-239.
松木洋人. (2001).「社会構築主義と家族社会学研究： エスノメソドロジーの知見を用いる構築主義の視点から」 . *哲學*, *106*, 149-181.
————. (2003).「家族規範概念をめぐって」. *年報社会学論集*, 2003(16), 138-149.
————. (2005).「子育て支援サービスを提供するという経験について—ケア提供者の語りにおける「子ども」カテゴリーの二重性」. *家族研究年報*, (30), 35-48.
————.(2007).「子育てを支援することのジレンマとその回避技法—支援提供者の活動における「限定性」をめぐって」.*家族社会学研究*, 19(1), 18-29.
————. (2009).「「保育ママ」 であるとはいかなることか—家庭性と専門性の間で」.
年報社会学論集,2009(22), 162-173.
————. (2012).「ひろば型子育て支援における『当事者性』と『専門性』: 対称性を確保するための非対称な工夫」. *福祉社会学研究*, (9), 142-162.
————. (2013). 「家族定義問題の終焉」. *家族社会学研究*, *25*(1), 52-63.
松戸武彦.(1994)「組織は不断につくられる—組織と労働のエスノメソドロジー」
宮本孝二・森下伸也・君塚大学［編］『組織とネットワークの社会学』新曜社.pp.178-189.
松永伸太朗.(2016).「アニメーターの過重労働・低賃金と職業規範：「職人」的規範と「クリエーター」的規範がもたらす仕事の論理について」 *労働社会学研究*(17)1-25.
松永伸太朗・永田大輔. (2017).「フリーランスとして「キャリア」を積む—アニメーターの二つの職業観から」. *日本オーラル・ヒストリー研究*, *13*, 129-150.
松本健義. (1994).「幼児の造形行為における他者との相互行為の役割に関する事例研究 (1)」.
美術教育学: 美術科教育学会誌, (15), 265-280.
————. (1996).「幼児の造形行為における他者との相互行為の役割に関する事例研究 (2)
:「顔」 の描画表現形成における知覚的同一性と相互行為文脈への依存性」
美術教育学: 美術科教育学会誌, (17), 231-246.
————. (1999).「芸術学習の実践的遂行過程におけるできごとの構築とその記述について」
芸術教授学, (2), 75-85.
松本健義・服部孝江. (1999).「砂場における幼児の造形行為のエスノメソドロジー」.
上越教育大学研究紀要, 18(2), 517-536.
間山広朗. (2002).「概念分析としての言説分析」. *教育社会学研究*, 70(0), 145-163.

————.(2008)「言説分析のひとつの方向性—いじめ言説の「規則性」に着目して」
北澤毅・古賀正義 [編],『質的調査法を学ぶ人のために』世界思想社.
————.(2012).「微笑みあう涙—「発達」の原初形態としての泣きの記述」
北澤毅［編］『文化としての涙—感情経験の社会学的探求』勁草書房.pp.55-72.
————.(2016).「新任教員の「困難」に対する教育臨床の社会学的実践(1)—授業への「焦点化」の観点から」. *立教大学大学院教育学研究集録*, (13), 47-64.
((改稿))→.(2018).「新任教員の「困難」をめぐる臨床研究の実践」
北澤毅・間山広朗［編］『教師のメソドロジー—社会学的に教育実践を創るために』
北樹出版.pp.100-114.
丸山健夫.(1999)「インターネット社会とエスノメソドロジー」
『武庫川女子大学文学部五十周年記念論文集』和泉書院.pp.443-451.

［み］
三樹弘之. (1999).「協同作業における文化的違いとその分析法」.
情報処理学会論文誌, *40*(3), 969-979.
三島佳奈・塚田香織・石田喜美. (2006).「学習者による学習の協働的生成：道案内課題における相互行為場面の会話分析から」. *人文科教育研究*, (33), 95-108.
水上悦雄・右田正夫. (2002). 「言語コミュニケーションの科学に向けて チャット会話の秩序 インターバル解析による会話構造の研究」. *認知科学*, *9*(1), 77-88.
水川喜文.(1990)「初期エスノメソドロジー研究＜序説＞」社会学論考,(11).59-82.
————. (1992a) .「「因果的説明」のポリティックス(I): エスノメソドロジー的視点から」.
哲學, *93*, 201-222.
.————. (1992b) .「エスノメソドロジーの歴史的展開」.好井裕明［編］
『エスノメソドロジーの現実：せめぎあう〈生〉と〈常〉』世界思想社.pp.203-225.
————. (1992c).「エスノメソドロジー再考」 *国際基督教大学学報. II-B, 社会科学ジャーナル*, (30 (3)), 143-165.
————.(1992d).「笑いの社会的組織化—会話分析の知見から」. *Sociology today*, (3), 28-42.
————. (1994).「定式化作業と実践的行為—精神科面接における会話を事例として」.
年報社会学論集, (7), 179-190.
————. (1995a).「合理主義・工学的発想・協同作業—ウィノグラードらの認知科学的アプローチとガーフィンケルの接点」. *社会学論考*, *16*, 106-127.
————.(1995b).「科学と実践に関する一考察—レーベンスヴェルト・ペアの発想をもとに」
現代社会理論研究(5).127-136.
————. (1996).「プラグマティズムと現象学の末裔— エスノメソドロジー的思考の源泉に関する試論」. *年報社会学論集*, (9), 187-198.
————. (1997).「ビデオゲームのある風景—インタラクションの中のデザイン」.

山崎敬一・西阪仰［編］. (1997)『語る身体・見る身体』ハーベスト社　pp.123-143.
————. (1999).「障害当事者による介助実習教育の意義」
北星学園女子短期大学紀要, (35), 265-268.
————. (2001).「会話分析による録画記録の利用法：トランスクリプト作成の方法論」.
北星学園女子短期大学紀要, (37), 77-84.
————.(2002).「障害者介護という物語：A.ラツカの視点から見る障害福祉ビデオ」
北星学園女子短期大学紀要,(38), 193-203.
————.(2004a).「高次脳機能障害作業所における記録実践: 記録への指向と共同的推論」.
北星学園大学社会福祉学部北星論集, (41), 13-26.
————.(2004b).「認知科学・情報科学とエスノメソドロジー」
山崎敬一［編］.『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.pp.204-210.
————. (2005).「新聞報道の記述における高次脳機能障害のカテゴリー分析」.
北星学園大学社会福祉学部北星論集, (42), 33-47.
————(2007a). 「身体障害者介助の実践学—障害者自立生活カテゴリーと介助シークエンス」
山岸健［編］『社会学の饗宴Ⅰ　風景の意味—理性と感性』三和書籍. pp.351-375.
————.(2007b)「エスノメソドロジーのアイディア」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］
『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社..pp.3-34.
————.(2007c).「共同作業」前田泰樹・水川喜文・岡田光弘［編］『ワードマップ エスノメソドロジー：人びとの実践から学ぶ』新曜社.pp.203-208.
————. (2008).「視覚イメージ伝達を伴う相互行為のカテゴリー分析：カメラ付き携帯電話による写真送付と会話に関する一考察」. *北星学園大学社会福祉学部北星論集*, (45), 25-35.
————. (2010).「会話分析による談話単位の革新とその課題」
北星学園大学社会福祉学部北星論集, (47), 53-65.
————. (2013).「往来 訳書『エスノメソドロジーと科学実践の社会学』の出版とエスノメソドロジー・会話分析の研究動向」. *現代社会学研究*, *26*, 113-123.
水川喜文・池谷のぞみ.(2004).「エスノメソドロジーの方法(2)」
山崎敬一［編］.『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.pp.36-49.
水川喜文・中村和生・浦野茂. (2013).「社会生活技能訓練におけるカテゴリーと社会秩序：自閉症スペクトラム児への療育場面のエスノメソドロジー」.*保健医療社会学論集*,*24*(1), 31-40.
水川喜文・是永論・五十嵐素子.(2017).「職人の技術と接客コミュニケーション：住宅設備の工事現場のサービスエンカウンター」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.54-69.
水谷史男.(2016).「自明なことを凝視する先に何が見えるのか：エスノメソドロジー管見
—社会学方法論の研究」. *明治学院大学社会学・社会福祉学研究*, (146), 61-111.
三橋弘次・バーデルスキー,マシュー.(2009). 「「かわいい女の子」 はいかにして可能か: 保育士と子どもとの相互行為分析」. *国立女性教育会館研究ジャーナル*, *13*, 49-58.

皆川満寿美.(1992).「エスノメソドロジーとマテリアリズムのあいだ—フェミニスト D・スミスの場合」*現代社会理論研究*(2).11-22.
————.(1993).「「無関与」の協働的達成」*現代社会理論研究*(3).47-67.
————.(1994).「「判断力喪失者」と「エスノメソドロジー的無関心」のあいだ—シンポジウム「エスノメソドロジーの可能性と展開」によせて」*現代社会理論研究*.(4)139-146.
————. (1997).「障害としての文化」. *武蔵大学人文学会雑誌*, *29*(1), 146-172.
————.(1998).「EM はどのように社会学か—ガーフィンケル&サックス「ストラクチャー論文」の示すもの」*社会学史研究*(20).85-98.
————. (1999).「ラディカル・リフレクシヴィティとエスノメソドロジー」. *ソシオロジスト: 武蔵社会学論集*, *1*, 125-148.
————.(2002).「相互行為と性現象—エスノメソドロジーからのアプローチ」伊藤勇・徳川直人［編］『相互行為の社会心理学』北樹出版.pp.141-159.
————.(2003).「ガーフィンケル」『子犬に語る社会学・入門 (洋泉社 MOOK—シリーズ StartLine)』洋泉社.pp.134-135.
————.(2005).「ジェンダーセッション(第 33 回)：成し遂げられるものとしての<女>—社会学のひとつの見方」*立教大学ジェンダーフォーラム年報*(7), 55-58.
皆川満寿美・樫村志郎・藤村正之. (1993).「共同作業所の社会学のために—社会福祉施設をめぐるフィールドワークより」. *武蔵大学人文学会雑誌*, *25*, 103-150.
南保輔. (1995a).「A.V.シクレルの方法論の展開」船津衛・豊月誠［編］『シンボリック相互作用論の世界』恒星社厚生閣.pp.145-159.
————(1995b)「教室での相互作用」船津衛・豊月誠［編］『シンボリック相互作用論の世界』恒星社厚生閣 pp.212-223.
————(2000).「ラジオ野球中継の産出資源」. *コミュニケーション紀要*, 13, 51-89.
————(2008).「徹子が黙ったとき：テレビトーク番組の相互作用分析」. *コミュニケーション紀要*, 20, 1-76.
————(2010).「社会調査とエスノメソドロジー」串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社. pp.242-261.
————.(2011).「ロボットラボにおけるコミュニケーション」. *コミュニケーション紀要*, 22, pp.1-22.
————. (2013).「パーティリハーサルのミクロエスノグラフィ」. *コミュニケーション紀要*,24, 1-19.
————(2015)「引用発話・再演・リハーサル—フレームの複合性と経験の自立性」中河伸俊・渡辺克典［編］『触発するゴフマン—やりとりの秩序の社会学』新曜社.pp.148-157.
————.(2017a)「デモ開発プロジェクトを立ち上げることと運営すること—ロボットラボにおける意思決定とリーダーシップ」水川・秋谷・五十嵐［編］.『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.101-120.

————. (2017b).「映像作品視聴の経験的研究—AV 機器を利用した相互作用分析の適用可能性の検討」. *コミュニケーション紀要*, *28*, 1-21.
美馬義亮.(2001).「状況を認知するロボット」上野直樹［編］『状況のインターフェース』金子書房.pp.215-240..
宮内洋(1998).「外国籍園児のカテゴリー化実践」山田富秋・好井裕明［編］『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房.pp.187-202.
宮脇幸生.(1984).「文献紹介 : Erving Goffman, Forms of Talk (1981)』. *ソシオロジ*, *29*(1), 127-138.
————..(1987).「談話におけるカテゴリー化のプロセス」谷泰［編］『社会的相互行為の研究』京都大学人文科学研究所.

［む］
［め］

［も］
森一平. (2008).「学級社会学の可能性：歴史研究と相互行為研究の邂逅」. *東京大学大学院教育学研究科紀要*, 47, 167-175.
————(2009a).「学校的スキルとしての共同注意—「A と Bs が同一のことがらに注意を向けること」への社会化について」. *年報社会学論集*, (22), 186-197.
————. (2009b).「日常的実践としての「学校的社会化」: 幼稚園教室における知識産出作業への社会化過程について」. *教育社会学研究*, 85, 71-91.
————.(2011).「相互行為のなかの「知っている」ということ—社会化論が無視してきたもの」. *教育社会学研究*,89, 5-25.
————. (2014).「授業会話における発言順番の配分と取得 :「一斉発話」と「挙手」を含んだ会話の検討」. *教育社会学研究*, 94, 153-172.
————.(2016).「授業の秩序化実践と「学級」の概念」酒井・浦野・前田・中村・小宮［編］. 『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理』ナカニシヤ出版.pp.195-213.
————.(2018).「人生が変わるとき—薬物依存からの「回復」の語りとライフストーリーの理解可能性」小林多寿子・浅野智彦［編］『自己語りの社会学—ライフストーリー・問題経験・当事者研究』新曜社.pp.202-223.
森傑. (2005).「PFI 事業の提案書作成におけるエスノデザインメソッドの考察 : Private Finance Initiative の施設計画に関するエスノメソドロジー」. *日本建築学会計画系論文集*, 595, pp.87-94.
森傑, 舟橋國男, 鈴木毅, & 木多道宏. (2001).「エスノメソドロジーの方法に関する基礎的考察: 住環境デザインにおけるエスノメソドロジーに関する研究 1」. *日本建築学会計画系論文集*, (540), 181-187.
森傑・舟橋國男. (2002)「発注者 - 設計者関係における Ethno-design-method の考察 : 住環境デ

ザインにおけるエスノメソドロジーに関する研究 2」.
日本建築学会計画系論文集, 560,159-165.
————. (2003).「購買者 - 販売者関係における Ethno-design-method の考察: 住環境デザインにおけるエスノメソドロジーに関する研究 3.」
日本建築学会計画系論文集,569,.77-83.
森田笑.(2007). 「終助詞・間投助詞の区別は必要か—「ね」 や「さ」の会話における機能」.
言語, *36*(3), 44-52.
———— (2008).「相互行為における協調の問題：相互行為助詞「ね」が明示するもの」
(<特集>相互行為における言語使用：会話データを用いた研究). *社会言語科学*, *10*(2), 42-54.
————(2016a).「会話のはじめの一歩—子供における相互行為詞「よ」の使用」
高田・嶋田・川島［編］.『子育ての会話分析 ： おとなと子どもの「責任」はどう育つか』
昭和堂.pp.145-170
————. (2016b).「相互行為と文法」
高木智世・細田由利・森田笑.『会話分析の基礎』ひつじ書房.pp.295-312.
————. (2017).「相互行為詞：行為と行為の間における相互行為の秩序の交渉を捉える」.
日本語学, *36*(4) (特集 インターアクションの科学), 152-163.
森田聡之.(1993).「平常なセックス—叙述実践における／としてのリアリティ構成」
明治学院大学社会学研究科社会学専攻紀要,(17).73-84
————.(1994a)「会話における性カテゴリーの使用」
明治学院大学社会学研究科社会学専攻紀要,(18).69-79.
————.(1994b).「セクシャル・ハラスメントを“読む”」. *Sociology today*, (5), 57-68.
————. (1996).「緊急電話におけるアイデンティティの提示」. *年報社会学論集*, (9), 71-82.
————. (1997). 「気にすること・無視することの分析可能性」. 山崎敬一・西阪仰［編］. (1997)
『語る身体・見る身体』ハーベスト社 pp.99-122.
————. (2002).「相互行為の開始部における同定作業とトピック提示—緊急電話と日常電話の事例から」. *明治学院大学社会学部附属研究所年報*, (32), 41-51.
————. (2003).「異邦人 1： コミュニケーションの齟齬と釈明」. *明治学院大学社会学部附属研究所年報*, (33), 177-188.
森純子.(2004)「第二言語習得研究における会話分析：Conversation Analysis (CA)の基本原則、可能性、限界の考察」*第二言語としての日本語の習得研究* (7), 186-213.
————(2008).「会話分析を通しての「分裂文」再考察：「私事語り」導入の「～のは」節」.
社会言語科学, 10(2), 29-41.
————(2015).「「言いさし」の事例から考える「文」と「行為」：日本語学習者は何を学ぶのか」*日本語学* 34(7), 38-50,
森本郁代. (2001).「地域日本語教育の批判的再検討—ボランティアの語りに見られるカテゴリー化を通して」. 野呂香代子・山下仁［編］『「正しさ」 への問い—批判的社会言語学の試み』,

pp.215-247.
————. (2007a).「コミュニケーションの観点から見た裁判員制度における評議—「市民と専門家との協働の場」としての評議を目指して」. *刑法雑誌*, 47(1), 153-164.
————. (2007b).「裁判員をいかに議論に引き込むか—評議進行の技法の検討」. *法律時報*,79(1), .117-122.
————.(2008).「会話の中で相手の名前を呼ぶこと—名前による呼びかけからみた「文」単位の検討」串田秀也・定延利之・伝康晴編,『「単位」 としての文と発話（シリーズ 文と発話 2）』ひつじ書房. pp.
————(2009).「評議設計はなぜ必要なのか--評議の課題と設計の方法」*判例時報*, (2050), 4-11.
————(2010)「話し手になること、話し手になろうとしないこと—グループ・ディスカッションに見られる長い沈黙から」木村大治・中村美知夫・高梨克也［編］『インタラクションの境界と接続：サル・人・会話研究から』.昭和堂.
————. (2013).「会話の中の「間」と「沈黙」」 *日本語学*, 32(5), 49-62.
————(2015).「裁判員裁判の評議コミュニケーションの特徴と課題—模擬評議の分析から」村田和代［編］『共生の言語学—持続可能な社会をめざして』ひつじ書房.
————.(2017).「市民参加の観点から見た裁判員制度—模擬評議に見る専門家と市民の話し合いの様相と課題」 村田和代［編］『市民参加の話し合いを考える シリーズ話し合い学をつくる 1』ひつじ書房.pp.75-96.
茂呂雄二. (1996).「対話する身体のアーティファクト：Vygotsky の相互行為論的拡張」. *認知科学*, *3*(2), 25-35
————.(2001).「具体性と実践の描出」茂呂雄二［編］『実践のエスノグラフィ』金子書房. pp.22-58.

［や］
矢島毅昌. (2010).「絵本のジェンダー研究・再考：人と物との相互作用による性別カテゴリーの適用に着目して」. *立教大学教育学科研究年報*, *53*, 167-182.
安井永子. (2012).「接続詞「でも」の会話分析研究：悩みの語りに対する理解・共感の提示において」. *名古屋大学文学部研究論集*, (58), 89-102.
————. (2014).「語りの開始にともなう他者への指さし：多人数会話における指さしのマルチモーダル分析」. *名古屋大学文学部研究論集*, (60), 85-99.
————.(2017a).「発話と活動の割り込みにおける参与—話し手の振る舞い「について」の描写が割り込む事例から」片岡・池田・秦［編］『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』くろしお出版.pp.155-175.
————.(2017b).「直前の話し手を指さすこと—直前の発話との関連を示す資源としての指さし」*社会言語科学*,20(1),131-145.
矢田部圭介. (1997).「エスノメソドロジー研究とそうではないもの—ブルデュ-社会理論は非構

築的な非エスノメソドロジー研究でありうるか？」. *現代社会理論研究*, (7), 45-58.
————.(1998).「意味とワーキング—科学と多元的現実の再考」. 張江洋直ほか［編］『現象学的社会学は何を問うのか』.勁草書房 pp.144-166.
————. (2002).「二つの<レリヴァンス>—シュッツとエスノメソドロジー研究」. *ソシオロジスト*, *4*(1), 97-124.
柳町智治. (2007). 「実践に埋め込まれたインタラクション：理系研究室における実験の社会的組織化」. 上野直樹・ソーヤーりえこ［編著］『文化と状況的学習-実践, 言語, 人工物へのアクセスのデザイン』凡人社.pp. 125-153.
————. (2009).「第二言語話者によるインタラクションへの参加と学習の達成 」 *社会言語科学*, 12(1), 57-66.
————.(2014).「日常的実践を組織する能力とその評価」.*国語研プロジェクトレビュー*, 4(3), .205-210.
山内裕.(2017).「文化デザインの分析」 山内裕・平本毅・杉万俊夫［著］『組織・コミュニティデザイン』共立出版.pp.171-194.
山内裕・平本毅.(2014).「闘いとしてのサービス：顧客インタラクションのエスノメソドロジー研究」. *組織学会大会論文集*, 3(2), 41-46.
————.(2016).「組織化における主体と客体の相互反映性—透析治療のエスノメソドロジー」. *組織学会大会論文集*, *4*(2), 69-80.
山内裕・平本毅・泉博子・張承姫. (2015).「ルーチンの達成における説明可能性：クリーニング店のオプション提案の会話分析」. *組織科学*, *49*(2), 53-65.
山口悦司・稲垣成哲. (1998).「科学教育におけるエスノメソドロジーの意義」. *科学教育研究*, *22*(4), 204-214.
山口節郎(1976).「ヴィトゲンシュタインとエスノメソドロジー」*UP(43)*.東京大学出版会 1-8.
————. (1981)「間主観性の社会学」.安田・塩原・富永・吉田編『基礎社会学　第 II 巻　社会過程』東洋経済新報社. pp.195-223.
————.(1982).「現象学と社会学」山口節郎『意味と社会—メタ社会学的アプローチ』勁草書房.pp.74-132.
山崎晶子.(1992) 「社会学方法論とエスノメソドロジーの問題—社会学方法論における他我の存在根拠を求めて」*現代社会理論研究*(2).1-9.
————.(1994).「社会学認識論と研究者の位相」*現代社会理論研究*(4).35-51.
————.(1997).「車椅子使用者の日常的相互行為場面の分析—階段昇降をめぐって」 山崎敬一・西阪仰［編］. (1997)『語る身体・見る身体』ハーベスト社.pp.81-98.
————. (1998). 「身体の拡張—メディアスペースの社会学」. *現代社会理論研究*, (8), 149-162.
———— (1999). 「ジェンダーとディスコース」. *言語*, *28*(1), 66-71.
————.(2016).「「大変同情しています」：自己物語における言語的構成と身体的行為の相互的構成」山崎敬一・やまだようこ・山崎晶子・池田佳子・小林亜子［編著］

『日本人と日系人の物語—会話分析・ナラティヴ・語られた歴史』pp.234-254.
山崎晶子・菅靖子.(2004)「博物館研究」
山崎敬一［編］『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.pp.181-191.
山崎晶子・菅靖子・葛岡英明.(2004)「調査の準備とビデオデータの分析法—博物館調査を事例として」山崎敬一［編］.『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.pp.60-70.
山崎晶子・山崎敬一.(2005).「ジェンダーと会話分析—成員カテゴリー装置としてのジェンダー」*語用論研究*(7),.123-134.
山崎晶子・山崎敬一・鶴田幸恵.(2006).「会話における性別カテゴリーの使用」
山崎敬一・江原由美子［編］『ジェンダーと社会理論』有斐閣.pp. 188-197.
山崎晶子・久野義徳. (2006). 「ハイブリッドサイエンスとしてのエスノメソドロジー：ミュージアムガイドロボットの開発」 *ヒューマンインタフェース学会誌*, *8*(4), 229-234.
山崎晶子・山崎敬一・葛岡英明.(2013).「ミュージアムガイドロボット—デュアルエコロジーをめぐって」片岡邦好・池田佳子［編］『コミュニケーション能力の諸相—変移・共創・身体化』,ひつじ書房.pp.161-189.
山崎敬一.(1981)「位置と意味」*早稲田大学大学院文学研究科紀要*(27).
————..(1982).「常識的カテゴリーと科学的カテゴリー—シュッツとエスノメソドロジー」*社会学年誌*.(23).pp.97-114.
(→山崎敬一 2004『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.2-21.)
————. (1983).「社会的行為論とエスノメソドロジー—社会的行為における規則とレリバンス」*ソシオロゴス*.(7).88-106.
————.(1985).「人間のカテゴリー化について—「私」の社会的コンテクスト」*早稲田大学大学院文学研究科紀要別冊*(12)
(→山崎敬一 2004『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.112-129.)
————. (1987). 「社会的行為における意味と規則」. *人文学報*, (195), p1-26.
(→山崎敬一 2004『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.83-110.)
————. (1990).「いかにして理解できるのか—「意味と社会システム」再考」*理論と方法*,*5*(1), 7-22. (→山崎敬一 2004『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp186-210.)
————. (1991).「主体主義の彼方に—エスノメソドロジーとは何か」.
西原和久［編］『現象学的社会学の展開』.青土社.pp.213-252.
(→山崎敬一 2004『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.22-60.)
————. (1992).「知識と理解」. *法社会学*, (44), p94-100.
(→山崎敬一 2004『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.211-219.)
————. (1993).「ガーフィンケルとエスノメソドロジー的関心.」佐藤慶幸・那須壽［編］『危機と再生の社会理論』.マルジュ社.pp.333-351.
(→山崎敬一 2004『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.61-82.)
————.(1996).「言語と社会関係のダイナミックス」*言語* 25(4).36-42.

(→山崎敬一 2004『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.175-185.)
————. (2000).「組織と技術のエスノメソドロジー：現場学の最前線」.
今田高俊［編］『社会学研究法：リアリティの捉え方』有斐閣.pp.118-139.
————.(2004a)「エスノメソドロジーの方法(1)」
山崎敬一［編］.『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣.pp.15-35.
————. (2004b).「サックスの社会科学へのハイブリッドな関心—『実践エスノメソドロジー入門』刊行に寄せて」. *書斎の窓*, (538), 50-54.
————.(2006).「ジェンダーとエスノメソドロジー—「オールドミス」と「キャリアウーマン」」
山崎敬一・江原由美子［編］『ジェンダーと社会理論』有斐閣.pp.65-74.
————(2011).「ソシアルロボットと社会学的研究—エスノグラフィー・会話分析・エスノメソドロジー」. *日本ロボット学会誌*, *29*(1), 10-13.
————.(2016).「会話分析と日本人と日系人の物語」
山崎敬一・やまだようこ・山崎晶子・池田佳子・小林亜子［編著］『日本人と日系人の物語—会話分析・ナラティヴ・語られた歴史』pp.203-215.
山崎敬一・好井裕明. (1983).「会話の順番取りシステム—エスノメソドロジーへの招待」.
月刊言語, 13-7.
山崎敬一・江原由美子(1993)「沈黙と行為—規範と慣習的行為」 *ソシオロゴス*(17).57-78.
山崎敬一・佐竹保宏・保坂幸正. (1993).「相互行為場面におけるコミュニケーションと権力—〈車いす使用者〉のエスノメソドロジー研究」. *社会学評論*, *44*(1), 30-44.
（→1997 山崎敬一・西阪仰［編］『語る身体・見る身体』ハーベスト社.pp.59-80.）
山崎敬一・上野直樹・高山啓子・上谷香陽・浦野茂・中村和生・岡田光弘. (1995).
「CSCW の相互行為分析—テクノロジーのエスノメソドロジー」.*現代社会理論研究*, *5*, 93-126.
山崎敬一, 鈴木栄幸, & 小山慎哉. (1999). 「会話分析とテクノロジー分析—エスノメソドロジーとディスコースの研究」 *言語*, *28*(1), 28-38.
山崎敬一・三樹弘之・山崎晶子・鈴木栄幸・加藤浩・葛岡英明. (1998). 「指示・道具・相互性—遠隔共同作業システムの設計とそのシステムを用いた人々の共同作業の分析」
認知科学, *5*(1), 51-63.
(改稿→山崎敬一・三樹弘之・山崎晶子・鈴木栄幸・加藤浩・葛岡英明.(2001).
「指示･道具･相互性」加藤浩･有元典文［編］『認知的道具のデザイン』, 金子書房. pp.95-117.)
山崎敬一・三樹博之・葛岡英明・山崎晶子・加藤浩・鈴木栄幸.(2003)
「身体と相互性—ビデオコミュニケーション空間における身体の再構築」
原田悦子［編］『「使いやすさ」の認知科学』 共立出版.pp.75-98..
山崎敬一・葛岡英明・山崎晶子・池谷のぞみ(2004).「リモートコラボレーション空間における時間と身体的空間の組織化」*組織科学* 36,(3).32-45.
山崎敬一, 川島理恵, & 葛岡英明. (2006). 「エスノメソドロジー的研究をいかに行うか」.
ヒューマンインタフェース学会誌, *8*(4), 223-228.

山崎敬一・山崎晶子(1996a).「差別のエスノメソドロジー—場面の組織化とカテゴリーの組織化」岩波講座現代社会学〈15〉差別と共生の社会学』岩波書店.pp.55-74.
(→山崎敬一 2004『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp.130-150.)
————.(1996b)「虚構としての男と女」栗原彬［編］『講座　差別の社会学 第 2 巻　日本社会の差別構造』.弘文堂. pp.167-187.
(→山崎敬一 2004『社会理論としてのエスノメソドロジー』ハーベスト社.pp151-174.)
————(2003).「「見ること」の身体的社会的組織化」『市民社会と批判的公共性』文真堂. pp.163-181.
山崎敬一・山崎晶子・池田佳子. (2013).「社会的絆プロジェクト」. *埼玉大学紀要 (教養学部)*, *49*(2)..165-173.
山﨑けい子・初鹿野阿れ. (2012).「日本語教科書における「修復」の扱われ方：タスク内での役割」 *富山大学人文学部紀要* (57), 25-38,
————.(2017).「日本語教師が日本語学習者に訂正を求める技術」 *富山大学人文学部紀要* (66), 31-42.
山﨑沙織. (2015).「「読めない母親」として集うことの分析：長野県 PTA 母親文庫の 1960 年代から」. *社会学評論*, 66(1), 105-122.
————.(2017).「「本を読む母親」達は誰と読んでいたのか :「創作グループ」の長野県 PTA 母親文庫からの離脱をめぐって」*Library and information science*(77),pp.117-148.
山下淳・葛岡英明・井上直人・山崎敬一. (2004).「コミュニケーションにおけるフィードバックを支援した実画像通信システムの開発」. *情報処理学会論文誌*, *45*(1), 300-310.
山下淳, 葛岡英明, 山崎敬一, 山崎晶子, 加藤浩, 鈴木栄幸, & 三樹弘之. (1999). 「相互モニタリングが可能な遠隔共同作業支援システムの開発」. *日本バーチャルリアリティ学会論文誌, 4*(3), 495-504.
山田恵子(2011).「法律相談過程における「当事者」の確定（１）」.*京女法学*, 245-262
————. (2017).「エスノメソドロジー・会話分析は≪法≫をどう見るのか」. *法社会学*, (83),132-141.
山田鋭生. (2010).「<答え方>に関する知識への学校的社会化—私的経験の説明過程における教師 - 児童間の質問 - 応答に着目して」,*立教大学大学院教育学研究集録*, (7), 35-43.
————.(2015a).「「学級的事実」としての「学習」の達成—授業場面における<文の協働制作>の相互行為分析」. *子ども社会研究*,(21), 151-163.
————.(2015b).「授業場面における板書を用いた教育方法に関する一考察—視線管理に焦点化して」. *立教大学大学院教育学研究集録*, (12), 1-12.
————.(2018).「授業のなかで作られる「事実」と「学級」」 北澤毅・間山広朗［編］『教師のメソドロジー—社会学的に教育実践を創るために』北樹出版.pp.86-99.
山田富秋.(1980).「解釈的パラダイム再考」 *社会学年報*(8).

————. (1981).「エスノメソドロジーの論理枠組と会話分析」 *社会学評論*, *32*(1), 64-79.
————.(1982).「言語活動と文化的相対性—エスノメソドロジーの自然言語をめぐって」 *社会学研究*(42・43 合併号).387-401.
————.(1983a).「常識的カテゴリーの優位性—ガーフィンケルのシュッツ解釈」 *社会学研究*(44).129-148.
————.(1983b).「言語と行動—会話分析の可能性をめぐって」 *社会学研究*(45)..123-142.
————.(1984).「知識論としてのエスノメソドロジー」 *社会学研究*(48).69-87
————.(1985a).「プラクティスとしての文化」江原由美子・山岸健［編］『現象学的社会学—意味へのまなざし』三和書房.pp.193-215.
————. (1985b).「子どもの会話と子どもの世界—会話分析からのアプローチ」. *山口女子大学研究報告 第 1 部 人文・社会科学*, (11), p75-84.
————.(1986a).「博物誌としてのエスノメソドロジー : 解説」*現代思想* 14(14),青土社.165-167.
————. (1986b). 「「一ッ瀬病院」のエスノグラフィー」. *解放社会学研究*, *1*, 62-74.
————(1987a)「あとがき」山田富秋・好井裕明・山崎敬一［編訳］.『エスノメソドロジー—社会学的思考の解体』.せりか書房.pp.311-328.
————.(1987b).「生活世界とコミュニケーション」 鈴木広［編］『現代社会を解読する』ミネルヴァ書房.
————.(1989).「確認・糾弾会のリアリティ—傍観者的コミュニケーション・スタイル vs. ＜いま - ここ＞でのコミュニケーション・スタイル」*解放社会学研究*(3)8-23.
————.(1990).「市民社会をめぐるディスコースの陥穽—現代社会の差別を維持・拡大する「装置」の解読」 *解放社会学研究*(4).32-43.
————. (1991a). 「精神病院のエスノグラフィー」. 山田富秋・好井裕明『排除と差別のエスノメソドロジー』新曜社.pp.179-212
————. (1991b). 「司法場面における「権力作用」—マクロとミクロを結ぶ論理」. *社会学研究*, (58), p73-97.
————.(1992a).「精神医療批判のエスノメソドロジー」好井裕明［編］『エスノメソドロジーの現実 : せめぎあう〈生〉と〈常〉』世界思想社.pp.70-87.
————. (1992b).「調査官面接の会話分析」. *法社会学*, (44),75-80.
————. (1993)「「おせじ」のプロトコル分析—エスノメソドロジーからのアプローチ」 海保博之・原田悦子［編］『プロトコル分析入門 : 発話データから何を読むか』pp.202-220.
————.(1995).「会話分析の方法」『岩波講座現代社会学 3 他者・関係・コミュニケーション』岩波書店.pp.121-136.
————. (1996).「アイデンティティ管理のエスノメソドロジー」. 栗原彬［編］『講座　差別の社会学 1 差別の社会理論』.弘文堂.pp. 77-99.
————.(1997).「シュッツ科学論の今日的意味」 *社会学史研究*(19).19-36.
————. (1998a).「クリティークとしてのエスノメソドロジー」. *情況 第二期*, *9*(1), 86-100.

————. (1998b).「ローカルでポリティカルな知識を求めて」.
山田富秋・好井裕明［編］『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房.pp.56-70.
————. (1998c).「エスノメソドロジーの現在」.
山田富秋・好井裕明［編］『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房 pp.72-87.
————.(1999a)「セラピーにおけるアカウンタビリティ」小森康永・野口裕二・野村直樹［編］
『ナラティヴ・セラピーの世界』日本評論社.
————.(1999b).「会話分析を始めよう」
好井裕明・山田富秋・西阪仰［編］『会話分析への招待』世界思想社.pp.1-35.
————. (1999c).「社会化論の再検討：サックスとファンタジーと遊び」.
龍谷大学国際社会文化研究所紀要, *1*, 155-164.
————.(2000a).「フィールドワークのポリティックス」
好井裕明・桜井厚［編］『フィールドワークの経験』せりか書房.
————.(2000b)「サックスの「社会化論」」
亀山佳明・麻生武・矢野智司［編］『野生の教育をめざして』新曜社.
————. (2000c).「エスノメソドロジーとフーコーを架橋する」. *文化と社会*, *2*, 176-194.
————. (2001a).「成員カテゴリー化装置分析の新たな展開」.『アメリカ社会学の潮流』
恒星社厚生閣:pp.189-210.
————. (2001b)「自由回答のテクスト分析から」鐘ヶ江晴彦［編］『外国人労働者の人権と
地域社会—日本の現状と市民の意識・活動』明石書店.pp,115-135.
————. (2002a).「エスノメソドロジーとフィールド調査」.*フォーラム現代社会学*, *1*, 81-91.
————.(2002b).「相互行為と権力作用」伊藤勇・徳川直人［編］『相互行為の社会心理学』
北樹出版.pp.123-139.
————.(2002c).「精神障害者カテゴリーをめぐる「語り」のダイナミズム」
好井裕明・山田富秋［編］『実践のフィールドワーク』せりか書房
————. (2003). 「相互行為過程としての社会調査」. *社会学評論*, *53*(4), 579-593.
————. (2004a).「エスノメソドロジー・会話分析におけるメッセージ分析の方法」.
マス・コミュニケーション研究, (64), 70-86.
————.(2004b).「子どもの分析—大人が子どもを理解するということ」
山崎敬一［編］.『実践エスノメソドロジー入門』有斐閣 pp.130-142.
————.(2010a).「子ども／大人であること」
串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 pp.58-75.
————.(2010b).「ガーフィンケルとエスノメソドロジーの発見」
串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社.pp.188-204.
————.(2010c).「文献案内：ガーフィンケル『エスノメソドロジー研究』」
串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 pp.264-268.
————. (2011).「ガーフィンケルとハイデッガー—ドレイファスの解釈をてがかりとして」.

松山大学論集, 23(5), 95-121.
————. (2015).「エスノメソドロジーとフィールドワークの分岐点：ガーフィンケルの思想形成から」*松山大学論集*, *27*(4-3), 63-83.
山田富秋, & 野口裕二. (2000). 「研究会記録：第 4 回 臨床社会学研究会 エスノメソドロジーから見たナラティヴ・セラピー」. *家族機能研究所研究紀要*, (4), 210-232.
山田昌弘(1992).「家族であることのリアリティ」.『エスノメソドロジーの現実』世界思想社 pp.151-166.
大和祐子. (2007).「結論への到達を目的とした議論における「私」の表示—日本語非母語話者の意見表明に着目して」. *ことばの科学*, 20, 17-31.
山村賢明. (1982).「解釈的パラダイムと教育研究—エスノメソドロジーを中心にして」. 教育社会学研究, 37(0), 20-33.
（再録→門脇厚司・北澤毅［編］(2008)『社会化の理論：山村賢明教育社会学論集』世織書房.）
山本真理. (2013).「物語の受け手によるセリフ発話：物語の相互行為的展開」. *社会言語科学*, 16(1), 139-159.
————.(2016).「相互行為における聞き手反応としての「うん／はい」の使い分け:「丁寧さ」とは異なる観点から」. *国立国語研究所論集*(10), 297-313.
————.(2017)「不平の連鎖における受け手の「セリフ発話」」柳町智治・岡田みさを［編］『インタラクションと学習』ひつじ書房.
山本綾.(2017).「日本語母語話者-英語母語話者間の初対面会話における関係性の構築と交渉—English, Japan, Japanese をめぐる相互行為の分析」. *学苑*, (924), 10-22.
吉陽. (2017).「ピア・レスポンスにおける学習者の問題点指摘の構造—問題点指摘を開始する連鎖に着目して」*国際日本研究*,(*9*), 43-61.

［ゆ］

［よ］
横森大輔.(2010).「認知と相互行為の接点としての接続表現：カラとノデの比較から」, 山梨正明・辻幸夫・西村義樹・坪井栄治郎［編］『認知言語学論考 No.9』,ひつじ書房, pp. 211-244
————. (2011).「自然発話の文法における逸脱と秩序：カラ節単独発話の分析から」. *言語科学論集*, (17), 49-75.
————. (2014).「漸進的な文の構築—日本語会話における副詞節後置の相互行為秩序」. *日本認知言語学会論文集* (14), 692-697.
————.(2017a).「大学英語授業でのスピーキング活動における「非話し手」の振る舞いと参加の組織化」片岡・池田・秦［編］『コミュニケーションを枠づける—参与・関与の不均衡と多様性』pp.47-68.くろしお出版.

————. (2017b).「言い淀み・フィラー・母音延伸」
日本語学, *36*(4), 140-151.
————. (2017c).「認識的スタンスの表示と相互行為プラクティス—「やっぱり」が付与された極性質問発話を中心に」
鈴木亮子・秦かおり・横森大輔［編］『話しことばへのアプローチ—創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦』ひつじ書房.pp.111-141.
————.(2018).「会話分析から言語研究への広がり—相互行為言語角の展開」
平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実［編］.『会話分析の広がり』
ひつじ書房.pp.63-96.

好井裕明.(1983).「実践的推論の三位相—エスノメソドロジーのトピック」
ソシオロゴス(7).70-86.
————.(1985).「日常現象としての性差別—現代大学生がレポートのなかで描く＜男＞と＜女＞」江原由美子・山岸健［編］『現象学的社会学—意味へのまなざし』三和書房.
pp.216-234.
————.(1987a)「「あたりまえ」へ飛び立つエスノメソドロジーの—用語非解説風解説」
山田富秋・好井裕明・山崎敬一［編訳］.『エスノメソドロジー—社会学的思考の解体』
せりか書房.pp.297-310.
————.(1987b).「「エスノメソドロジーを生きる」ために」
山岸健［編］『日常生活と社会理論—社会学の視点』.慶應通信.pp.114-129.
————.(1988a).「常識的推論と差別してしまう可能性—差別発言を“正当化”する推論構造をめぐって」*解放社会学研究*(2).55-77.
————.(1988b).「エスノメソドロジー—日常生活の批判実践として」
新睦人・三沢謙一［編］『現代アメリカの社会学理論』恒星社厚生閣.pp.235-263.
————.(1989).「確認・糾弾会のストーリー—＜反差別の意志＞を日常生活空間へ痕跡させるプロセス」*解放社会学研究*(3), 24-45.
————.(1990a). 「エスノメソドロジーの社会分析」
徳永洵・鈴木広［編］『現代社会学群像』恒星社厚生閣.pp.87-101.
————.(1990b).「＜今 - ここ＞から＜今 - ここ＞へ—差別問題の社会学的言説の空洞化を超えるために」*解放社会学研究*(4), 65-76
————.(1991)「解放のネットワークをめぐる分析課題（共同研究：解放運動の展開過程と障害者の地域自立・Ⅴ）」*解放社会学研究*(5).78-88.
————. (1992a).「「常識」的推論の権力性とその相対化—確認会・糾弾会のコミュニケーション分析から」. *法社会学*, (44), p87-93.
————.(1992b).「「地域自立の現実」と「福祉」的現実のせめぎあい」
『ノーマライゼーション研究』編集委員会［編］『ノーマライゼーション研究

1992 年版年報』pp.103-113.
————.(1992c)「〈生〉のせめぎ合いと出会う場所—反差別運動のエスノメソドロジーに向けて」好井裕明［編］(1992).『エスノメソドロジーの現実：せめぎあう〈生〉と〈常〉』世界思想社.pp.134-150.
————.(1993a).「識字という力の解読—識字運動のエスノメソドロジーに向けて」*社会福祉法人大阪府総合福祉協会研究紀要*(1)1-14.
————.(1993b).「「施設」の語りかた—ある知的障害者「施設」長の言説分析から」*現代社会理論研究*(3).37-46.
————.(1994a) 「会話分析」
木下冨雄・吉田民人［編］『記号と情報の行動科学（応用心理学講座４）』福村出版.pp.2-19.
————. (1994b).「螺旋運動としてのエスノメソドロジー:「生きられたフィールドワーク」のラディカルな方法として」 . *社会情報*, *3*(2), 91-103.
————.(1994c).「法的言説空間における権力作用の解読」棚瀬孝雄［編］『現代の不法行為法』有斐閣.pp.117.-133
————. (1995).「「失言」が失言になる瞬間—セクシャル・ハラスメントを例に」. *思想の科学 第 8 次*, (29), p30-38.
————.(1996).「「施設に暮らす障害者」という埋め込まれたメッセージ—あるＴＶドキュメンタリーが共生するカテゴリー化実践」*解放社会学研究*,(10), 109-133
————. (1998a).「初期エスノメソドロジーの衝撃力」山田富秋・好井裕明［編］『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房.pp.44-55.
————.(1998b).「社会問題のエスノメソドロジーという可能性」山田富秋・好井裕明［編］『エスノメソドロジーの想像力』せりか書房.pp.142-158.
————.(1998c).「現代市民社会の差別問題—分析手法としてのエスノメソドロジーの批判的検討」青井和夫・高橋徹・庄司興吉［編］『福祉社会の家族と共同意識—21 世紀の市民社会と共同性：実践への指針』梓出版社.pp.249-267.
————.(1999a)「制度的状況の会話分析」好井裕明・山田富秋・西阪仰［編］『会話分析への招待』世界思想社.pp.36-70.
————. (1999b). 「「エスノメソドロジーの権力分析の第 2 章」に向けて—" 差別の日常" という主題」. *情況 第二期*, *10*(12), 257-273.
————. (2000a).「「語らせるワーク」と「語りの様式」—Doing Life History をめぐる諸問題」. *現代社会学*, (1), 7-24.
————.(2000b).「「啓発する言説構築」から「例証するフィールドワーク」へ—排除と差別のエスノメソドロジー再考」好井裕明・桜井厚［編］『フィールドワークの経験』せりか書房. pp.146-160.
————. (2001). 「エスノメソドロジーのイメージをめぐって」. 『アメリカ社会学の潮流』 恒星社厚生閣, .

————. (2003).「「臨床的」実践でもなく「科学主義的」実践でもなく—社会問題の構築主義的フィールドワークの可能性をめぐって」. *文化と社会*, *4*, 82-101.
————. (2004).「差別を語るということ」. *社会学評論*, 55(3), 314-330.
————. (2006). 「エスノメソドロジー」. 新睦人［編］『新しい社会学のあゆみ』有斐閣.
————.(2010a).「女／男であること」
串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 pp.76-94.
————.(2010b).「メディアに接する」
串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 pp.96-115.
————.(2010c).「社会問題とエスノメソドロジー研究」
串田秀也・好井裕明［編］『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』世界思想社 pp.225-241.
————.(2011).「カテゴリー化を今一度見直す—他者と繋がるために」. *理論と動態*, (4), 77-95.
————.(2012).「エスノメソッド—民俗学とエスノメソドロジーの接点とは？」
山泰幸・足立重和［編］『現代文化のフィールドワーク入門』ミネルヴァ書房.pp.223-244.
吉川侑輝.(2017).「チューニング場面の相互行為分析—いかにしてピッチが合うことを成し遂げるか」*三田社会学*,22,85-98.
————. (2018).「プラクティス（練習）のなかのプラクティス—ひとりで行う演奏における「誤り」の理解可能性」*三田社会学*,23,73-86.
吉田敬・鈴木麻友・池田かや.(2015).「失語がある人の会話にみられるいくつかの特徴について：会話分析の失語臨床への応用可能性」*コミュニケーション障害学*, 32(1), 55-62.
吉田民人.(1995). 「ポスト分子生物学の社会科学」. *社会学評論*, *46*(3), 274-294.
————.(2006)「大文字の第二次科学革命」*情報社会学会誌* 1(1),15-32
吉野ヒロ子. (1997).「テクストのエスノメソドロジー—D・スミスと A・マクホールを中心に」. *早稲田大学大学院文学研究科紀要 第 1 分冊*, (43), 79-87.
吉村雅樹・秋谷直矩・佐藤貴宣. (2016). 「歩行訓練における地図習得のプロセス：視覚障害者歩行訓練のエスノメソドロジー」. *ソシオロゴス*, (40), 133-155.
米田憲市. (1995).「企業組織と企業法務：「法役務定義活動」の達成と法的役務の担い手の「地位」」. *神戸法學雜誌*, *45*(1), 113-190.
————. (1997).「「企業法務の歴史」研究へむけて：社会調査を社会的行為として解釈分析する試みから」. *法社会学*, (49),167-172.
————. (1997).「企業組織体における法的役務：法務処理体制の現象構造と法的役務の「専門性」」*神戸法學雜誌* 47(1), 57-124.
————.. (1999).「阪神・淡路大地震と法律援助活動」. *法社会学*, (51), 199-203.
————. (2013).「臨床法学教育場面のビデオ・エスノグラフィー」.
鹿児島大学法学論集, *47*(2), 225-230.
————. (2014).「法律相談・交渉場面のビデオ・エスノグラフィー：「実践の可視化」を用いた臨床教育場面とその意義」. *九州法学会会報 2014* . 28-32

米田憲市・樫田美雄.(2012).「臨床教育のビデオ・エスノグラフィー—高等教育における臨床教育場面の経験的比較研究」*法曹養成と臨床教育*,(5).114-145.

［ら］

［り］

李孝滿.(2011).「会話における割り込みと発話の順番取りシステムに関する一考察」.
言語学論叢 オンライン版 ,4 (通巻 30) . 1-15.

————.(2012).「物語の開始部における会話参加者の相互行為」.
筑波応用言語学研究, (19), 75-86.

劉礫岩, & 細馬宏通. (2016).「カーレースにおける実況活動の相互行為分析：出来事マーカーとしての間投詞と実況発話の構成」. *社会言語科学*, *18*(2), 37-52.

————. (2017).「スポーツ実況における発話による出来事の指し示し：「こ」系指示表現と間投詞「ほら」の相互行為上の働き」 *質的心理学研究*, (16), 46-62.

［る］

［わ］

若松美記子・細田由利. (2003).「相互行為・文法・予測可能性—「ていうか」の分析を例にして」.
語用論研究, (5), 31-43.

和田仁孝.(1992).「「視角」としてのエスノメソドロジー」. *法社会学*, (44).108-110.

渡邉綾. (2018).「日本在住外国人の医療体験に関するインタビュー—言語・非言語資源を用いた共感的反応の協働構築」. *言語文化共同研究プロジェクト 2017*, 23-31.

和智志げみ・浦野茂・永見桂子.(2015)「授乳支援場面における助産師と母親の相互行為：エスノメソドロジーによる分析」. *母性衛生* (55)4,700-710.

【書評】

秋谷直矩. (2017).「ビデオカメラを用いたエスノメソドロジー研究の展開：機材の発展と研究法の進展　Heath, C., Hindmarsh, J., & Luff, P.『Video in qualitative research: Analyzing social interaction in everyday life』」. *質的心理学研究*(16), 223-225.

荒見玲子. (2014).「書評 松木洋人著『子育て支援の社会学: 社会科のジレンマと家族の変容』」. *家計経済研究*, (104), 83-85.

五十嵐素子.(2004).「＜書評＞D.メイナード著, 樫田美雄・岡田光弘訳『医療現場の会話分析—悪いニュースをいかに伝えるか』」 *年報筑波社会学* (16), 122-126.

池谷のぞみ. (1998).「ビデオデータ分析がもたらしたもの—書評：山崎敬一・西阪仰編『語る身体・見る身体』」. *現代社会理論研究*,(8),266-269.

上野直樹.(2009)「書評空間：西阪仰『分散する身体』」 *言語* 38(9).

浦野茂. (2014).「書評 西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂著 『共感の技法: 福島県における足湯ボランティアの会話分析」. *社会学評論*, 65(2), 290-292.

岡田光弘. (1998).「山田富秋, 好井裕明編『エスノメソドロジーの想像力』—エスノメソドロジー研究と「想像力」」. *現代社会理論研究*, (8), 270-272.

————.(2008a).「椎野信雄著『エスノメソドロジーの可能性：社会学者の足跡をたどる』」. *社会学評論*, 58(4), 629-630.

————. (2008b).「倉島哲著 『身体技法と社会学的認識』」. *ソシオロジ*, *52*(3), 203-207.

→((応答))倉島哲(2008)「書評に応えて」 *ソシオロジ*, *52*(3), 207-211.

樫田美雄. (1998).「山崎敬一著『美貌の陥穽—セクシュアリティーのエスノメソドロジー』」. *社会学評論*, 49(1), 149-151.

————(2010).「西阪仰著 『分散する身体—エスノメソドロジー的相互行為分析の展開』」. *社会学評論*, 61(2), 220-221.

樫村志郎. (2013). 「書評 小宮友根著 『実践の中のジェンダー: 法システムの社会学的記述』」. *法社会学*, (79), 229-234.

————. (2015).「ボランティアは被災避難者にいかに共感できるか：書評対象書: 西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂著 『共感の技法: 福島県における足湯ボランティアの会話分析』」. *現代社会学理論研究*, (9), 121-129.

加藤恵. (2018).「書評：松永伸太朗 (2017)『アニメーターの社会学 職業規範と労働問題』三重大学出版会」. *学習院大学大学院政治学研究科政治学論集*, (31), 1-13.

菊地浩平. (2010).「木村大治・中村美知夫・高梨克也編『インタラクションの境界と接続: サル・人・会話研究から』」.*Japanese Journal of Sign Language Studies,* 19(0), 65-66.

北野浩章. (2007). 「書評論文 串田秀也 (2006)『相互行為秩序と会話分析』」. *語用論研究*, (9), 89-98.

北村隆憲. (2017).「研究と実践における映像データの可能性 :『フィールド映像術』(FENICS 100 万人のフィールドワーカーシリーズ第 15 巻) 分藤大翼・川瀬慈・村尾静二 (編)]

(書評特集 質的研究と映像との関係を考える)」*質的心理学研究 (16)*, 215-217.
木村邦博. (1992). 「<書評> 山田富秋, 好井裕明著 『排除と差別のエスノメソドロジー—〈いま - ここ〉の権力作用を解読する』、好井裕明［編］『エスノメソドロジーの現実—せめぎあう〈生〉と〈常〉』」. *理論と方法*, 7(2), 125-127.
串田秀也. (2000).「好井裕明著『批判的エスノメソドロジーの語り』」. *ソシオロジ*, *45*(2), 161-165.
→((応答))好井裕明.(2000)「書評に応えて」 *ソシオロジ*, *45*(2), 165-169
————.(2012).「H. サックス・E. A. シェグロフ・G. ジェファソン著 (西阪仰訳, S. サフト翻訳協力) 『会話分析基本論集——順番交替と修復の組織』」 *社会学評論* *62*(4), 590-591.
————. (2015). 「書評 : 植田栄子『診療場面における患者と医師のコミュニケーション分析』, ひつじ書房, 2014.」 *社会言語科学*, 17(2), 90-92.
小磯花絵. (2010).「坊農真弓・高梨克也 共編 (2009).『多人数インタラクションの分析手法』, 東京: オーム社」. *認知科学*, *17*(2), 377-379.
木畑壽信. (1998).「ジェフ・クルター著 (西阪仰訳)『心の社会的構成—ヴィトゲンシュタイン派エスノメソドロジーの視点』方法の抽象 - 心的現象の言語的構成」. *現代社会理論研究*, (8), 273-286.
佐藤雅浩.(2017).「書評：酒井泰斗・浦野茂・前田泰樹・中村和生・小宮友根編『概念分析の社会学２』」 *社会学評論* 68(1) 170-172
佐野正彦. (2000).「好井裕明著 『批判的エスノメソドロジーの語り-差別の日常を読み解く』」. *社会学評論*, *51*(1), 159-160.
椎野信雄. (1996).「山崎敬一著『美貌の陥穽—セクシュアリティーのエスノメソドロジー』を読む : エスノメソドロジー研究あるいは自然言語(使用)の可能性」*人文学報*, 271,111-123.
霜野寿亮. (1988).「『エスノメソドロジーとは何か』 K. ライタ-著, 高山真知子訳」. *法学研究*, *61*(11), p151-155.
杉浦郁子. (2010).「鶴田幸恵著 『性同一性障害のエスノグラフィ性現象の社会学』」. *社会学評論*, *61*(3), 357-359.
清矢良崇(2005).「書評 : 秋葉昌樹『教育の臨床エスノメソドロジー研究—保健室の構造・機能・意味—』」 *教育社会学研究*(76),304-306.
平英美. (2004).「D.メイナード著,『医療現場の会話分析-悪いニュースをどう伝えるか』 樫田美雄・岡田光弘訳, 勁草書房, 2004.」 *保健医療社会学論集*, 15(1), 54-55.
田中耕一. (1999). 「好井裕明・山田富秋・西阪仰編 『会話分析への招待』」. *社会学評論*, *50*(2), 272-274.
團康晃.(2018).「是永論著『見ること・聞くことのデザイン—メディア理解の相互行為分析』」 *社会学評論*, *69*(2), 262-264.
戸江哲理. (2014).「松木洋人著 『子育て支援の社会学—社会化のジレンマと家族の変容』」. *家族研究年報*, 39, 171-174.
中河伸俊. (1990).「樫村志郎著 『「もめごと」 の法社会学』」. *犯罪社会学研究*, (15), 163-165.

那須壽. (1993).「好井裕明編 エスノメソドロジーの現実」. *社会学評論*, 44(1), 67-69.
西村ユミ.(2009).「≪書評≫『概念分析の社会学 ; 社会的経験と人間の科学』(酒井泰斗, 浦野茂, 前田泰樹, 中村和生 編)」*臨床看護* 35(11).
浜日出夫. (1998). 「西阪仰著 『相互行為分析という視点—文化と心の社会学的記述』—ラディカリズムの復活 (書評論文特集 現代社会学理論の構想力). *現代社会理論研究*, (8), 260-263.
→((応答))西阪仰.(1998).「リプライ—書評にこたえて」.*現代社会理論研究*, (8), 264-265.
中川敦.(2018).「水川喜文・秋谷直矩・五十嵐素子編『ワークプレイス・スタディーズ』」 *社会学評論*,69(1),155-157.
長塚智子.(2010).「『ふつうの外見』や『正当性の獲符』をめぐる実践がもたらすもの —書評：鶴田幸恵著『性同一性障害のエスノグラフィー —性現象の社会学』」 *論叢クィア*(3).174-183.
西阪仰.(1998).「相互行為の「可能性の条件」について—書評：西原和久『意味の社会学 —現象学的社会学の冒険」 *現代社会理論研究*,(8),252-256.
→((応答))西原和久(1998).「リプライ—書評にこたえて」 *現代社会理論研究*(8),257-259.
————. (2001).「盛山和夫著 『権力』」. *社会学評論*, *52*(1), 163-164.
西阪仰・西澤弘行. (2007). 「書評：串田秀也,『相互行為秩序と会話分析—「話し手」と「共 - 成員性」をめぐる参加の組織化』, 世界思想社, 2006」. *社会言語科学*, *9*(2), 93-101.
西原陽. (2009). 「書評 『女性医療の会話分析』 西阪仰 高木智世 川島理恵著」. *研究所年報*, (39), 161-163.
馬場靖雄(2013). 「小宮友根著 『実践の中のジェンダー—法システムの社会学的記述』」. *ソシオロジ*, *57*(3), 167-171
→((応答))小宮友根. (2013).「書評に応えて」 *ソシオロジ*, *57*(3), 171-175.
平本毅. (2014).「西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂,『共感の技法: 福島県における足湯ボランティアの会話分析, 勁草書房, 2013」. *社会言語科学*,16(2), 75-82.
坊農真弓. (2016). 「高田明・嶋田容子・川島理恵(編)(2016).『子育ての会話分析—おとなと子どもの「責任」はどう育つか』京都: 昭和堂」. *認知科学*, *23*(4), 423-424.
細馬宏通. (2009). 「西阪仰,『分散する身体 エスノメソドロジー的相互行為分析の展開』, 勁草書房, 2008. 」 *社会言語科学*, *11*(2), 99-101.
堀聡子. (2015). 「書評 松木洋人著 『子育て支援の社会学: 社会化のジレンマと家族の変容』」. *福祉社会学研究*, (12), 105-108.
前田泰樹. (2007).「串田秀也著『相互行為秩序と会話分析—「話し手」と「共-成員性」をめぐる参加の組織化』」. *社会学評論*, 58(3), 377-378.
三浦耕吉郎. (1992). 「山田富秋・好井裕明 著『排除と差別のエスノメソドロジー』」 *社会学評論*, *43*(2), 193-194.
————. (1993). 「好井裕明編著『エスノメソドロジーの現実—せめぎあう<生>と<常>』」. *ソシオロジ*, *37*(3), 196-200.

→((応答))好井裕明.(1993).「書評に応えて」 *ソシオロジ*, *37*(3), 201-204
水川喜文. (2014).「西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂 著 『共感の技法――福島県における足湯ボランティアの会話分析』(勁草書房, 2013 年)」. *保健医療社会学論集*, *25*(1), 55-56.
宮脇幸生. (1989). 「ハロルド・ガーフィンケル他著, 山田富秋, 好井裕明, 山崎敬一編訳,『エスノメソドロジー: 社会学的思考の解体』, 東京, せりか書房, 1987 年, 328 頁, 2,500 円」. *民族學研究*, *54*(2), 227-230.
毛利康俊.(2013).「法的実践の記述と概念的思考—小宮友根『実践の中のジェンダー』は法律家に何を見せるか」『法の理論 32：特集≪ケアと法≫』成文堂.pp.257-274.
森一平. (2015).「木村育恵 [著]『学校社会の中のジェンダー: 教師たちのエスノメソドロジー』」. *教育社会学研究*, 96, 352-354.
森純子. (2010). 「西阪仰・高木智世・川島理恵,『女性医療の会話分析』, 文化書房博文社, 2008.」 *社会言語科学*, 12(2), 39-42.
森本郁代. (2010).「坊農真弓・高梨克也 (共編),『多人数インタラクションの分析手法』, オーム社, 2009」. *社会言語科学*, 13(1), 151-155.
————. (2018).「高木智世・細田由利・森田 笑 (著)『会話分析の基礎』 ひつじ書房, 2016.」 *社会言語科学*, *20*(2), 25-27.
好井裕明. (1987).「『広場のコミュニケーションへ』 加藤春恵子著」. *ソシオロジ*, *31*(3), 155-159.
→((応答))加藤春恵子.(1987).「書評に応えて」 *ソシオロジ*, *31*(3), 159-163.
————. (2002). 「書評：西阪仰著 『心と行為: エスノメソドロジーの視点』」. *社会学評論*, *53*(2), 283-284.
渡辺秀樹. (1995).「清矢良崇 著,『人間形成のエスノメソドロジー: 社会化過程の理論と実証』, A5 判, 274 頁, 4800 円, 東洋館出版社」. *教育社会学研究*, *57*, 191-192.